令和５年度　いのちの授業　事例集（小学校）【道徳】

掲載数 418

	地区	学年	教科等	テーマ	内　容	参考事項（講師・教材等）
1	川崎市	小５	道徳	生命の尊さ 「命の詩ー電池が切れるまで」」	みやこしゆきなさんが書いた「命の詩」とそのエピソードを読んで、自分の命の大切さについて考えた。毎日元気よく学校に来ている自分たちには病気で入院し、ましてや死んでしまうことがあるなんて考えたこともなかった様子だった。話し合いを進めていく中で、「たった一つしかない自分の命を大切にすることが大事だ」という考えだけでなく、生きたくても生きられない人たちのためにも自分の命をもっと大切にしたいと考えることができた。改めて、命の大切さについて考えを深めることができた。	道徳　５　きみがいちばんひかるとき
2	川崎市	小３	道徳	身近な自然に目を向けて 「ヤゴきゅうしゅつ大作戦」	学校のプールに生息しているヤゴの救出をする取り組みの実例を通して、身近な自然に目を向けながら話し合った。自分たちの身近な地域にも沢山の自然や生き物が生息しており、自然や生き物を守っていくことで、自然や生き物が暮らせる豊かな地域になることや、そこに住む人々の生活を守る事にも繋がる、等の意見があがった。話し合いを通して、自然との関りや生命の尊さについて考えを深めた。	どうとく　３　きみがいちばん　ひかるとき
3	川崎市	小５	道徳	生命の尊さ	みやこしゆきなさんが書いた命についての詩やエピソードを通して、命の大切さについて考えさせ、命のかけがえのなさを自覚し、限りある命を懸命に生きようとする心情になることをねらった。 命の大切さについての話し合いを行った。子どもたちは同じ小学５年生が生きるために頑張って癌と戦っていることを知り、自分の命を大切にするとともに、自分で命を落とす人が出ないようにまわりのことを考えて過ごしたいという意見があがった。	教科書(光村図書) 「命の詩―電池が切れるまで」
4	川崎市	小４	道徳	「しかえししないよ」	いのちがどのくらい続くのかを横軸に表し人生を表した。 事故や病気になると〇〇歳までしか生きることができなかった、動いていたのに心臓が止まってしまったと命の尊さについて考えていた様子。講師の先生の話を聞かせていただいた後、詩を音読し一番心に響いた所に線を引き、周りに伝える活動をした。人によって線を引いた場所に違いがあり、クラスの児童の考えに理解を示そうとしていた。	聴診器を使うことで児童たちが心臓が動いているイメージが持てた。

5	川崎市	小複合	道徳	動物愛護団体のお仕事	国内で殺処分される犬や猫の数を調べ、その現状について考えた。動物を飼っている児童もいるため、この事実を受けてショックを受けている様子だった。ただ、この10年で処分の件数が減少していることも知り、その理由を推測し、話し合った。その後、動物愛護団体の動画を視聴し、新しい飼手を見つけるサービスや、引き取り手のいない動物を飼育する仕事について知識を深めた。犬や猫をはじめ、身近な動物の命について考え、意見を交流することができた。	１～６年　個別支援級
6	川崎市	小５	道徳	生命の尊さ「命の詩 - 電池が切れるまで - 」	みやこしゆきなさんが書いた命についての詩やエピソードを通して、命の大切さについて考えた。「精一杯生きる」とは、どういう生き方について、話し合った。命のかけがえのなさを自覚し、限りある命を懸命に生きようと振り返えることができた。	光村図書「きみがいちばんひかるとき」
7	川崎市	小６	道徳	おじいちゃんとの約束	祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考える主人公を通して、命の重みについて考えた。人間の死の重さや命のかけがえのなさを理解し、精一杯生きることの大切さや、これからどう生きていきたいかを振り返ることができた。	光村図書「きみがいちばんひかるとき」
8	川崎市	小１	道徳	生命の尊さ	おいしさや痛みなど、人間がもち合わせている感覚や感情を想起できる絵を通して、生きていると感じるのはどんなときかについて考えさせた。教科書の絵から同じように感じたことのある出来事を思い起こさせ、日常で自分がどんな時にどんな気持ちになっているかを確かめた。日常生活の中で感じている、当たり前の感情や感覚を大切にしようという気持ちをもたせた。	光村図書１年道徳「みんないきている」
9	川崎市	小２	道徳	生命の尊さ	「ぞうさん」を読み解いた文章を通して、命がつながっているということはどういうことなのかについて考えさせた。教科書の資料と自分たちのお父さんやお母さんを対比さえて、自分も家族と似ているところがあることを確認した。また、祖父母とのつながりも確認することで、命はつながっているという実感を再確認させ、命のつながり、命の大切さについて考えさせた。	光村図書２年道徳「生まれるということ」
10	川崎市	小５	道徳	日本人拉致問題について考えよう	導入では拉致問題は北朝鮮当局が行ったことで、当局以外の北朝鮮の人々や日本に住む朝鮮半島につながりのある人々の責任ではないことを伝えた。アニメ「めぐみ」を視聴し、めぐみさんの気持ちを想像したり、家族が大変な悲しみや苦しみを感じていることや、そんな中でも捜索を続けたり、帰ってきてほしいと行動を続けている家族の助けたいという強い思いを感じていた。風化させないために自分にできることを考え「家族や身近な人に知らせる」「もし自分がなったらと考えて、忘れないようにする」「被害者家族の方に協力したい」などの意見があがった。	北朝鮮による日本人拉致問題啓発ビデオ「めぐみ」

11	川崎市	小１	道徳	しあわせな学校生活を送るためにできること	例年１年生対象に「こどもの権利学習」の一環として「かがやき」を使った授業を行っている。どんな学校生活を送りたいかを子どもに聞くと「楽しい」「安心」等の言葉が出てきた。楽しく安心に過ごすために必要なこどもの権利を５項目に絞り、挿絵を通してクイズ形式で学んだ。「食べる」「寝る」も権利の１つであることに驚く声があがった。また、かがやきの挿絵をから辛い表情でいる時は、何らかの権利が守られていないことを理解し、幸せな学校生活は全員の権利が守られて初めて成立することを学んだ。	「かがやき」を　　つかって
12	川崎市	小３	道徳	生命の尊さ	虫たちがそれぞれの一番大切なものについて話し合う姿が描かれている教材文を通して、命を大切にするとはどういうことか考えた。命は思わぬ事故で一瞬にして消えてしまい、失くしたらもどらないかけがえのないものであり、命は自分だけのものではなく、なくなったら悲しむ人がいることを学び、その上で「命を大切にするために何ができるか」について話し合った。自分の命も他の人の命も生き物の命も大切にしたい、食事をしっかりととって健康でいることが大切、自分の身を守ったり自殺したりしないように体を鍛えたり心を強くしたい、自然災害の時によく考えて行動したい、家族と一緒に過ごす時間を大切にしたいとの意見が出た。	どうとく３年「きみがいちばんひかるとき」
13	川崎市	小１	道徳	みんな　いきてる	まず、毎日どんなことを感じているか意見交流を行った。次に、「みんないきてる」の絵を見て、食べ物を美味しいと感じたりケガをして痛いと感じたりするなど、どんな時にどんな気持ちになるのか確かめた。全体交流では、自分だけでなく、周囲もさまざまなことを感じて生きていることに気づき、当たり前だと思っていた感覚・感情を大切にしたいという思いが生まれていた。	光村図書「道徳」教科書
14	川崎市	小５	道徳	命の詩 - 電池がきれるまで	小学４年生が書いた「電池は取り替えられるが、命はそうではない。だから精一杯生きよう」という詩を読み、取り替えのきかない命について考えた。「命を大切にする」ということは、自分の命だけではなく周りの人の命も大切にすることであり、どのように「命を大切にする」ことができるかを伝え合った。	光村図書「道徳」教科書
15	川崎市	小６	道徳	人権教育「かわさき子どもの権利の日」	かわさき子どもの権利をテーマに６年生全クラスで、「権利や人権」について考えた。１０個の権利を提示し、一人一人大切にしたい権利の順位を決め、グループで共有した。人によって大切にしたい権利が違うことを知り、より相手を思いやる気持ちをもとうとする姿が見られた。一人一人の個性を認め、人権を大切にすることは、よりよい人間関係の構築に繋がると同時に生きる活力にも繋がることにも気付くことができた。個性を認め合い、安心して過ごせる学年への一歩を踏み出せた学習となった。	川崎市ホームページ（参考資料）
16	川崎市	小５	道徳	生命の尊さ	今回扱った教材は、１１歳で亡くなった児童が作った「命」に対する考えを書いた詩と、その児童のエピソードを紹介した解説文で構成されている。自分達と同じ年齢の、生きたくてもそれが叶わなかった児童が作った詩だと知ると驚き、教室の空気が変わった。作者の児童からの、「命ある限り精一杯生きてほしい。」という思いを受け取り、どの児童も真摯に「命」に向き合い、考えていた。「命を大切にする」、「精一杯生きる」ということについて、改めて考えるきっかけとなった学習だった。	きみがいちばんひかるとき（道徳副教材）

17	川崎市	小５	道徳	生命の尊さ	「電池はすぐにとりかえられる/命はそう簡単にはとりかえられない」だから「せいいっぱい生きよう」自殺やいじめのニュースに対し、生きたくても生きられない子がいることを思い、電池の実験から取り替えのきかない命について思いを巡らせた、みやこしゆきなさんの詩を読むことで、命の大切さについて考えを深めた。 命のかけがえのなさを自覚し、限りある命を懸命に生きていこうとする児童の姿が見られた。	光村図書 「10、命の詩一電池が切れるまで」
18	川崎市	小２	道徳	【つながるいのち】 D（17）生命の尊さ	まど・みちおさんの詩「ぞうさん」を読み解いた文章を通して、命がつながっているとはどういうことなのかについて考え、命のすばらしさを感じ、大切にしようとする心情を育てるようにした。 自分と家族が似ているところを見つけたり、先祖の写真を見たことを思い出したりして、自分の命は親からつながっていることを実感していた。また、自分と同じように友達の命もそうやってつながってきている大切なものだということにも気付いていた。	光村図書 道徳教科書　２年 「25　生まれるということ」
19	川崎市	小１	道徳	ちいさなふとん	かつて自分が使った小さな布団に寝ている弟の姿を見て、大きくなった自分を実感する「わたし」。「もうこの布団には寝られなくなったね。」という笑顔の母の姿を受けて、考えたことを交流した。 赤ちゃんはかわいいが、成長するとかわいくないと考えている児童もいたが、自身の健やかな成長を喜ぶ家族の様子を思い出すことで大きくなった自分を誇らしく感じている様子がみられた。	
20	川崎市	小１	道徳	主題 「いきているっていいな」	・内容項目D　主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること （17）生命の尊さ 「生きているなと感じるときはどんなときかな」という問いかけに、「ごはんを食べているとき」「勉強しているとき」「遊んでいるとき」などの答えが児童から返ってきた。教科書の「みんないきてる」の挿絵を見て、同じように感じたのはどんなときかを考えたり発表したりした。授業の振り返りを「学びのきろく」に記入した。	参考資料 「どうとく１」 （光村図書） 道徳の教科書（1年）
21	川崎市	小２	道徳	主題「つながるいのち」 教材「生まれるということ」	まどみちおさんの詩「ぞうさん」を読み解いた文章を通して、命がつながっているとはどういうことなのかについて考え、命の素晴らしさを感じ、大切にしようとする心情を育てることをねらいとした。「命のつながり」に対してこれからどんな道徳的行動ができるのかという発問に対して、「感謝する」や「それらを大切に」、「命をつなぐ者の意思をつなぐ」といった意見をもつことができた。年末の学習だったため、冬休みの帰省等で行動化しようとする前向きな気持ちを抱くことが出来た。	光村図書「きみがいちばんひかるとき２」
22	川崎市	小３	道徳	主題「かけがえのない命」 教材「大切なものは何ですか」	１つしかない命を大切にし、与えられた命を一生懸命に生きようとする心情を育てることをねらいとし、虫たちがそれぞれの一番大切なものを話し合う姿を通して、「命を大切にするとはどういうことか」について考えた。 児童は大切なものとしていろいろなものを思いついたようだったが、それは「自分の命、友達の命があるからこそ」と気付いた。そして、これからは自分や友達の命を大切にしようとする気持ちをもつことができた。	光村図書「きみがいちばんひかるとき３」

23	川崎市	小２	道徳	共生共育 四つの窓 ふくは何色 相手が元気になる聞き方	共生共育プログラムから３つ選び実践した。「四つの窓」では自分と違う好みをもつ友だちを受け入れることを目標とした。「ふくは何色」では情報を聞いたり伝えたりする活動を通して協力することの意味や互いを尊重することの大切さに気づくためにグループで活動した。「相手が元気になる聞き方」では相手を大切にした聞き方について考えた。単発で終わるのではなく、日常でも気にしている様子が見られた。	
24	川崎市	小６	道徳	共生・環境教育 「命の旅」内容項目Ｄ(19)生命の尊さ（光村図書「きみがいちばんひかるとき６年」）	「命の旅」というキーワードから、祖先から命を受け継いでいることや、「食う・食われる」の食物連鎖をイメージしながら、教材を読んだ。自然界では、自らの命をかけて産卵をする動物、自分が生きていくためにその命を食料としてもらっている動物がいることを知った。食べたいときに食べられる、食べ物に困らない自分たちも、その命をいただくことを改めて自覚し、「命がつまっている食事に感謝の気持ちをしっかりともちたい」と振り返る児童の姿があった。	
25	川崎市	小２	道徳	命の大切さについて考えよう	道徳の学習で、車にはねられ生死をさまよう主人公やその周りの人々の姿を通して、命の大切さについて考えた。「周りの人々は、亡くなってしまわないように、体を動かしたり声をかけたりしていてすごく心配している。」「命はなくなってしまうと二度と今の状態にもどれない。」「ゲームみたいにやり直せない。」などの思いを話し合った。自分も辛いけれど、周りのたくさんの人々も辛く悲しくなることやその人や周りの人の将来もなくなってしまうことに気づき、自分たちも気をつけて行動するようにしたいという感想があった。	登下校指導
26	川崎市	小３	道徳	生命の尊さ	道徳の学習で、虫たちがそれぞれの一番大切なものについて話し合う姿を通して、命を大切にするとは、どういうことかについて考えた。友達との交流から、大切に思うものは人それぞれ違うことに気づき、命がかけがえのないものであることを再確認できた。「交通ルールを守って、安全に登下校をしたい。」「食べ物を残さず食べて、健康でいたい。」「兄弟げんかをしちゃうけど、家族だから大切にしようと思った。」など、命を大切にするために、今の自分にできることについて考えることができた。	川崎市の「交通事故発生件数」を参照した。
27	川崎市	小１	道徳	生命の尊さ 「ちいさなふとん」	生まれたばかりの弟の様子から、自分の成長に気づく登場人物の姿を通して、大きくなったと感じることについて考えた。児童たちは、靴や服が小さくなったことや食べられる量が増えたこと、我慢ができるようになったことなど自身の成長を振り返り、これからも成長していきたいと意欲を見せていた。また、これまで育ててくれた両親への感謝の気持ちをもつ児童も多く見られた。	光村図書 どうとく１
28	川崎市	小５	道徳	生命の尊さ 「命の詩～電池が切れるまで」	命についての詩やエピソードを通して、命の大切さや命のかけがえのなさについて自覚したり考えたりした。作者が伝えたかったことは何かを話し合う中で、自分の命を大切にしたい、他者の命も大切にしないといけないなど、多角的に詩やエピソードを捉えることができた。人のためになることをする、目標に向かって少しずつ努力するなど、各自が命を大切にすることは何かについて考えを深めた。	(参考資料) 道徳の教科書 「命の詩」

29	川崎市	小２	道徳	生命の尊さ 「生まれるということ」	まどみちおさんの詩からなる「ぞうさん」の歌を聞き、教材文を読んだ。歌詞を中心に、命が脈々とつながってきていることや自分もまたその一部であることを全体で確認した。「いのちがつながっているとは、どういうことなのか。」について、家族の外見や内面、動植物の命から感じたことなどを、それぞれの経験を話して交流した。また生活科「あしたへジャンプ」で、生まれたときのことを家庭でインタビューする学習と時期を重ねて実施し、自分の存在の喜びをより感じられることをねらった。振り返りでは、生まれてきた喜びや命が受け継がられていることを実感する言葉が見られた。	(参考資料) 道徳の教科書 「生まれるということ」
30	川崎市	小１	道徳	いきているって	呼吸をすることの気持ちよさ、食事をとることの幸せ、学校でみんなと遊べることの楽しさなどは、毎日「あたりまえ」にしている。その「あたりまえ」ができることのよさから「生きていること」のよさを感じる気持ちをうたった詩を用いて道徳の学習を行った。生きているからこそ、自分のすきなことができる、好きなところへ行ける、できなかったことができるようになる喜び等、生きていると何でもできることに気付いた。そこから命を大切にしたいという思いを抱いた。	光村図書「道徳１　きみがいちばんひかるとき」
31	川崎市	小５	道徳	自分の身は自分で守る	物語の人物に心を寄せ、防災や事故に関わる意見を多く表出させた。災害の時には、自分の判断が命に関わること、避難訓練を生かして行動することなどを考えることができた。事故については、受動的な事故はもちろん、自分が起こしてしまうかもしれないことについて考えを深めた。 また、12月の避難訓練と１月の保健体育「けがの防止」とも連動して指導をし、理解や実践的な態度を養った。	光村図書「道徳５　きみがいちばんひかるとき」
32	川崎市	小６	道徳	「いじり」と「いじめ」	学年も終わりに近づき、仲の良い人が決まりだし、その間で自然に発生するのが「いじり」である。クラスでも「いじり」をしている姿をよく見るようになった。笑いを引き出すいじりは、度が過ぎると気が付かないうちにいじめになっていたり、いじられている側もどうしてよいかわからず、そのままにしてしまう可能性がある。 クラスメイトが「いじり」に対してどのように捉えているか、お互いの感じ方を知る活動といじりが暴走し、互いが気づかない間に自死に繋がってしまった例を挙げ、今後「いじり」とどのように向き合っていくか考えた。 いじられる側、いじる側の両方の立場になり考えることで、いじりがいじめの火種になってしまうことや、気づかないうちに命の問題になってしまうということを実感した。	NHK for school「いじめをノックアウト」
33	川崎市	小６	道徳	生命の尊さ 「おじいちゃんとの約束」	子どもたちを見ていると、口癖のように「死ね」という言葉を使っている様子を見かける。この話は、「死」という言葉を簡単に使っていた主人公が、祖父の死を実際に経験し、その言葉の重みや生きることの大切さに気付くという内容である。クラスでも、自分もゲームで負けそうなときに「死ね」と言ってしまったり、「死」に関係する言葉をお笑いに使ったりしてよくなかったなどの振り返りがあった。そして多くの子どもたちから、命を軽く見ず、自分や友達の命を大事にして、前向きな言葉を使って日々一生懸命生きていきたいという意見が出た。	

34	川崎市	小２	道徳	生まれるということ	まどみちおさんの詩「ぞうさん」を読み解いた文章を通して、命がつながっているとはどういうことなのかについて考えた。児童は、自分の命が両親から授かったものだということはわかっているが、授かった命は奇跡の連続であったり尊いものであったりすることを考えるような機会はあまりないため、この学習を通して友達と考えを交流した。子ぞうが他の人（動物）から、「はなが長いのね。」と言われたときの気持ちについて、「お母さんと同じはなをうれしく思っていると思う。」「それぞれの生き物の特徴が伝わって来ているからよいと思っていると思う。」などの意見がでた。子ぞうの気持ちを通して、今の自分の姿や大切な命は、親から受け継がれてきたものであることを感じ、命のつながりを大切にしたいと考えを深めていた。	道徳教科書 道徳学習指導書
35	川崎市	小２	道徳	生命の尊さ	病気のゾウのアヌーラが倒れないように、２頭のゾウが３週間もの間寄り添って支え続けた実話を通して、命を大切に思う心について考え、交流した。飼っているペットの怪我や、家族の病気が良くなった時に命の大切さを実感した児童が多かった。またアヌーラたちの姿から、人間もまた一人では生きていけないこと、家族や友達など他の人の支えがあって自分は生きていることを学んだ。自分の命同様、他の人の命も大切にしていこうと考えていた。	道徳　光村図書２年 「がんばれアヌーラ」
36	川崎市	小４	道徳	生命の尊さ	一人一人の命は、なぜ大切なのかについて考え、話し合いを行った。「生きているしるし」の主人公のちえ子が、自分が生まれたときのことを父親から聞き、考えを巡らせる姿を通して、命は多くの人に支えられ、守られていることを感じ、自分の命も、家族や友達などみんなの命もかけがえのない大切なものだということを実感していた。また、命は失われたら二度と戻らないものだからこそ、大切にしていきたいと考えていた。	道徳　光村図書４年 「生きているしるし」
37	川崎市	小５	道徳	「命の詩ー電池が切れるまで」	みやこしゆきなさんの詩「命」を読み、みやこしゆきなさんの思いを通して命について考え、話し合った。命がもろく、その分大切にしなければならないことを改めて感じた児童が多かった。だからこそ自分の行動が自分や他人の命を傷つけていないか考えなければならないこと、周りの人が必ず助けてくれるからあきらめずに生きようとすることなど、命を大切にする方法を考えた。自分だけではなく周りの人の命も大切にしていこうと振り返っていた。 命は電池のように簡単に取り換えられないものという言葉は児童にとっては印象的な言葉で、響いた様子だった。ゲームの中ではなく現実では同年代の児童でも生きたくても生きられない人がいることは命について考える機会となった。	道徳教科書（光村
38	川崎市	小４	道徳	生命の尊さ	自分が生まれたときのことを父親から聞いた主人公が考えを巡らせる姿を通して、一人一人の命の大切さについて考えさせ、多くの人々に支えられている尊い命を大切にしていこうとする心情を育むことを目標に授業を行った。改めて命というものの尊さを感じ、自分の命だけでなく、周りの人の命も大切にしていきたいと考えていた。	光村図書　4年道徳 「生きているしるし」

39	川崎市	小６	道徳	生命の尊さ	「『命』とは？」というきっかけから、生命の尊さについて考えた。多くの子どもは、自分自身の「命」を繋いでくれたのは、親や祖父母と捉えている。しかしながら、その繋がってきた命の中には、血縁関係の人間だけではなく、医者や友人、生き物等、様々な関わりの中で受け継がれてきた。自分自身が子孫を残すという考えだけではなく、他者と関わっていることが命を繋いでいるという新たな考えが生まれた実践となった。	光村図書　6年道徳「三十八億年の命」
40	川崎市	小３	道徳	自然を守り、生命を尊ぶ心の育成	６月の理科単元には「トンボやバッタを育てよう」という単元があり、道徳科にも「ヤゴきゅうしゅつ大作戦」という教材がある。そこで、学校のプール清掃が始まる頃に「ヤゴレスキュー」と称してヤゴとりを行った。自然を守るために私たちにできることは何かを考えさせ、ヤゴの育成とともに道徳科の学習で自然愛護について考えた。また、道徳科別教材である「生きている仲間」とも関連させ、「どんな人・生き物にも命がある」「ぼくらはみんな生きている」といった考えを出し合いながら生命を尊ぶ心の大切さについて学んだ。	学校のプールにいるヤゴ達（ため池式プール）
41	川崎市	小４	道徳	「いのちをつなぐ岬」	ウミガメの産卵の写真やその保護に取り組む人々の思いを知ることをきっかけに、自然を守るために大切なことについて話し合った。今まで知らなかった命の誕生の経緯について知ることで、生き物と一緒に暮らしていきたいという思いや自然を大切にしたいという思いを学級で共有した。生き物の命を守ることが地球を守ることに繋がることに気が付き、自分たちの生活を改めて見つめ直そうとしていた。また、それに伴って自分の命の大切さについても考えるきっかけとなった。	
42	川崎市	小１	道徳	生命の尊さ（命の大切さ）	本時では、息をしたり、食べたりする当たり前のことは、生きているからこそできるという詩を通して、生きているからこそできる当たり前のことを喜び、命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとして設定した。詩をきっかけに、「生きているからできること」を自分たちでも考えた。さらに、「生きていていいな」と思うことを話し合い、当たり前にある命の大切さについて考えた。発達段階から考えても、普段の生活の中では、命について考える機会がない子どもたちにとっては、学習活動を通して、当たり前の大切さについて考えるきっかけとなった。	道徳①きみがいちばんひかるとき（光村図書） 『いきているって』
43	川崎市	小５	道徳	生命の尊さ（命の大切さ）	本時では、命のかけがえのなさを自覚し、限りある命を懸命に生きようとする心情をねらいとして設定した。教材のみやこしゆきなさんの詩「命」とゆきなさんを紹介する文から自他の「命」や「命の大切さ」について考えた。詩中の「精一杯生きる」という言葉に着目し、「精一杯生きる」とはどのようなことか、そのために自分はどんなことができるのかを想像し、話し合った。本時では、命のかけがえのなさを自覚し、限りある命を懸命に生きようとする心情をねらいとして設定した。	道徳⑤きみがいちばんひかるとき（光村図書） 『命の詩――電池が切れるまで』
44	川崎市	小１	道徳	いのちの授業 ～いのちの音を聴こう～	聴診器と心音拡大器をを使って、児童一人ひとりの心臓の音を聞いた。初めて聞く心臓の音に、驚いたり喜んだりする児童の姿があった。また、自分や友だちの心音を聞き比べ、音の大きさや速さがそれぞれ異なっていることにも気付いていた。人間だけでなく動物も同じように生きているのだということを考えるために、動物の写真パネルを見たり、お話を聞いたりして、動物の気持ちについても想像することができた。	講師は、多摩区役所地域みまもり支援センターの職員。 パネルや聴診器、心音拡大器などを活用することで、具体的なイメージができた。

45	川崎市	小５	道徳	「同じでちがう」	「同じでちがう」を読み、自分と友だちの同じところとちがうところを見つけて交流し合った。その後、「ちがうからこそすばらしい世界ができる」ということについて自分の考えを話し合った。「それぞれ違うから楽しい。」「考えの違う人と協力するからよりよくなる。」「みんなちがうからみんながいいんだ。」など、違いがあることが素晴らしいという意見が出た。「一人一人の違い」や「命」を大切にすることについて、あらためて皆で考えることができた。	（参考資料） 道徳「きみがいちばんひかるとき」 光村図書出版株式会社
46	川崎市	小５	道徳	生命の尊さ	病気と闘う女の子が小学５年生のときに書いた詩「命」を読み、詩に込められた「生きたくても生きられない人がいること」「自分の命も人の命も大事にしてほしい」といった思いを子どもたちは真剣に受け取っていた。命について自分なりの考えをもち、一人一人が「命の詩」を書き、自分の考える命の大切さを表現することができた。	道徳「命の詩 - 電池が切れるまで」
47	川崎市	小４	道徳	いじめ防止	いじめの事例をもとに、児童がいじめについて理解を深め、事例を自分に重ねて考える授業。いじめられた人もいじめた人も心が傷つくことを知り、自分のことも友だちもことも大切にしようという気持ちをもった。	NHKいじめから逃げない３年２組　４月からの挑戦を参考にした。
48	川崎市	小３	道徳	生命の尊さ	虫たちがそれぞれのいちばん大切なものについて話し合う姿を通して、命を大切にするとは、どういうことかについて考えさせ、唯一無二の生命を大切にし、与えられた生命を一生懸命に生きようとする心情を育てた。	光村図書どうとく 題材 「大切なものは何ですか」
49	川崎市	小２	道徳	生命尊重～つながるいのち～	まど・みちおさんの詩「ぞうさん」を読みといた文章を通して、命がつながっているというのはどういうことなのかについて考えさせた。「お父さんに似ているといわれたことがある」とか「お兄ちゃんと似てるよ」など、身近な命のつながりに目を向けながら、命が長い間にわたってうけつがれてきて、自分が存在していることを改めた感じることができた。さらに生きることの素晴らしさ、自他の生命を大切にする心情を育むことができた。	・１月教材「空色の自転車」につながる
50	川崎市	小４	道徳	「生きているしるし」	登場人物が自分が生まれた時のことを父親から聞き、考えを巡らせる姿を通して、子どもたち一人一人が命の大切さについて考えるきっかけとなった。自分たちも多くの人に支えられ、守られていることに気づき、命を大切にしていこうという思いをもった児童が多かった。また、自分たちもまわりの人や動物の命を大切にしていきたいという感想を発表する児童もいた。	
51	川崎市	小６	道徳	命をつなぐ 「生命の尊さ」	「命の旅」という教材文を使って進めた。教材文は「動物」を中心に「命」を考えるものだが、授業では、動物から「人」につながるように展開した。北海道の知床の動物たちの生きる姿、新しい命を残すために死んでいく姿、その命を食べるという人間の営みを通して、「命の旅」という題名の意味を考えていった。自分の命は他の多くの生命の上に成り立っていることを知り、改めて「ありがとう」「いただきます」の言葉に込められた意味についても考えることができた。命をつなぐ大切さについても学んだ。周りの命を大切にしようという意識が芽生えた児童も見られた。	教科書　光村図書6年 「命の旅」

52	川崎市	小２	道徳	つながる命 「生命の尊さ」	はじめに題材で取り上げられている動揺「ぞうさん」の歌を全員で歌い、歌の内容についてイメージを広げた。次に「ぞうさん」の歌詞を読み解いた「生まれるということ」を読んだ。歌詞に出てくる「お鼻が長いのね」に対して「かあさんもながいのよ」と子象が答えた時に、どんな気持ちで答えたかを考えていった。児童の振り返りには「いろいろな命がつながって生きているんだと気づいた。」「命を大切にしようと思う。」などというものが多く見られた。命がつながっているということはどういうことかを考え、命を大切にしようという心を育むきっかけになった。	教科書　光村図書２年 「生まれるということ」 歌：「ぞうさん」 （作・まどみちお）
53	川崎市	小２	道徳	生命の尊さ 「がんばれアヌーラ」	「がんばれアヌーラ」を読み、ゾウたちが支え合う様子を見た飼育員の気持ちを考えることを通して、児童は命の大切さについて考えた。また、人間だけでなく動物たちも支えあって生きていることに気付いた。学習の最後には、自分の生活の中で家族や友だちが病気になったり、怪我をしたりした時に自分はどんなことができるかについて考えた。	
54	川崎市	小４	道徳	命とはどのようなものか 「生き物と機械」	「生き物と機械」を題材に、本物の犬とロボットの犬の違いを特徴をもとに考えた。ロボットの犬は壊れても直すことができるが、本物の犬は怪我を治す力があるが、死んでしまったら生き返ることはないことに気付いた。それらの違いから生き物とはどのような特徴があるか、また、命がどのようものか考え、命の大切さや一人ひとりに与えられているただ一つのものであることを捉えてさせた。	
55	相模原市	小１	道徳	生命尊重 「どきどきどっきんぐ」 「ぼくのアサガオ」	道徳「どきどきどっきんぐ」で、自分にはいのちがあることを心臓の鼓動を聞くことを通して実感し、そのいのちは家族からもらったかけがえのないものであることを学習した。その後「ぼくのアサガオ」という学習で、自分たち色々なもにが育てているアサガオも自分たちと同じ「いのち」であることに気づき、色々なものにいのちがあること、同じように大切にしていくことに気づき、さらに学びを深めた。	
56	相模原市	小３	道徳	生命の尊さ 「いただいた命」	道徳「いただいた命」という教材から、生命の尊さや「助け合って生きているということ」について考えた。白血病になった小学校３年生の女の子の闘病記録を読み、病気を知らされたときのお母さんの気持ちや退院した後の女の子の気持ちを考えた。女の子がたくさんの同級生から励ましの手紙をもらったり、たくさんの人から輸血の血をいただいて病気を克服したことから、「いただいた命」とはどういう意味なのかを話し合った。	
57	相模原市	小２	道徳	生命尊重 （いじめ防止）	大切な人についての価値を値段で考えさせた。子どもたちは値段をつけれない・高い値段などを考えた。そのあとに「人体の成分表」の資料で、人間は３０００円程度の成分から体がなり立っていることを確認した。子どもたちの持っている意識とのズレを理解させ再度大切な人についての価値を値段で考えさせた。やはり値段をつけれない・高い値段などを考える児童が多かった。理由まで踏み込み発言させ、①命はお金と対等でないこと②みんなの命は家族や関わる人などの気持ちと結びつぃていることなどを全体で共有した。命の大切さと結びつけて「いじめを許さない」心構えを高めるために、もう一歩踏み込み「いじめ」でなくなってしまった学生の記事を読み上げた。その結果、自分たちで守れる「命」があることも気付かせた。命の重み、いじめ防止の一つの糧となってくれることを願う。	

58	相模原市	小４	道徳	生命の尊さ 「走れ江ノ電　光の中へ」	道徳「走れ江ノ電　光の中へ」という教材から、生命の尊さや「ありのままの自分とは何か」「生きること」について考えた。思い心臓病を患った主人公に父親が「ともくんはともくんのままでいい。」と言った気持ちを考えていった。人は、だれかに何かしてあげることはできなくても、生きているだけで十分素晴らしいということ、生きているだけで周りの人を幸せにしていることを話し合った。自分に置き換えて考えたり、友だちの考えを聞いたりしながら、「命が大切なことは当たり前に知っていることだけど、たった一つの命を大切に生きているということが何より素晴らしいことなんだ」ということを子どもたちが理解できた。	
59	相模原市	小６	道徳	「命の重さはみな同じ」	道徳の教科書の中から『命の重さはみな同じ』を通して、かけがえのない命について考えた。捨て猫を思う人々の“足を切断する手術をするのか”“足をなくしてまで生きることは猫にとって幸せなことなのか”という立場によって異なる捨て猫への思いから、捨て猫の命の重さについて話し合いを行った。猫が生き続けることで人々に与える希望や夢があることに気づいた。最初は命について「大切なもの」「一つしかないもの」と考える児童が多かったが、振り返りでは「命は助け合うことでつながっている」「命があることで自分もみんなも幸せになる」と命の大切さについてより考えを深めることができた。	東京書籍６年
60	相模原市	小６	道徳	生命尊重 「お母さんへの手紙」	重い心臓病で亡くなった佐江子さんが、大きな手術をする前に、お母さんに書き残した手紙をもとにした話。手紙の中には、今までの感謝の気持ちや将来お母さんを支えていきたいという願いが綴られている。家族の支え、命はかけがえのないもの、大切なものだということを考えた。また、担任の講話で命の自らの経験について、命の誕生について話し「皆の命は大切」「命の誕生の奇跡」を考えた。	道徳 「お母さんへの手紙」
61	相模原市	小１	道徳	「まりちゃんとあさがお」	おばあちゃんからもらった種から、初めてアサガオを育てた主人公は、一生懸命に水やりをして、きれいな花を咲かせた。ある日その花がしぼんだことにショックを受ける。そんな主人公に、おばあちゃんが「咲いた後には、やがて新しい命が生まれるの。そして、種の赤ちゃんが生まれて、命はつながっていくのよ。」と教える。「命はつながっていくんだな。」とつぶやく主人公に、自分たちのアサガオを育てた体験を重ねて、「人間と同じで、アサガオも命をつなげているんだな」と気付いた児童もいた。	参考資料 小学校道徳　読み物資料集（文部科学省）低学年教材 「まりちゃんとあさがお」
62	相模原市	小４	道徳	命	始めに、自分の命を大切にするとはどういうことかを考えた。安全に気をつける、よく食べるなどが挙げられた。その後、「命」の詩を読んだ。読んだ後にこの詩を書いた子は４年生であること、この詩を書いてから亡くなっていることを伝え、この子の詩に込めた思いを考えた。最後に、再び「命を大切にするとは」を考えると、毎日を楽しむこと、一生懸命生きることが大切だと発表があった。	詩：宮越由貴奈「命」
63	相模原市	小５	道徳	生命尊重	道徳の教科書に記載されている「コースチャぼうや」が実話であることを伝えると、子どもたちは少し衝撃を受けながらも、興味をもって聞いていた。教科書には記載していない情報についても触れることで、さらに、一つの命の尊さについて深く考える時間となった。	コースチャぼうやを救え 内容項目「生命の尊さ」

64	相模原市	小６	道徳	「お母さんへの手紙」	主人公が母に宛てて書いた手紙から、誕生の喜びや死の重さについて知り、かけがえのない命を大切に生きていこうということについて意見交換をした。	主人公佐江子さんの生い立ちの資料
65	相模原市	小２	道徳	「ゆきひょうのライナ」 「いのち」について考える	いただいた「いのち」を精一杯生きること,「いのちはつながっている」２年生なりに、命について考える１時間とした。普段の生活で「生きること」「食べること」をもう一度見直してみた。	
66	相模原市	小４	道徳	「バルバオの木」	すんでいた場所が気温上昇･日照りのため新天地を目指す動物たちのため、自身の体を差し出したバルバオの木を通して、「命のつながり」について考えた。授業の中で、子どもからは「命のサイクル」「つながってるんだね」などの発言があったことから、おおむねねらいは達成できたと感じている。また「命のつながり（命の連続性）」だけでなく、「バルバオを食べたら、バルバオが死ぬ。バルバオを食べなければ、自分が死ぬ。どうしたらいい？」など「命はかけがえのないもの（命の唯一性）」である」ということにも気づき、葛藤する姿が見られた。	東京書籍 「新しい道徳４」
67	相模原市	小１	道徳	いきものに　やさしく 「ぼくの　あさがお」	主人公である「ぼく」と、自分自身を重ねなが教材文を読み進めた。芽が出た時の感動や、水やりを忘れてしまった経験などを想起し、生き物に対して優しい心をもって世話をすることの大切さについて考えていた。終末には、あさがおへの手紙を書く活動を通して、これまでのあさがおと関わりについて振り返ったり、命の大切さについて考えたりしていた。また、今後のあさがおの世話に対して、意欲を高める子どもの姿が見られた。	講師：1年1組担任 落合洸一教諭 教材：道徳の教科書 「東京書籍」 Ｐ３２～Ｐ３３ 「あさがおへの手紙」
68	相模原市	小６	道徳	いのちについて	谷山千華さんが６年生の頃に書いた作文をもとに絵本となった『７８円の命』を読み、いのちの価値・平等について話し合った。保護猫が殺処分されるときにかかる１匹の費用が７８円と聞くと、児童も驚いた様子だった。そこから保護猫、地域猫、TNR活動についてについて伝え、自分たちにできること、これから意識したいことを考えた。すでに保護猫やTNR活動について、知っている児童もおり譲り受けて飼育している話を発表してくれる児童もいた。	講師：担任 教材：『７８円の命』
69	相模原市	小複合	道徳	阪神淡路大震災について考えよう	1995年1月17日に阪神淡路大震災があったことを知り、災害にあった人々の思いや地震の被害について考えた。まず、建物が崩れている写真や火事が起きている写真を提示し、その時の人々の気持ちを考えた。次に避難所で過ごす人たちの写真を提示し、その時の人々の気持ちを考えた。知らない人たちと共同で生活するためには、約束や決まりを守って、互いに譲り合って行動することの大切さを学び、日常生活で活かしていくには自分は何ができるかを考えた。	・阪神淡路大震災で起こった災害の写真 ・支援級

70	相模原市	小１	道徳	生きていることのすばらしさ	生命の尊さについて、児童はなんとなく理解してはいるが、実感を伴って生きていることのすばらしさを感じ取っている児童は少なかった。そこで、「どきどき　どっきんぐ」という題材を読んだ。この題材では、抱いたうさぎと自分の心臓が重なった感動を早く母親に伝えたい「わたし」が、玄関先で転んでしまい母親に抱きしめられる。母親と自分の鼓動が重なると、だんだん鼓動が速くなっていくことに気付くという話である。 本授業では、鼓動が速くなるのはどうしてか話し合った。そして、１つずつ命があるということに気付き、自分や周りの人、動植物などの命を大切にしたいと考える様子が見られた。	東京書籍「あたらしいどうとく①」
71	相模原市	小複合	道徳	生命尊重	子どもたちが昆虫などを捕まえても、世話もせず放置する事例があったことから、本教材の題材を用いて学習を行った。昆虫の事例だけだと理解しにくいと考え、昆虫が自分、そして、大男に捕まったという例えのお話で考えると、様々な困り感を実感することができた。元の昆虫におきかえて考え、餌を入れたり、すみかとしての快適性を意識したりする考えの他、世話ができないようなら逃がしてあげるという優しい気持ちをもつ児童もいた。	支援級２．３．５年 参考教材： 「人権の花」 道徳教材資料 「小さないのち」
72	相模原市	小３	道徳	いのちを生かす	主人公の「ぼく」は、東日本大震災の日、体育館に避難し、父母に会えない不安に耐えながら一夜を過ごす。翌日父母に会えて安心したものの、祖父母が亡くなったことを告げられる。深い悲しみの中で、祖父に買ってもらったランドセルを目にして気持ちを切り替え、いっぱい勉強して優しい人、みんなの命を救う人になりたいと考える。児童たちは、生きている命を大切にして前向きに一生懸命生きようとする心について語り合いながら、命の尊さについて考えを深めた。	担任(元山) 新しい道徳(東京書籍) 「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね」
73	相模原市	小６	道徳	感謝の心を持つ	平成5年、鹿児島に百年に一度という大雨が降った。豪雨のため、崖が崩れて道路と線路がふさがれてしまう。逃げ場を失った650人の人々。脱出の指揮をとったのは、そこに居合わせた警察官2人だった。1人の警察官は土石流に押し流されてしまったが、必死になって全員の命を守った。児童は、自分達の生活が、互いの助け合いや協力によって成り立っていることについて考えを深めた。	担任 新しい道徳(東京書籍) 「土石流の中で救われた命」
74	相模原市	小５	道徳	おばあちゃんが残したもの	亡くなったおばあちゃんから様々な思い出や学びがあった主人公。前向きな主人公の姿からつながりの中にある生命を感じ、かけがえのない生命を尊重し、大切にしようとする思いをもつことができた。また、自分自身のこれからの生き方について考える姿も見られた。	
75	相模原市	小１	道徳	いいところ見つけをしよう。	児童に付せんを配り友だちのよいところをを記入してもらった。①グループの友だち②伝えたい相手にという順番で行った。友だちからあがった自分のよいところを確認し、感想を書いた。自分では気づかなかったよいところに気づくきっかけとなった。	

76	相模原市	小５	道徳	いろいろな人の感じ方や気持ちを理解しよう。	感覚過敏の児童についての理解を深めるために行った。感覚過敏の児童が何に困っていて、どうすればその子も含めてみんなが快適に過ごすことができるのかNHK for Schoolを活用しながら授業を行った。人の感じ方は様々で自分が当たり前に思っていることがすべての人にとって当たり前ではないことに気づくよいきっかけとなった。	NHK for School「u&i」
77	相模原市	小６	道徳	人権を守るとは	自分が気付かないうちに、相手を傷つける言葉を言っていないかを考え、相手に気持ちを考えるとは、自分を基準にしないことであることを知る。 新潟県警の動画を見ながら、大人になるとそれは犯罪になることを知り、自己の生活態度を振り返る。	新潟県警察公式YouTubeチャンネル
78	相模原市	小１	道徳	生命の尊さ「どきどきどっきんぐ」	主人公がうさぎを抱っこした時、自分の心臓とうさぎの心臓が重なり合い、うさぎが生きていることを実感する。その後、母親との心臓とも重なり合い、生きていることの素晴らしさを味わう話。	※今年度は、１１月を「いのちの授業一斉月間」とし、各学年で、性教育月間と合わせて、生命のかけがえのなさに気づき、敬い、尊ぶ気持ちをもてるようになること、生命ある全てのもののそれぞれの立場で、その生命について考えられることをめあてとして取り組んだ。
79	相模原市	小２	道徳	生きる喜び「ぼく」	「ぼく」が一番好きなものは「ぼく」ということの意味を自分との関わりの中で考えることにより、うれしい、楽しいと思える瞬間が生きているからこそ味わえる喜びなのだと捉えられるようにする。	
80	相模原市	小５	道徳	友情・信頼、相互理解・寛容「こんなとき、どうする？」	その場にいない人の陰口を言われたとき、つい同調してしまい、その後本人も気持ちが晴れなかったり、言われた子に伝わり、トラブルになったりすることがあるため、そのような状況になったとき、どのように行動することが望ましいのか、ロールプレイを通して学んだ。また、同様に友達によって態度を変えず、公平に接するための考え方についてもロールプレイを通して学び、一人ひとりの人権を尊重することの大切さについて学習した。	「モラルスキルトレーニングプログラム」（明治図書）を参考に行った。
81	相模原市	小３	道徳	生命尊重	「いのち」のハンドブックの中の「命」という院内学級に通う児童の詩をもとに『命の尊さ』や『一度きりの限りあるもの』ということについて考える展開。 ・何があっても生きようと思う。 ・命の電池が切れるまで生きないともったいない。 ・ゆきなさんの気持ちをうけとって今度はぼくが大人になるまで生きたい。 ・一度きりだからかんたんには「死にたい」とは言ってはいけない。 ・もらった命はむだにしない。いろいろな人にかんしゃしたい。 ・友だちにやさしくして友だちの命も守ろうと思いました。 ・今の人生をやり残しがないように、せいいっぱい生きたい。 ・ゆきなさんは自分を勇気づけるために言っているだけでなく、周りの人にも命の大切さを伝えたくてこれを書いているすごい人。 ・私の選択次第で命を無駄にすることにもつながるから気をつけたい。 といった感想が児童から出た。	

82	相模原市	小４	道徳	生命尊重	○４年生道徳の教科書の『バルバオの木』という教材で学習をした。 ○内容項目：生命の尊さ ○主題名：受け継がれる生命 ○ねらい：受け継がれる生命のたくましさやすばらしさを知り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。 ・食事をするときは、必ず「いただきます」と「ごちそうさま」を言うようにしたいです。 ・みんながつながっていて、一つでも欠けちゃうと、動物たちが飢えてしまうと分かった。 ・食べ物を食べられるということは、動物の命をいただいているということなので、その命を大切　にして感謝したいです。 　といった意見が、児童から出た。	
83	相模原市	小５	道徳	そういうものにわたしはなりたい	宮沢賢治の生き方について考えた。賢治の「ふるさとのために」「自然のために」「人のために」という考え方が表れた生き方をしり、賢治の生き方に感銘を受ける児童がほとんどだった。その後、題材名にある「そういうものにわたしはなりたい」には賢治のどんな思いがこめられているかについて話し合った。「自分の理想を追求したい、つらい思いをしている人を助けたい、自然にもっと触れて感じてほしい」などたくさんの考えが出た。最後は、「自分は人の為に何ができるだろう、賢治のように人の為に行動できる人になりたい。」など、自分のありかたについて考える児童もいた。	新しい道徳５
84	相模原市	小６	道徳	「尊重しあえる人間関係」	・体の変化、考え方、生き方の個人差 ・将来を描く（最終学年への最後の話） ・尊重しあえる人間関係（ＬＧＢＴにも触れる）	本校は、２・６年生の他に、４年生も第二次性徴について授業をしている。
85	相模原市	小６	道徳	個性 「みんなちがってみんないい」	市内出身のパラリンアーティストの作品をもとに、卒業制作（自画像）を行うこととした。制作にあたり、作者のかいた絵本を読み聞かせるとともに、作者の生い立ちや作品に込められた想いについて校長が講話をした。絵本の内容を知っている児童は大半だったが、作者の生い立ちや想いを知ることで、自分や相手の個性の大切さ、それを認め合うことのすばらしさについて考えることができた。現在卒業制作に取り組んでいる途中ではあるが、自分のいいところや好きなところだけでなく、苦手なことや直したいところも見つめ、それを自分らしさとして作品に表現しようしている児童が多かった。	絵本「かなわね」 移動式MISA美術館を校内で実施、作品の鑑賞は全学年行った。
86	相模原市	小１	道徳	生きていることのすばらしさ	『どきどきどっきんぐ』では、「生きていることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てること。」がねらいであった。 　聴診器を用いて、自分や友だちの心臓の音を聞くことで、当たり前ではあるが、自分や他者が生きている存在であるということを実感させた。また、児童にとって身近な誕生日の話題から、誕生日を喜んでくれる存在、「家族」についても目を向けさせた。自分が周りから愛される存在であること、かけがえのない大切な存在であることに気づかせるとともに、自分自身を大切に思う気持ちがもてるよう指導にあたった。	１年道徳 『どきどきどっきんぐ』

87	相模原市	小２	道徳	「命」について道徳教材「ゆきひょうのライナ」	教材を読み、厳しい寒さの中を生き抜く動物の姿について児童に考えさせた。話し合い活動の中で、他の生き物を捕食することの是非について葛藤が生まれる様子が見られた。児童のふり返りには「自分なら、食べる（食べない）。なぜなら…」と、自他の命に対する考えを書いている児童が多かった。また、少数ではあるが、「他の生き物を殺して食べているのだから、感謝して、給食を残さないようにしたい」という気持ちをもつことができた児童もいた。	東京書籍「あたらしい道徳２年」「ゆきひょうのライナ」
88	相模原市	小１	道徳	生命の尊さ『どきどきどっきんぐ』	鼓動が重なることで、それぞれに命があること、ドッキングすることで、繋がりがあることを考えた。抱いたうさぎと自分の鼓動が重なった感動や、転んでしまった自分と抱きしめてくれた母親の鼓動が重なったときの安心感について、なりきる中でイメージしていった。児童は、鼓動が速くなったり、遅くなったりする体験を通して、命の力強さや大切さについて、それぞれの考えをもった。	東京書籍新しい道徳『どきどきどっきんぐ』
89	相模原市	小３	道徳	「今、生きている」ということについて考える。	かながわ「いのちの授業」ハンドブックＰ９「命」の資料を参考に授業実践をした。資料のゆきなさんが書いた「命」という詩を学級で読み、詩に込められたゆきなさんの命に対する思いを想像し、自らの命に対する考えを共有し合った。授業後のふりかえりでは、「今の命を大切にして生きたい」「かんたんに死にたいなんて言ってはいけない」「生きることがつらくなったらたいせつや友だちや親のことを考える。」など今生きていることはかけがえなないことであると考える児童もいた。	かながわ「いのちの授業」ハンドブックの指導案を参考に授業を展開した。
90	相模原市	小４	道徳	「人と生きもののかかわり」「食べる（いのちをいただく）」ということについて考える。	かながわ「いのちの授業」ハンドブックP11「かわいそう、しかたがない、あたりまえ」の資料を参考に授業実践をした。ワークシートの内容をクロームブックを活用し児童に発問を投げかけた。人間は、命あるもの（肉や魚）をいただき命をつないでいるということについての問いかけや「ごちそうさま」と言う時に込めるべき気持ちを学級で共有した。授業後のふりかえりでは、「これからは、作ってくれた人だけでなく、材料になってくれた生きものにも感謝したい。」など考えに変容がみられた児童もいた。	かながわ「いのちの授業」ハンドブックの指導案を参考に授業を展開した。
91	相模原市	小４	道徳	生命の尊さ	病気で入院したことをきっかけに、自分の命を感じ、身近な何気ないことや物に幸せを感じる「わたし」の話を通して、児童一人ひとりが命について考えました。	「わたしの見つけた小さな幸せ」
92	相模原市	小２	道徳	生命の尊さ	自分の好きなものやいいところを考えることを通して、日々の生活体験の中から、生きていることのすばらしさを感じる。自分への賞状を家族からもらうことで、生きる喜びを感じられるようにした。	「ぼく」
93	相模原市	小３	道徳	生命の尊さ	本教材は、何気なく過ごしていた日常から、生命の危機を知り、入院生活を送ることに衝撃を受けた主人公が、家族や学校の多くの人の支えを経て退院することになった様子が描かれている。主人公を支え励ました周囲の温かい思いを知り、互いに支え合って生きることのすばらしさや、自分の命は一つだけのものであり、かけがえのないものであることを改めて感じた児童が多い。そして、「命があることに感謝していきたい。」「自分の命も他の人・生き物の命も大切にしていきたい。」という思いをもった。	東京書籍新しいどうとく３教材名「いただいたいのち」

94	相模原市	小２	道徳	生命の尊さ	生命の大切さについて児童の様々な感じ方を聞いた。「命がないと楽しいことができなくなるから、家族や友だちと一緒にいられなくなるから大切。」と、答える児童が多くいる一方で、「嫌なことがあると自分の命を大切に思えない時がある。すぐに死んでしまう守れない命もある。」と否定的な意見があった中で、教材を通して「自然界では、生きるために他の生き物の命をいただくこともある」ことを改めて学び、「自分が生きることで誰かの命を繋げていることになる、もっと命を大事にして、周りの命も大切にしていこう。」と心に決め、物事を深く考えるきっかけになった。	東京書籍 新しいどうとく２ 教材名 「ゆきようのライナ」
95	相模原市	小６	道徳	生命の尊重	それぞれの生命が互いを尊重し、つながりの中にある素晴らしさを考え、生命のかけがえのなさについて理解を深めた。ペットという身近な教材だったので、興味をもって取り組むことができた。力強く生きぬこうとする様子から、「自分もあきらめないでチャレンジしたい。」「自分の生命もたくさんの人に支えられてつながったものかな。」と考えることができた。	道徳の教科書
96	相模原市	小４	道徳	「なにかお手伝いできることはありますか？」	目の不自由な人を見かけたが、なかなか声をかけることが出来ない時の主人公の気持ちを考え、話し合った。「恥ずかしい。断られたら…。」「心配だな。困っているから助けないと…。」等、「自分だったら…」と自分事として向き合っている様子が見られた。勇気を出して声をかけた時の主人公の気持ちを話し合うと、「相手が喜んでくれて、自分も嬉しくなった。」「親切にしてよかった。」という意見が多く、親切にすることの良さについて考えることができた。さらに考えを深めるため、思いやりと優しさの違いについて投げかけた。「相手のことをしっかりと考えようとするのが思いやり、優しさは思いやりをもつ人の中にある大切なもの。」	（教材） 新訂「新しい道徳」 東京書籍
97	相模原市	小１	道徳	「いのちがあってよかった」	自分の不注意から交通事故に遭い、入院したちあきという女の子の話で授業を行った。ちあきと家族のやりとりから、登場人物の気持ちを考え、それを「もし自分や、自分の家族だったら」と置き換えることで、生命の大切さについて考えを深めた。１年生の児童にとって、「生命」はとても曖昧なものであり、「心臓」「心」「大切なもの」という発言もあった。そこから意見の交流を重ね、ひとまずここでは、「生命とは、人が生きていること」と考えを合わせ、話し合いを継続することができた。ちあきの状況から、人がケガしたり死んだりしてしまうと、「周りの人が悲しむ。」「自分だけのことじゃない。」という発言もあり、「自分の生命は、家族みんなに見守られている大切な生命である」と考えることができた。	（教材） 新訂「あたらしいどうとく」 東京書籍
98	相模原市	小２	道徳	道徳 「ゆきひょうのライナ」（生命の尊重）	教材「ゆきひょうのライナ」を読み、ライナの行動と心情について考え、話し合った。そして、ライナが様々な動物と出会い、生命の在り方について考え、葛藤していることに気づき、その姿と自分を重ねて考えていた。また、別葉を作成し、学校全体として別葉を活用した授業研究を行っている。生活科「あしたへジャンプ」や日頃の給食指導とも関連しており、授業では日頃から給食を残さず食べている様子を提示した。児童は、様々な命に支えられて、自分の命があると自分事として考えていた。	

99	相模原市	小５	道徳	「コースチャぼうやを救え」	一人の少年の命を救うために、国境を越え、多くの人たちが尽力したことを通して、生命のかけがえのなさ、命を大切にしようとする心情を育てる。	･理科「人のたんじょう」人の子どもの母体内での成長について資料等で調べ、命の始まりの学習も関連付けて扱った。
100	相模原市	小５	道徳	「おばあちゃんが残したもの」亡くなった人が残したもの	主人公は、大好きな祖母が亡くなり、悲しいが、つらい時や嬉しい時に「心の中に生きている」祖母を感じることができた。そんな教材について話す中で、命とは、生きているときだけのものではなく、その人を想う人の心にあり続けることができ、受け継がれていくのだと考えることができた。自分の命は、つながりの中にあるすばらしいものであり、かけがえのないものであるという自覚をもつことができた。	
101	相模原市	小１	道徳	生きていることのすばらしさ	道徳の時間に、教科書の「どきどきどっきんぐ」の題材から、生きていることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとして授業をした。児童は、これまでの経験から、うさぎを抱っこしたときの気持ちやお母さんに抱きしめてもらった時の気持ちを想像して考えを交流することができた。また、「生きているんだな」と感じたこととして、１年生になって毎日大切に育てていたあさがおの成長の話も出た。寝たら朝起きることができるという当たり前の日常生活も、生きている証であることを、みんなであらためて考える時間となった。	教科書 「あたらしい道徳」 東京書籍
102	相模原市	小１	道徳	生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。	抱いたうさぎと自分の心臓の鼓動が重なった感動を早く母親に伝えたい「わたし」が、玄関先で転んでしまい母親に抱きしめられる。母親と自分のの鼓動が重なると、だんだん鼓動が遅くなっていくことに気づくという話である。 うさぎと自分との鼓動の重なり、母親と自分との鼓動の重なりを対比しながら、命の不思議な力について考えられるように授業を展開していく。 学校で飼育しているうさぎを事前に見に行ったり、これまでの動物とのふれあい体験等を想起させたりしてから学習を進めていく。	教材名「どきどきどっきんんぐ」 東京書籍
103	相模原市	小２	道徳	生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てる。	「ぼく」という男の子が、「ぼく」の好きなことをさまざまな面から語り口調で挙げていく。最後に、いちばん好きなものは、「ぼく」であるとしている。理由は、「ぼく」の存在がなければ「ぼく」の好きなものは存在しないことになるからである。 「ぼく」がいちばん好きなものは「ぼく」ということの意味を自分との関わりの中で考えることにより、「うれしい」「楽しい」と思える習慣が、生きているからこそ味わえる喜びなのだと捉えられるように授業を展開していく。 学習の最後には、自分への賞状を作り自分のよさを考える時間をつくる。	教材名「ぼく」　東京書籍
104	相模原市	小６	道徳	かけがえのない生命「東京大空襲の中で」	東京大空襲の中で生まれた新生児とそのお母さんを守る為に行動した医師や看護師のお話を題材に、生命のかけがえのなさや、命を守ることについて考える授業を行った。児童からは、人の命を守ることは「大変なこと」「自分が犠牲になることもある」など、葛藤している意見が出ながらも「大切なこと」「勇気のある行動」「人の幸せを願うからこその行動」「家族や友だちだったら勝手に体が動く」といった前向きな意見が多く出た。また、授業後の振り返りには踏切で立ち往生してしまったおじいさんを見かけたときの話など、自分の経験を踏まえて書いている児童もいた。	東京書籍　「新しい道徳６」『東京大空襲の中で』

105	相模原市	小３	道徳	つながる命	「ヌチヌグスージ」とは、沖縄で行われている命の祭りのことで、家族や親戚が集まり、ご先祖様のお墓の前で歌ったり踊ったりするなどして感謝の気持ちを伝えるものだ。 自分につながるご先祖様がたくさんいたことを知った子どもたちは、「自分に命をくれた人がたくさんいることを知った」「たくさんのご先祖様がいたから私も生まれたんだ」「先祖の人たちに会ってみたい」など、先祖とのつながりを強く感じる発言が目立った。 授業の振り返りでは、「ご先祖様が死んでしまっても、魂は空にあると思うから主人公は空に向かって手を振ったのだと思う」「命はとても大切だと思う」「命があることはありがたい」などが出された。	東京書籍 「新訂　新しいどうとく３」 『ヌチヌグスージ』
106	相模原市	小６	道徳	生命の尊重 「1.17 阪神淡路大震災」	５・６年高学年合同で実施した。阪神淡路大震災から29年が経ち、この大震災があったことさえ知らない児童が多い。阪神淡路大震災当時の写真を提示するとともに、妹を亡くした被災者の経験が元になって作られた絵本を読むことで、改めて家族や友だちを大切にしようという気持ちを高めさせようとした。子どもたちがもっている大阪や神戸の賑やかな様子とは対照的に、瓦礫や倒壊した建物の様子に驚き、友だちとの普段の接し方を考え直そうとする児童もいた。	指田和子 「あの日をわすれない はるかのひまわり」 PHP研究所 2005
107	相模原市	小３	道徳	個性の伸長	自分がかけがえのない存在だということ、そして同じようにクラスの友だち一人ひとりが大切な存在であることに気づく単元となっている。友だちから自分の良いところを聞くことで、自尊感情を育て、さらに伸ばしていくことをねらいとした。個々の子どもが「自分らしさ」や「生き方」を考えることができた。	東京書籍　新訂 新しいどうとく３年 「じゃがいもの歌」
108	相模原市	小１	道徳	いのち	題材名「どきどき　どっきんぐ」 「胸がどきどきするのは、なんでだろう？」という問いかけから始め、児童は「走ったとき」「緊張したとき」などと答えた。次に「どきどきどっきんぐ」を読んでから、うさぎもお母さんもどきどきしている、ということを確認すると、「命があるからどきどきするんだね」と思い至った。そして、「どきどきすると温かい」と、命の温かさにも気付くことができた。	
109	相模原市	小４	道徳	大切な命	道徳の「わたしの見つけた小さな幸せ」という話をもとに、病気やけがをした時に自分の生命や健康がおびやかされるときの気持ちを考え、普段元気に生活できることの喜びや幸せについて話し合った。また、どんな時に命の大切さを感じたか、理由と共に考え、ノートにまとめた。	「わたしの見つけた小さな幸せ」（『新訂　新しいどうとく４』東京書籍、令和２年２月）
110	相模原市	小２	道徳	生きる喜び・大切な命 （生命の尊さ）	教材文『ぼく』を読み、主人公と同じように自分の好きなものや好きなことを書き出す。友だちに自分のいいところを同じカードに書いてもらう。それを読んで自分の感想を書く。自分に賞状を書く。	東京書籍 「新しい道徳」２年

111	相模原市	小３	道徳	教材「いただいたいのち」主題「命を大切に」（生命の尊さ）	○教材文『いただいたいのち』を読み、身近な人が病気になってしまったときどんなことを感じるのか考えた。また、主人公が学校の友人や先生からの励ましによって元気をもらったことから「助け合って生きている」ということについて考えを深めた。	東京書籍 「新しい道徳」３年
112	相模原市	小４	道徳	生命尊重	○私たちが普段食べているものについて考える。 ・子どもたちは、食べ物から命をもらっていることを再確認した。 ○「バルバオの木」を読んで考える。 ・バルバオの木が最後に「わたしのみきを食べなさい」と話した場面で、木を食べる動物と食べられる木の思いを考え、命がつながっていることについて考えを深めることができた。 ○学校給食や日本でのフードロスについて具体的な数値を提示する。 ・命の大切さや、食べ物の大切さについて、考えを深めることができた。	
113	相模原市	小５	道徳	教材「コースチャぼうやを救え」 主題「かけがえのない命」（D生命の尊さ）	熱湯を浴び、大火傷を負ったコースチャ坊やが、自らの生命力と多くの人々の善意に支えられ、国境を越えた治療で回復していく話である。人々が協力したのは「生」に向かって闘っている坊やを見て頑張ってほしいと思ったから、人の命は何よりも大切だから助ける時に国は関係ないと思う、などの感想が出てきた。本教材を通して、児童は生命を大切にする思いについて考えることができた。	東京書籍 「新しい道徳」５年
114	相模原市	小６	道徳	教材「命を見つめて」 主題「命の輝き」（Ｄ生命の尊さ）	この教材は、１３歳の少女が、小学６年生時に大腿骨骨肉腫が見つかり、闘病生活を送る中で、弁論大会に向けて書いた作文である。「本当の幸せとは何か？」と訴えながら、思いやりの心を大切に、明るく生きようとする姿に児童は心を打たれていた。本実践を通じて、児童は生きることの意義と死について深く考えることができた。	出典：福岡県大牟田市第５２回青少年健全育成弁論大会最優秀賞作文
115	相模原市	小複合	道徳	一つしかない命	一つしかない自分の命を大切にするのも、家族や友だち、みんなの命を大切にするのも、一人ひとりがもつ思いやりの心であることを確認した。 命をもつ「花」をどのように育てていきたいか考えさせ、その願いを込めたメッセージの札をプランターに添えて苗の植え替えを行った。 花の世話を通して、児童一人ひとりの思いやりの心を育てていく活動とした。	相模原市人権活動地域ネットワーク協議会

116	相模原市	小１	道徳	生命の尊さ	たった１つしかない命。これまでの道徳の授業では自分にも、家族にも、動物にも植物にもそれぞれに命があることを学んだ。しかし、日常のなかで「命があって良かった！」と感じることはあまりない。教材「いのちがあってよかった」を通して、命の危機と存在のありがたさを学ぶ。 授業の後半では、絵本「みいちゃんがお肉になる日」を教材とし、健康な体を作るため	みいちゃんがお肉になる日
117	相模原市	小４	道徳	人と生き物のかかわり　食べるということ	・命をいただくということ、動物を食べて生きていることについて考える。 ・人間は他の人、様々な生き物とつながって関わりながら生きていることに気づく。 ・食べ物にたいしての感謝の心をもつこと。	かながわ「いのちの授業」 ハンドブック
118	相模原市	小５	道徳	かがやく命	生きていることのすばらしさや喜びを感じ、かけがえのない生命を尊重し、大切にしようとする心情を育てることをねらいとして学習を行った。児童は、主人公が東日本大震災で家族を亡くした経験と向き合いながら前を向いて生きる姿から、命を輝かせて生きることについて考えた。楽しいこと、嬉しいこと、悲しいこと等、当たり前の日常に気づき、生きているからこそ〇〇できるという命の重みや、支え合う命について、自分の経験を振り返りながら考えることができた。	小５・６年合同 教材名「負けないで」
119	横須賀市	小５	道徳	めぐみ 北朝鮮問題について	人権問題の一つである、拉致問題について内容を大まかに指導した。拉致問題について知らない児童も多くいた。DVDを見て遺族の思いや考えを知り、「自分の家族が拉致されたら、または自分が拉致をされたらどんな気持ちだろう。」と考えた。恐怖の方が先行してしまう児童もいたため、こんなに痛ましい事件が起きないように身を守る方法について考えることにした。一人で夜道を歩かないことや不審者への対応について考えることができた。	
120	横須賀市	小５	道徳	山岳警備隊	山岳警備隊という危険な場所で働いている人たちがいる。彼らは、なぜ危険と隣り合わせの仕事をわざわざしているのだろうか。「命をかけて命を守る。」を読んで感じたことを話し合った。「自分にはできない。」「誰かがやらなきゃいけない仕事だから、かっこいい。」などの意見が出た。私たちの命も多くの人に守られていることについて気付き、命の大切さについて考えるきっかけになった。丁度1月に能登半島地震もあったので、自分の命を守るためにできることについて考えることができた。	
121	横須賀市	小２	道徳	人権教育 【インターネットによる人権侵害】	急速に拡大するインターネット社会において、児童の利活用について取り上げた。オンライン上のメッセージのやり取りを体験しながら学習を進めた。人と人とのコミュニケーションは、直接対面しているときも、情報機器を介しているときも、マナーにおいては共通であることを理解していた。オンラインによる書き込みをする前に、相手の気持ちを想像して思いやりをもってよりよく使おうという様子が伺えた。	
122	横須賀市	小２	道徳	命の大切さ 「おとうとのたんじょう」	「おとうとのたんじょう」を読み、赤ちゃんのあくびなどの何気ない仕草や動きが生きている証拠であり、それを見て家の人が喜んでいることに気づいた。また、話し合いを通して、自分も家の人から愛され、守られていることにも気づくことができた。命は一つしかなく、自分の命を大切にして、元気に生きていこうという思いを持つことができた。	光文書院 「おとうとのたんじょう

123	横須賀市	小４	道徳	道徳 「せいいっぱい生きる」 【主たる内容項目】 D　生命の尊さ	主題のねらいは「尊い生命をもって、今生きていることの有難さがわかり、自らの生命を輝かせ、せいいっぱい生きていこうとする。」である。本文では長い間闘病生活をした４年生宮越由貴奈さんが生前残した「命」の詩と、詩との出会いをきっかけに医師になった盛田大介さんの話が書かれている。授業では何も説明せず「命」を一読した。さらに宮越由貴奈さんについて話した後にもう一読した。盛田さんの気持ちを追体験して欲しかったからだ。児童は自分にとっての精一杯生きるについて考えを深めていた。	●教材 小学　どうとく ゆたかな心　４年 「せいいっぱい生きる」
124	横須賀市	小３	道徳	いただきます	わたしたちが食事するということは、生き物の命をいただくことである。教科書の文章を読み、普段意識しない「いただきます」の意味を考えていった。「いただきます」の言葉に、より気持ちを込めて言おうという思いを持つことができた。	
125	横須賀市	小４	道徳	生命の尊さ	道徳教材「せいいっぱい生きる」を活用し、命の尊さについて考えた。まず、「せいいっぱい生きるとは？」という問いかけに対して既存のイメージを共有した。そのうえで、教材中の詩から感じられることや登場人物の生き方を通して感じられることを中心に意見交流を重ね、まとめで再度「せいいっぱい生きるとは？」について考えた。同じ質問でも、学習前と学習後ではそれぞれの考えに具体性が生まれた。教材文が実話であることもあり、命の尊さや「生きるということ」について考えを深めることができた。	
126	横須賀市	小１	道徳	生命の尊さ 「わきだしたみず」	道徳『わきだした　みず』の教材を通して、生命の尊さや相手を助けずにはいられない心について考えた。教材に出てくる「かに」がどうして３日間も休みなしに頑張り続けることができたのは、「友達の命のため」という思いが一番強いのではないかと考えていた。 友達の命のために頑張るかにの心の素晴らしさに気づき、「自分も友達を助けられる人になりたい」「友達が困っていたら助けてあげたい」「友達のことも他の生き物のことも大切にしたい」と、自他の命を大切にしていきたいと感じている様子が見られた。	「ゆたかな心」 （光文書院）
127	横須賀市	小４	道徳	生命の尊さ	導入では、「自分の命と、みんなの命はどちらが大切だと思いますか」という投げかけをすることで、「多くの人が自分の命を大切に考えるだろう」という意見を引き出した。そのあとに、みんなの命を助けようとする人々（レスキュー隊）がいるということを道徳の教材を通して紹介した。危険な状況の中で、なぜあえてみんなの命を救おうとすることができるのか、その理由について考えさせた。「目の前のいのちを見捨てることができない思いがあるのではないか」といった意見が出る中で、「レスキュー隊の方々にも家族がいる」という気づきを通して、命の重みやレスキュー隊の方々の覚悟について深く考えさせることができた。	
128	横須賀市	小複合	道徳	いのちのつながり	サザエさん一家の家族構成を見本に家系図を知り、自分の命は誰から、何人からつながってきたのか問いかけた。実際に自分自身の家系図を可能なところまで書き、「こんなにたくさんの人達のおかげで自分がいるるのだ。」や「両親にも、それぞれの人々の命がつながっているのだ。」など、一人一人が自分なりに命のつながりを意識し、自分を大切にしていこうという気持ちを持てるように指導を行った。	道徳 「いのちのまつり」

129	横須賀市	小６	道徳	心の中で 生き続ける命 （生命の尊さ）	事故や犯罪で家族を失った人々による、命の大切さを訴える活動（展覧会）について知り、彼らがなぜ自身の辛い経験を多くの人に伝えようとしているのか、その意図について問いをもたせた。「事故の悲惨さを伝えたい」や、「悲しみを知って欲しい」という思いだけでなく、「大切な人が夢を持って精一杯生きていたことを知って欲しいこと」や、「人が生きているのは、ただのあたりまえのことではないこと」など、様々な視点から「命」を捉え、その連続性や関係性についても考えられるように指導を行った。	道徳 「命のメッセージ」
130	横須賀市	小複合	道徳	『命と平和』	本校は毎年、年1回学校全体で平和教育の時間を設定して授業に取り組んでいる。全学年を対象として行った。 『命と平和』をテーマに絵本の読み聞かせを通して、平和について子どもたちと考える時間を設定した。 1年生・2年生『もっとおおきなたいほうを』『あやちゃんのうまれたひ』『ゆらゆらばしのうえで』『そらとぶあひる』他 3年生『そらいろだんしゃく』『あやちゃんのうまれたひ』他 4年生『６にんのおとこたち』『へいわってすてきだね』他 5年生『ゆらゆらばしのうえで』『８月６日のこと』他 6年生『ピアノは知っている月光の夏』	おはなしシャワーの会
131	横須賀市	小６	道徳	命を考える	３つの教材を用いて命の大切さやその価値に改めて視点を向けさせるために単元学習を行った。「どうして命を大切にするのか」「命が輝くとはどのようなことなのか」などを主発問として、自分の生き方を振り返った。児童からは命は１人だけのものではないということ、悔いのない人生を送るためには、失敗や悲しみとも向き合う必要があることなど自分なりに命を捉えなおしていく様子が見られた。	光文書院6年道徳 「負けないで」 「命と向き合う人生」 「生命のメッセージ」
132	横須賀市	小２	道徳	生命の尊さ	導入で、「いのち」とは・「いのちは」の後にどんな言葉が続くのかを考えた。こどもたちからは、「大切なもの」、「一人一つしかない」など、いのちを大切にしないといけないという思いが共通で出た。教材を読み、自分の「命は家族の願いを受けて生まれてきたこと」や「自分の命を大切にしないといけないこと」など、命の大切さについて改めて考え直すことができた。これから生活していく中で、自分の命を大切にして、元気に生活をしていくことを子どもたちとまとめ、振り返り授業を終えた。	
133	横須賀市	小５	道徳	人権教育	20歳の時にスポーツ事故により車いす生活を送っている話を中心に講演が開かれた。障害を持った方や弱い立場の人を馬鹿にしたり、軽視したりする言動が見られていた子どもたちにとって自分には関係ないと思っていることが、明日自分も同じようになるかもしれないということに気づくことができた。具体的に車いすになって困ったことから大変さを想像し、自分たちができることを考えている児童もいた。さらに、「迷ったら後悔する前にやってみる。チャレンジすることに意味がある。」という話もあり、子どもたちからは、前向きな言葉が出てきた。	車いすバスケチーム 「神奈川VANGUARDS」 の前田柊選手

134	横須賀市	小４	道徳	「せいいっぱい生きる」	道徳の教材「せいいっぱい生きる」で、児童は小４で重い病気で亡くなってしまった宮越さんが書いた詩「命」を読んだ。この詩を通して、多くの児童は「命をむだにする人もいるけれど...私は命が疲れたというまでせいいっぱい生きる」という言葉に強く心を動かされた。児童の感想には、「生きたいけれど、生きることができない人もいることに気づいた。」「命は当たり前ではない。だから、自分も命が尽きるまで一生懸命に生きたいと思う。」などと書かれていた。この学習で、「命の大切さ」について改めて考えることができた。	
135	横須賀市	小１	道徳	「たすけずにはいられないこころ」	道徳の教材「わきだしたみず」で、自分の命だけではなく、友だちの命も大切にしようとする心について学習しました。「なんでカニは、こんなにがんばることができたのか」について、１年生なりに「魚たちが死んでしまうと思って、助けたかった。」や「助けたい気持ちが大きかったから、がんばれた。」などの発言があった。命は大切ということは分かっていると思うが、このような教材から自分がもともともっている良き心について、これからも学習していきたい。	
136	横須賀市	小６	道徳	いじめ予防教室	子どもたちにとって、いじめはしてはいけないものであるという認識ではあるが、実際にどのように発生するのかは理解していない実態があった。そこで、文部科学省から出されているいじめについての解説動画を視聴しながらいじめについて学年で考えた。「他者との違い」「傍観者の存在」「いじめに遭ってしまったら」というテーマで授業を行った。 子どもたちは、実際にどのように起きてしまうのかを理解し、未然防止について考えを深めていた。また、「やはた行動」といういじめに遭った時の行動が分かり、安心している様子であった。	文部科学省「ともだち・かかわりプログラム」
137	横須賀市	小５	道徳	大切な命を守る	教材をもとに、命が大切な理由について考えた。山岳警備隊の方の救助をする際の思いを中心に、話し合いをしながら命の大切さについての考えを広げた。「一つしかない命だから命は大切」ということは授業を始める前からどの子も知っていることではあったが、「命は繋がりがあるから」「誰かに大切にされている命だから」「一つしかなく、かけがえのないものだから大切にしたいと思う」など、授業後には命の大切さについてそれぞれが考えを広げ・深める振り返りが見られた。	「命をかけて命を守る - 山岳警備隊 - 」
138	横須賀市	小複合	道徳	いじめ防止授業	劇団プレイバッカーズによる心の中を可視化する即興劇を通して、心の痛みを感じ取る力をつけたり、いじめと深く向き合ったりして、命につながる学習を行った。	劇団プレイバッカーズ 小学校４・５年生
139	横須賀市	小４	道徳	命をかがやかせる	小学校4年生が書いた「命」という詩を読んで、命の大切さについて話し合った。「命なんかいらない。と言って命をむだにする人もいる」という文についてどんなことがあるかをいくつかあげ、自分はどのように周りの人に声をかけられるかと考えを聞くと、「はげましたい」「嫌な気持ちになる言葉に気を付けたい」「戦争をなくしたいから平和な国でいたい」などの意見が上がった。	教材・どうとく　光文書院「せいいっぱい生きる」 4年支援級

140	横須賀市	小３	道徳	いのちのまつり	「いのちのまつり」という教材を通して、自分の命が先祖、祖父母、親から受け継がれてきたものであり、彼らから与えられた大切なものであるということを学んだ。子どもたちは、話し合いの中で、自分の命を大切にするだけでなく、他者の命も大切にしなければいけないということに気が付いていた。	教材・道徳　光文書院「いのちのまつり」
141	横須賀市	小６	道徳	命のおにぎり	１月１日の能登半島地震が起きたことをきっかけに、ニュースや新聞で見た食料問題に触れ、被災した方の状況を伝え、思いやりとは何かを考えさせた。自分事として考えたとき、題材のような行動ができる方がいることに驚いている子が多かった。ふりかえりには、自分でできることは何かを考えていたり、助け合いながら生きていくことだったりを書いている子が見られた。	
142	横須賀市	小４	道徳	生命の尊さ	道徳教科書「レスキュー隊」の授業を行った。1月に起こった能登半島地震における各自治体レスキュー隊の活動やボランティア活動についても触れ、命を大切にするということは、自分だけでなく他の命の重さも感じつつ、大切にして生きていこうと考えることでもあることに気づき、改めて自他の命を大切にして生きていこうとする気持ちがそれぞれの中にあることを認め合った。	
143	横須賀市	小３	道徳	「いただきます」	給食や家庭のご飯を食べるときに言う言葉「いただきます」にはどんな意味があるのかを考えた。児童は「命をもらっているから、感謝をしていただきすと言っている。」「料理を作ってくれた人、食材を育ててくれた人に対して感謝の気持ちを込めている。」と考えることができた。本時で学んだことを毎日の給食でも思い出しながら、食べている姿が見られる。	どうとく ～ゆたかなこころ～
144	横須賀市	小６	道徳	戦争について考えよう	社会科の授業で、太平洋戦争の概要や被害状況、その時代の国民の生活の様子などについて学んできた。このような学びを通して、「戦争はしてはいけないこと」という認識はあるが、表面的な知識の獲得に留まっていた。そこで、絵本「おとなになれなかった弟たちへ」を通して、当時の人の「こころ」の状況を視点として、戦地に赴いた兵士・日本に残された家族・子どもたちなど、多様な視点から戦争を見つめ、それぞれの立場から「命の尊さ」について考えた。	
145	横須賀市	小４	道徳	生命の尊さ「レスキュー隊」	命を救う仕事に、誇りと情熱をもって取り組むレスキュー隊の話。レスキュー隊の人たちが、仕事に対してどのような思いをもっているのかを考えることを通して、生命の尊さに気付く様子が見られた。また、命について話し合う中で、「命はかけがえのないもの」、「自分の命も他人の命も同じように大切」、「動物・植物なども、命はすべて大切」という考えをもっていた。	（教材）小学どうとくゆたかな心

146	横須賀市	小複合	道徳	いのちと平和について考える	長崎への原子爆弾投下をテーマに、児童が平和やいのちの大切さに迫ることをねらいとして行った。昭和20年、８月９日に長崎に原子爆弾が落とされた。犠牲になったのは人間ばかりではなく、たくさんの動物たちも犠牲になった。人形アニメ版「ながさきの子馬」の映像を通して、かわいい子馬の主人公と他のユニークなキャラクターも加わり、やさしく平和と生命の尊さを伝え、“長崎を最後の被爆地に”の誓いと願いを込めた。「みんなひとりになってしまった」「動物のいのちもうばい、戦争はかなしい」などの感想を持つことができ、効果的だった。	・低学年 ・ＤＶＤアニメ 「ながさきの子馬」 ・本 「ながさきの子馬」
147	横須賀市	小複合	道徳	平和といのちの大切さについて考える	戦地に召集された男性たちに代わり、広島の路面電車を１０代の少女たちが動かしていた。15歳の主人公弥生は、朝の車掌業務に就く際に被爆、最愛の母と大勢の仲間を失い、悲嘆に暮れた。しかし、被爆からわずか３日後、廃墟の中を弥生の乗った電車が警笛を高らかに鳴らして走り始めた。死と絶望の中で生きぬこうとするひとりの少女の健気な姿から「絶望の中から力を出した人たちのおかげで今がある。」「みんな笑顔で暮らせるようになってほしい」など、自分と主人公を重ねながら、平和やいのち、友だちの大切さについて深く考えられた。	・高学年 ・ＤＶＤアニメ 「ヒロシマに一番電車が走った」
148	横須賀市	小３	道徳	生命の尊さ	かにが池の生き物を助ける教材を通して、人には命を大切に感じる心があることや命が危機に瀕すると、助けずにはいられない心があるということに気付くことをねらった授業であった。かにが池の生き物を懸命に助ける姿から、かにの命も池の生き物の命も同じ命として大切であること、命が大切だとわかっているからこそ、助けずにはいられない心が生まれることについて考えた。また「被災地ボランティア」の活動する姿を、教材の登場人物と重ねて考え、実生活とつなげる児童の姿も見受けられた。	「わきだした水」 『ゆたかな心　１年』 光文書院
149	横須賀市	小６	道徳	心の中で生き続ける命 「生命のメッセージ」	生命のメッセージ展について知る。なぜ、学校で命について学習するのかを考える。全３回の授業を通して、命について学ぶ意味について考えていけるようにする。本文を読み、鈴木さんの気持ちを考える。 ①「生命のメッセージ展」を始めた理由を考える。 ②鈴木さんが同じ大学に進学した理由を考える。 ③鈴木さんのメッセージから自分の命を輝かせることについて考え、学んだことやこれからどのように過ごしたいと思ったかなどをノートに書いてふり返る。	小学道徳ゆたかな心 ６年　光文書院
150	横須賀市	小３	道徳	平和と命について考える	平和と命について考える授業として、「おこりじぞう」というお話をDVDで見ました。戦争の恐ろしさを知り、戦争がなくなればいいのに、二度と起こさないように平和になってほしいと感じていました。争いごとを減らすために簡単に悪口を言わないようにする、自分がいるのは先祖のおかげだから命を大切にすると振り返っていました。	小４ アニメでよむ戦争シリーズ 人形アニメ版おこりじぞう 原作 山口勇子 作 翼プロダクション
151	横須賀市	小３	道徳	いのちのまつり	「いのちのまつり」では命のつながりに着目し、授業の中で考えた。父母、祖父祖母はつながりを感じやすかったが、先祖のつながりを辿っていくと、何万人もの命が今の自分につながっていることに気づいた。自分の後にも命がつながっていくことを考え、自分の命を大切にすることや他者の命も大切にすることが大切ということに、気付くことができた。	

152	横須賀市	小６	道徳	生命の尊さ	「命を大切にすることって、どうすることなのか？」を一人一人が考え、自分の命の重さやかけがえのなさに気が付くような授業の展開を行った。教材『生命のメッセージ』を通して、「生きているそのことが、それだけですてきなこと」や「精一杯生きることが、命を輝かせること」を感じ、自分なりの「生き方」を考えることができた。	
153	横須賀市	小３	道徳	いのちのつながり	みんなの命は誰からつながっているかを問いかけ、授業の導入を行った。教材を読み、命のつながりについて考えた。（発問①石のお家の前でみんなは何をしていたの？②ご先祖様ってどれぐらいいるのかな？③命のつながりってどういうこと？④コウちゃんはどんな気持ちで「ありがとう」と言ったのだろう？）受け継いだ命、自分の命、受け渡す命と、命のバトンがつながっているということに気付き、自分の命や自分以外の人や生き物の命を大切にしようという思いをもつことができた。	「いのちのまつり」
154	横須賀市	小２	道徳	１まいの写真	怪我をした赤ちゃんを心配し、病院へ連れて行ったお母さんが「人は生きる力があるから大丈夫ですよ」と言われた話を通し、人間には、怪我や病気を治して元気に生きようとする力があることを考えた。また、自分一人の力だけでなく、周りの人の思いや支えがあることに気づき、生命を大切にしようという思いをもつようにした。	光文書院　どうとく「１まいのしゃしん」
155	横須賀市	小６	道徳	いじめ防止活動	６月上旬から下旬にかけ、計４時間の学年合同道徳授業を実施し、いじめの定義、いじめの空気感やいじめがあった際の立場（被害者、加害者、傍観者、観衆）を様々な教材・活動等を通して確認。その後、グループ毎にいじめを防止するためのクイズや劇等を作り、本校独自の活動であるＦＡ活動（ファンタジー縦割り）で１～５年生に、いじめ防止を呼び掛ける活動を行った。『いじめをなくすために』一人一人が何ができるか、またはいじめを目撃した際に何ができるのか等を考えてもらえるようなきっかけ作りに努めた。	
156	横須賀市	小５	道徳	「星が光った」人の力を超えたもの	教材を読み、地球には４６億年分の歴史があることを知り、その中で人類はほんのわずかな歴史であることを知った。児童それぞれが今までに見た１番美しい景色を自主学習で用意し、後日交流を行った。人の力を超えたものに思いを巡らせ、まとめでは地球上の生命の尊さに自分の思いを馳せていた。「人間では作れない景色が沢山ある中、たった一度だけの景色を見逃さないようにしたい。」「人が作ったものよりも、自然のほうがすごい。動物も植物もずっと命をつないできたのだから、大切にしたい。」などのふりかえりがあった。	自主学習による思い出の景色の写真や画像
157	横須賀市	小１	道徳	動物愛護劇鑑賞	子どもたちが、保健所職員の出前授業を受けることで、動物を飼育することの楽しさと責任を知る。命の大切さと責任の重さを子どもたちは学んだ。また、劇団ミューマールの公演を鑑賞することで、動物愛護精神を学び、動物を大切にする心や命の尊さを感じた。そして、自分自身のことを顧みて、自分の命や家族・友人たちの命も大切だと気付いた。	劇団ミューマール

158	横須賀市	小４	道徳	生命の尊さ	「せいいっぱい生きる」の意味を問いかけると、「一生懸命」「元気に過ごす」「勉強や運動を頑張る」などが思い浮かぶようであった。しかし、題材を読み、自分たちと同じ小学4年生の宮越さんが病気になってなくなったことを知り、「今、自分ができていることは当たり前ではない」と気づくことができた。また、宮越さんの詩に出会い、命に対する考えが変わった盛田さんの姿から、「せいいっぱい生きる」とは、「命を大切にすること」「自分にできることをせいいっぱいすること」と捉え直すことができた。	光文書院「小学どうとく　ゆたかな心４年」主題名「せいいっぱい生きる」
159	横須賀市	小４	道徳	教材「五百人からもらった命」	「命はあげたりもらったりすることができるかな」という問いかけから始まり、命の唯一性や連続性について考えを深めた。授業後に学習したことの振り返りや自分事に置き換えて作文を書いた。子ども達は、家庭生活において生き物とのふれあいであったり家族との出来事だったり学習したことをより深い学びに繋げている様子があった。	
160	横須賀市	小１	道徳	教材「わきだしたみず」	「命の危機に瀕しているとなんとかせずにはいられない」という人間の心のよさに気付き、感動し、そんな心が自分にもあることを自覚するということをねらいとし授業を実施した。子ども達は命が大切ということは理解しているが、その心の深さや強さまでは理解していないのでこの学習をきっかけにしたい。	
161	湘南三浦	小５	道徳	災害や事故から身を守るために	道徳教科書を用いて「①大地震により津波が発生した場合の避難の仕方や身の守り方②自転車の安全な乗り方」について、話し合いを中心とした学習をした。（全２時間） ①では、隔年で実施している津波避難訓練を想起させながら、訓練の必要性や大切さを改めて実感できるようにした。 ②では、自分自身の日頃の様子について振り返るとともに、安全な乗り方や乗る上で予想される危険性について共有した。	道徳教科書 13自分の身は自分で守る 内容項目A(3)節度、節制 主題：安全に生活するために
162	湘南三浦	小５	道徳	災害や事故から身を守るために	道徳教科書を用いて「大地震により津波が発生した場合の避難の仕方や身の守り方」について、グループでの話し合いをした。（全２時間） 授業では、毎年行っている地震・津波避難訓練を想起させながら訓練の必要性や重要性を学ぶとともに、自分の命は自分で守ることの大切さを学習した。	道徳教科書 13自分の身は自分で守る 内容項目A(3)節度、節制 主題：安全に生活するために
163	湘南三浦	小２	道徳	「空色の自転車」 主題；ぼくのいのち、わたしのいのち	本教材の主人公かんたは、交通事故をきっかけに、あたりまえの日常を失ってしまった。主人公と同様、交通事故や病気などで元気に生活できなくなってしまう可能性は、誰にでもある。また、担任の高校の時に実際に目の前で起きた交通事故のことについても話し、お話の世界だけではないことを子どもたちに実感させ、健康や安全に気をつけ、規則正しい生活をすることの大切さを考えさせた。	
164	湘南三浦	小１	道徳	〔内容項目D〕 生命の尊さ 〔主題〕 みんないきている	おいしいと感じること、痛いと感じることなど、人間が持ち合わせている感覚や感情を想起できる絵を通して、自分も生きていることを感じられるようにする。あたりまえの日常を大切にしようとする心情を育てる。	1年各クラス担任 光村図書　道徳教科書 きみがいちばんひかるとき

165	湘南三浦	小６	道徳	かけがえのない命 「おじいちゃんとの約束」	道徳の教科書にある読み物教材を基に学習を進めた。導入では、子どもたちが感じている「命のイメージ」について意見を出し合った。その後、教材文を読み進めて「〇ね」という言葉について考え、日常生活を含めて考えさせた。さらに、言われた側の身になって考える機会を設けることで、今までの自分自身を振り返る良い機会になってくれればという思いで実践した。	きみがいちばんひかるときー６年 （光村図書出版）
166	湘南三浦	小２	道徳	がんばれアヌーラ	始めに友だちに助けてもらったことを想起させた。その後に動物も助け合う気持ちがあるかと問いかけた。すると多くの児童が助け合う気持ちがあると思うと答えた。お話を読み、二頭の象がアヌーラを支える様子を見て、命の大切さについて考えた。最後に命は大切だと思うときについて話し合い考えを深めた。	
167	湘南三浦	小１	道徳	生命の尊さ 「生きているとかんじるとき」	日常生活の中で、「楽しい」「うれしい」「おいしい」等の感情を抱くことを授業の最初に想起させた。何かを感じるのは生きているからこそであるという意識づけを、授業のねらいとした。あたりまえに過ごしている日常をしっかり振り返り、個々の児童の発言を板書し、イメージ図とともに全体に共有した。共感的に受け止め、自分のいのちを大切にする授業を行った。	ーきみがいちばん ひかるときー１年 （光村図書出版）
168	湘南三浦	小５	道徳	生命の尊さ	生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重していこうとする心情を育てた。世の中には平和とはほど遠い国がまだたくさんあることを知り、その人たちの身になって考える機会をもたせること、そして自分たちに少しでもできることはないかを考えさせるきっかけにしてほしいと願ってこの授業を行った。	日本ユニセフ協会公式ホームページ 日本ユニセフ協会チャンネル（YouTube）
169	湘南三浦	小１	道徳	生命の尊さ	生まれたばかりの弟の様子から、自分の成長に気づく主人公の姿を通して、大きくなったと感じ、生きることのすばらしさや命の大切さを考えた。	光村図書　小学校道徳１年
170	湘南三浦	小２	道徳	生命尊重	「がんばれアヌーラ」を通して命を大切に思う心について考え、命を大切にしようとする心情をはぐくむ。	光村図書　小学校道徳2年
171	湘南三浦	小５	道徳	命の大切さ	「命の詩～電池がきれるまで」を題材に、作者の「電池は切れても取り替えればよいが、命を簡単に取り替えることはできない。だからせいいっぱい生きる」というメッセージを受け取り、生きたくてもいきることができない子に思いを巡らせた。今生きている自分たちの命、友達の命、家族の命、みんなの命の大切さについて考えた。	（使用教材） 光村図書・道徳５年 「命の詩～電池がきれるまで」
172	湘南三浦	小２	道徳	支え合う命	「がんばれアヌーラ」を題材に、重い病気にかかったぞうのアヌーラの看病をする飼育員のおじさんの気持ちを想像した。アヌーラの体を倒れないように両側から体を寄せる仲間のガチャコとタカコの行動にも目を向けアヌーラが元気になった時の飼育員のおじさんの気持ちを想像する共に、「命を支え合う」ことについて、自分の命が支えられている時を考えた。	（使用教材） 「がんばれアヌーラ」

173	湘南三浦	小２	道徳	生命の尊さ	つながるいのち「生まれるということ」 絵本「あやちゃんのうまれたひ」から生命誕生の喜び、教材「生まれるということ」から生命のつながり、阪神淡路大震災から、命の脆さ、生きていることへの感謝について考えた。 いのちを大切に「がんばれアヌーラ」 病気になってしまったアヌーラを支える仲間について役割演技をすることを通して、命を大切にする気持ちや思いやりについて考えを深めた。	（使用教材） NHK for school 教科書
174	湘南三浦	小３	道徳	身近な自然に目を向けて	１学期に理科で「昆虫の育ち方」を学習し、身近な自然に目を向けながらカイコの成長記録を写真に残してきた。また、昆虫や爬虫類を日頃から数多く飼育することで生物とふれあい、そのすばらしさや死んでしまった時の悲しさから、「命の尊さ」を学んできた。それらの学習をもとに、夏休みにさらにたくさんの命と触れ合い、「命の尊さ」を感じ取れるよう、道徳資料「ヤゴきゅうしゅつ大作戦」と「里山を守ろう」から話し合い、自然や命と関わろうとする意欲を高めた。	（使用教材） 光村図書・道徳３年 「ヤゴきゅうしゅつ大作戦」・「里山を守ろう」
175	湘南三浦	小６	道徳	人権	戦争に関する学習で、当時の人々の生活を通して、子どもたちの人権について考えた。自分たちと年齢が変わらない子どもが、戦争時にどういう体験をしていたのかを資料を通して確認した。そして、今の自分たちの生活や連綿とつながっている命について、振り返ることができた。また、その後、道徳で「世界人権宣言」について学習した。きれいな空気を吸える権利やいじめられない権利など自分たちが知らない間に保障されていることを知った。戦争のときに奪われた権利のことも想起し、権利を守っていかなければいけないと考えた児童がいた。また、自分と他者が大切にしている権利が異なり、尊重し合わなければならないと振り返りで書いている児童がいた。	（使用教材） 社会「戦争と人々の暮らし」 道徳「世界人権宣言から学ぼう」 ＮＨＫ for school 「戦争について考えてみよう」
176	湘南三浦	小３	道徳	生命の尊さ	虫たちがそれぞれのいちばん大切なものについて話し合う姿を通して、「命を大切にするとは、どういうことか」について考えさせた。唯一無二の生命を大切にし、与えられた生命を一生懸命に生きようとする心情を育てるために、話し合いを行った。命は、かけがえのないものであるということに気づき、自分はどのような考えを持っているかの振り返りも授業の中で行った。	
177	湘南三浦	小５	道徳	命の大切さ	道徳の教科書教材「命の詩一電池が切れるまで」を使い学習した。導入で、「命とはどのようなものか」を考えさせた時に、いろいろな意見が出た。最近、祖父が亡くなった児童や弟が生まれてくることができなかった児童の体験談をきいて、涙ぐむ児童もいた。学習の最後には、かけがえのない命を大切にしなればいけないと感じ、今を精一杯生きなければならないという感想が多くみられた。	（使用教材） 光村図書・道徳５年 「命の詩一電池が切れるまで」

178	湘南三浦	小４	道徳	生命の尊さ	道徳「生きているしるし」を学習する前に、赤ちゃんの誕生を間近で経験したことのある児童たちの話を聞いた。その後、教材を読み、一人ひとりの命に対する考え方や感じ方を伝え合った。その後、“一人ひとりのいのち”について考えた。「自分の命は自分のものだけではない」「両親を悲しませたくない」など、自分の命はたくさんの人に守られ、支えられていると考えている児童が多かった。これから、「兄弟を大切にしていきたい」「お世話になった親や祖父、祖母を助けてあげたい」など、自分の身近にいる人を大切にしていきたいと改めて感じたようであった。	（使用教材） 光村図書・道徳４年 「きみがいちばんひかるとき」 「生きているしるし」
179	湘南三浦	小５	道徳	生命の尊さ	まず「１年生の時の自分は今と比べてどうだったか。」と問い、自分の変化や成長に目を向けさせた。その後、一人一人の命のすばらしさをうたった資料『同じでちがう』を読み、「自分と友達との“同じでちがう”」ことを考えさせた。また、「命についてこれまでにどんなことを考えたことがあるか」をテーマにグループで話し合い、全体で友達同士の考えを交流した。その結果、一人一人考え方が異なることを知り、自分とは異なる「個」を大切にする気持ちや自分と同じ命を大切にしようとする心情を養うことができた。	（使用教材） 光村図書・道徳５年 「きみがいちばんひかるとき」 「同じでちがう」
180	湘南三浦	小３	道徳	いじめをゆるさない心	いじめにあたる行為への意識が薄かったり、他者の気持ちを考えられなかったり、周囲が傍観者となって止められなかったりする児童の実態を踏まえ、絵本を題材にして授業を行った。被害者、加害者、傍観者それぞれの立場の登場人物に注目し、被害者や加害者だけでなく、周囲にいる者も含めて一人ひとりが当事者であること、見て見ぬふりをせず、積極的に声掛けや助けを求める行動をとることがいじめの早期解決につながるとの意識を高めた。	(参考資料) 「わたしのせいじゃない」レイフ・クリスチャンソン著、岩波書店
181	湘南三浦	小３	道徳	いじめをゆるさない心	いじめの構造について、なぜいじめが起こるのかを具体的な場面から考え、「遊びのつもり」「みんなもやっている」等、他者への意識を欠く誤った考え方（シンキングエラー）がいじめを生むことに気づいた。また、ロールプレイングをとおして、被害者、加害者、傍観者、介入者の立場を経験し、いじめを止めるための「やはた行動」（やめてとはっきり言う、その場からはなれる、たすけを求める）を実生活に活かそうとする意識を高めた。一人ひとりが、いじめのないクラス・学校をつくるために自分たちができることを考え、「クラスのHERO行動」としてまとめた。	(参考資料) 「プロレスごっこ」教育出版
182	湘南三浦	小６	道徳	平和学習	広島の被爆体験伝承者を招いて、講演をしていただいた。被爆二世の森川さんの人生談から生々しいエピソードを伺ったり、子どもたちからの質問に答えていただいたりする中で、「平和」や「命」について真剣に考える場となった。	広島の被爆体験伝承者
183	湘南三浦	小５	道徳	生命の尊さ 「命の大切さ」	みやこしゆきなさんが書いた命の詩やエピソードを読み、命について考えた。ゆきなさんの懸命に生きる姿や心情から、命の重さや限りある命の大切さについて考えを深めた。身の回りで起きている「いじめ」や「差別」などのニュースや、今までの自分の言動を振り返り、自分たちにはどんなことができるのかをみんなで話し合った。	（使用教材） 光村図書・道徳５年 「命の詩ー電池が切れるまで」

184	湘南三浦	小６	道徳	「命の旅」	本教材は北海道知床に生きるマスやサケが賢明に命を繋ごうとする姿や、他の動物と人間との命の繋がりが表されている。児童には、様々な命の繋がりを通して、命の尊さについて考えさせた。児童はマスやサケが危険を冒しながらもふるさとに戻ってくる姿やイクラ一粒一粒には大きな魚になる可能性があったかもしれないということ、私たち人間は懸命に生きようとする命を頂いているということに気づいた。	（他教科との関わり） 理科「生物どうしの関わり」
185	湘南三浦	小４	道徳	生命の尊さ 命の不思議さ	昨今、ＡＩの発達が急速に進み、日々の生活においてそれを活用する機会も増えてきている。ロボット型ＡＩもその１つで、コミュニケーション可能なロボットも増えているが、教材を通して「悲しい」「嬉しい」といった感情は、生きているからこそ感じられるものであると振り返った児童がいた。またクラスで話し合う中で、死があるからこそ、命を大切にすることや、今を楽しむことができるという意見が聞かれ、生命の尊さ、生きるということの意義について考えを深めることができた。	（使用教材） 光村図書・道徳4年 「生き物と機械」
186	湘南三浦	小３	道徳	かけがえのない命「大切なものは何ですか」	セミが「いちばん大切なものは何ですか」と虫たちにきくと、虫たちは「お金」「食べ物」「丈夫な体」「家」「勉強」と答えていく。それを聞いたアゲハチョウが、母の見つめる中、命を落とした友達のモンシロチョウの話をするという話。児童は「命が大切だ」とは当然のように思っていたが、「『命を大切にする』とはどうすることか？」という問いには悩む様子が見られた。「命を失わないようにすること」だけでなく、「何事にも一生懸命に取り組むこと」も命を大切にしていることだと考える児童もいた。また、「自分だけではなく、人の命も同じように大切に考えなくてはいけないと思う。」という考えも出ていた。	（使用教材） 道徳の教科書
187	湘南三浦	小４	道徳	いじめ防止教室	湘南DVサポートセンターの職員の方を講師に迎え、実際に担当した事例の話をもとに授業を行った「自分の気持ちを見失わない」ということが大切であるという言葉が印象に残った。「いじめにあっている子は、自分の感情が分からない。言葉で表現することができない。」という話も聞き、今までとは違う視点でいじめについて考えるきっかけになった。自分自身の何気ない行動が友だちを傷つけることがあることを改めて実感し、いじめについて真剣に考えることができた。	講師は、湘南DVサポートセンター職員
188	湘南三浦	小３	道徳	いのちをいただく	絵本「いのちをいただく」を通じて､話の中に出てくる牛が家庭であたたかく育てられ、出荷されるときの涙を流した意味や主人公の気持ちを捉えながら消えていく命とその命をいただいて生きていく自分たちについて考えた。食事前に言う「いただきます」の意味が尊い命をいただくことに改めて気がついた。	
189	湘南三浦	小６	道徳	フツウって何だろう	「フツウ」がその人の立場やとらえ方などによって違っているということに着目させることで、偏見をもたずに相手を受け入れたり、違っている自分を肯定したりと、人や自分を大切にすることを目指して授業を行った。児童は、「自分のフツウを押し付けちゃいけない」などの感想をもち、自分や他者を認めたり尊重したりすることのきっかけとなったと考える。	（参考資料） 「ヤンキー君と白杖ガール」KADOKAWA

190	湘南三浦	小６	道徳	人権教室	人権について、講師の方の体験を基に話して頂いた。「人権は一人一人が当たり前に持っているものだということ」「みんなが幸せになる権利をもっていること」「人の幸せを奪う権利はないこと」など、生きていく上で大切なことをたくさん学んだ。また、国境なき医師団の話を基に、紛争などによって命を奪われている人々がいることなど世界の現状を知り、改めて命の尊さについて学んだ。	
191	湘南三浦	小１	道徳	生きていることのすばらしさ	日々の生活経験の中で、生きていることのすばらしさを感じ取る活動を行った。「ハムスターのあかちゃん」という教材を読み、お母さんやあかちゃんに語りかけるという活動から、身近な生き物の誕生や成長の様子を優しく見つめ、命あるものを大切にしようとする気持ちを持てるよう指導した。	ハムスターのあかちゃん （新訂あたらしいどうとく①）
192	湘南三浦	小３	道徳	生命の尊さ	道徳の授業で「君たちはどう生きるか～命の授業～」というテーマで単元構成し、複数の教材を用いて、数時間かけて授業を行った。子どもたちは、生命の大切さや生命を大切にする生き方などについて考えた。	
193	湘南三浦	小４	道徳	かけがえのない生命	道徳の授業で「走れ江ノ電 光の中へ」という教材の授業で、限りある生命を全力で生きた主人公の生き方を通して、かけがえのない生命について考えた。子どもたちは、限りある生命だからこそ、生命を大切にしなければならないことや懸命に生きることの尊さなどを学んだ。	
194	湘南三浦	小４	道徳	いのち	金子みすゞさんの詩「大漁」から、それぞれの立場での「いのち」のとらえ方の違いについて考えたり、そこから「いのち」を頂くということについて話し合ったりした。魚を食べる私たちと、食べられる魚であっても、同じ「いのち」であることや、だからこそ、感謝をもって頂くこと、「残食」について等、みんなで考えながら、今後の自分たちができること、どうすべきかについても話し合った。	詩：金子みすゞ 「大漁」
195	湘南三浦	小１	道徳	ハムスターのあかちゃん	「おいしく朝食が食べられる」など、見過ごしがちな生きている証を考えた。また、自分の生命に対して、愛情をもって育んできた家族の思いに気付かせた。これらの教材と実体験を考えあわせ、振り返りを発表した。	道徳の教科書 東京書籍
196	湘南三浦	小６	道徳	いじめ	道徳の教科書の題材を使用しながら「友だちとの接し方を見つめ直そう」というテーマで、自分自身の話す言葉について見つめ直した。「ばかじゃん！」という言葉に対して一人ひとり感じ方や言葉の受け方は違う。そうであるならば、これから友だちと接するときにはどうしたらよいか。言ってよいことと悪いことの分別、相手との関係性、自分の気持ちを伝えることの大切さを知り、これからの接し方について考えた。	「ばかじゃん！」 （東京書籍）

197	湘南三浦	小１	道徳	生命の尊さ	日々の生活経験の中で生きていることの素晴らしさを感じ取ることができ、「生きている証」を実感できるよう学習を進めた。命に関わるような事故や病気等の経験をした児童はいなかったが、主人公と自分を重ね合わせて考える姿が見られた。「いのちは自分だけでなく、周りの人にとっても大切だ。」と振り返り、家族への感謝の思いを表現する児童もいた。当たり前の日々があることへの感謝、いのちの大切さを実感し、これから自分たちにできることについて話し合った。	「いのちがあってよかった」 （東京書籍）
198	湘南三浦	小１	道徳	防災教育	もし、大人がいない時に地震が起きたらどうするか、いろいろな場面を想定してどう行動したらよいのかを考えた。	
199	湘南三浦	小５	道徳	命の尊さ、有難さ	北原敏直さんの「祈っているために」という詩や三丁目の夕日の「七夕祭り」という教材を手掛かりに、不治の病と闘う同世代のこどもたちの存在を学び、自分たちが当たり前に生きていることの有難さや命の尊さについて学びを深めた。こどもたちのホスピスにてボランティア活動をしている方を講師に招き、ホスピスで暮らすこどもたちへ手紙を送る活動を行った。児童からは、自分の命の有難さに思いを持てたという感想があった。また保護者からも同様の声が聞かれた。	講師：こどもホスピスの職員 教材：「祈っているために」「七夕まつり」
200	湘南三浦	小複合	道徳	相互理解、寛容	自作教材を用いて、自分ではない他の人に起きていること（いじめ）や公平にするために支援を受けている他者のことなどを題材に、「関係ない」「不平等だ」「ずるい」など、狭量な思考に陥りがちな児童へ、朝会を通じて投げかけた（発問）。これを受けて各クラスで考え、学年の発達段階に応じて「ひとりが大切にされるということは、みんなが大切にされるということ」について考え、共有を図った。	自作教材、 全学年で実施
201	湘南三浦	小３	道徳	生命の尊さ	教材からぼくと祖父母の関係性を読み取り、それを自分事として考えた。身近に祖父母がいる家庭が多いため、祖父母に対する主人公の気持ちは共感できる児童が多かった。家族としての祖父母を大切な存在として認識しており、もらった自分の命は家族のために役立てたいという思いを持つ児童が多くいた。	おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね
202	湘南三浦	小６	道徳	はなちゃんのみそ汁「命はどこにある？」	若くしてガンに侵された母親のブログと、その旦那さんと娘さんの手記から、命について考えた。その人物に共感していくとともに、自分と重ね合わせながら命の在り方、生き方に目を向けた。「命はどこにある？」という問いには「自分の中だけではなく、大切に想っている人・想われている人、一緒に悲しんで一緒に楽しむ人の中にもある」「人の中だけはなく、その近くにある」など〈つながりの中にある〉命に気づいたようだった。	教材 「はなちゃんのみそ汁」（文藝春秋） 「はなちゃん12歳の台所」（家の光協会）
203	湘南三浦	小５	道徳	生命の尊さ	東日本大震災際に残った一本松をもとにつくられた物語から、命について考えた。物語だけでは、実際の場面とのつながりが薄くなると考え、過去のニュース番組をもとに、一本松に人々が寄せた思いに触れ、命の大切さについて考えることができた。元旦に石川県で地震が起きたこともあり、より一層考えることができたようだった。	教材 「一本松は語った」（東京書籍） 「奇跡の一本松の12本の子どもたち」（MBS NEWS）

204	湘南三浦	小６	道徳	人権教室	国連NGO横浜国際人権センターの会長の話を聞き、DVD「国境なき医師団と正義に生きる」を見て、国際理解を深めた。児童はニュース等でウクライナでの出来事や世界のどこかで紛争が起こっていることは知っているが、そこに住んでいる人の生活や支援している人の実態については知らなかった。紛争地域で起きていることと、その中で人種や国籍を問わず命を救うために懸命に活動を続ける医師の姿を知ることで命の大切さを学ぶことができた。	講師：国連NGO横浜国際人権センター会長
205	湘南三浦	小５	道徳	生命の尊さ	道徳の読み物資料「おばあちゃんが残したもの」を通して、かけがえのない生命を尊重し大切にしようとする為にはどんな気持ちをもつとよいのかを考えた。この資料では身近な人の死が扱われていることから、児童は自分自身の経験などを重ね合わせて、人間の誕生の喜びや死の重さ、生きることの喜び、尊さなどについて話し合い、生命の尊重について考えた。一人ひとりの生命がさまざまな人々の支え合いで成り立っていることに気づき、亡くなった人が残したものから畏敬の念を感じ取っていた。	新しい道徳５ 東京書籍
206	湘南三浦	小３	道徳	『身の回りの命』	道徳の教科書の教材を利用し、身の回りの生物の命について考え、話し合った。校舎につばめが巣を作っているところを児童が知っていたこともあり、より身近に命の大切さを実感することができた。	新しい道徳３
207	湘南三浦	小５	道徳	生きているからこそ 「クマのあたりまえ」	いつも何気なくしていることことを想起しながら、生きていることのすばらしさを感じられるようにした。児童は題材の登場人物の心情に思いを馳せながら、歌うことや足を掻くこと、お腹が空いて腹が鳴ることは「生きているからこそ」だという考えに至った。更に、友達に優しくされる、試合で勝つといった喜ばしいこと、嫌なことや辛いことでさえも、生きていることの証であり、それすらも大切な瞬間だと考える児童が大勢いた。自分の大切な瞬間を守るためには、自らの生命を尊重することだと気づいた児童は、振り返りの『「生きているからこそ、感じること、できること」には、どんなことがありますか。』の発問に対して、生き生きと答えていた。	新訂 新しいどうとく⑤ 東京書籍
208	湘南三浦	小３	道徳	大切ないのち 「ヌチヌグスージ」	沖縄県の伝統的なお祭りを題材としている教材に触れ、沖縄県ではお墓の前で故人を思いながら宴をしていることを知り、宴をどのような思いでしているのかを考えた。学習後、「ご先祖様に会えたらなんていいますか」と問うと、「命をくれてありがとうございました。」「ご先祖様から頂いた命を大切にしていきます。」などの振り返りがでた。一人も欠けることなく、命をつないできた人がいるからこそ、自分の命が今あることに気づくことができたのではないかと考えた。	新訂 新しいどうとく③ 東京書籍
209	湘南三浦	小５	道徳	生命の尊さ 「太陽のようなえがお」が命をつなぐ	夏休み明けには防災教育を行っているが、2024.1.1、2011.3.11、1995.1.17等、児童自身や保護者も経験している震災のことを取り上げ、「怖い」「逃げよう」だけではなく、「命をつなぐ」ことをテーマに授業を展開した。特に、阪神淡路の震災は「震災ボランティア元年」とも言われ、その活動が今に繋がっていることを意識させ「自助」「共助」にも触れた。	能登半島の地震について、年明けから毎日話題提供をしてきた。1.17当日に、阪神淡路大震災当時の新聞や雑誌を読んだり、岡本さんの現状をニュースで見たりしながら、震災を乗り越えることを自分事として考えさせる。

210	湘南三浦	小複合	道徳	命の授業	現役の助産師さんをお迎えして、男女の体の成長のちがい・性の多様性・命の誕生のしくみについて、お話を聞く。奇跡的な確率で受精卵ができ、いろいろなことを乗り越えてお母さんのお腹のなかで成長し、無事に生まれてくまでの様子を知ることで、「赤ちゃんが生まれてくるということ自体がほんとうに奇跡的なこと」だと知ることできた。自分が今ここにいることが奇跡で「生きているだけで100点満点だ」というメッセージは子どもたちの心に響くものだった。	助産師
211	湘南三浦	小２	道徳	大きくなったね	大きくなるということは、自分が生きているあかしであることに気づき、そこから命を大切にしようとする心情を育てた。	
212	湘南三浦	小３	道徳	新しい命 命が生まれ育つこと 大切な命	生命は自分だけのものではなく、周りの人々に支えられていることに気づき、生命を大切にしようとする心情を育てる。	
213	湘南三浦	小５	道徳	優しさ・思いやり・人権	ハンセン病施設に入ることになった人々の生活と、施設で働く職員について、具体的なエピソードを交えて考えさせる授業。施設に入ることになった方々は、当時本当にたいへんな思いをした。しかし、そんな時代であっても施設内で働く職員は、ハンセン病の入所者を分け隔てなく、家族のように接し続けた。たとえば感染しないと分かっているから、手袋を外し患者とスキンシップを取っていたこと。たとえば二度と会えないはずの親と子を川越しでこっそり会わせる算段をしたこと。授業後、「施設内で働く職員は、実は私の両親です」というおまけ談話あり。子どもたちは驚くとともに、担任の溢れる愛と人徳の背景を知り、納得し誇りに感じていた。	学級担任
214	湘南三浦	小４	道徳	生命の尊さ	導入では、「生きている」とはどういうことかを話し合った。寝ること、食べること、心臓が動いていることなど、様々な意見が出た。次に、自分が赤ちゃんだったときのことについて、覚えていることを発表した。その後、教材「生きているしるし」を読み、みんな赤ちゃんだったことがあり、周りの人たちが自分の誕生に喜び、自分自身がかけがえのない存在であることを知った。学習の最後には、かけがえのない命を持ち、生きていくことの尊さを感じ、今後の生活について、「友達と楽しく過ごしたい。」や「何事も全力で頑張りたい。」など、日々の生活を前向きに過ごしていきたいと感じることができた。	
215	湘南三浦	小５	道徳	命の大切さ	光村図書に「命の大切さ」という主題で「命の詩-電池が切れるまで」を扱った。かながわ「いのちの授業」ハンドブックにも掲載があったため、指導ガイドも参考にしながら授業を行った。当たり前にある命。そしてそれがまだ先まで続くだろう、命の終わりなんてまだ先のことだと感じていて、そもそも”生きている”ことが当たり前で、終りなんか考えてもみなかった児童にとって、改めて「生きる」ことは当たり前ではないということ、大切にしなければいけないということ改めてに気付いていた。大切にするのはまず自分。自分を大切にできない人は、相手を大切にすることはできないというメッセージを送った。	・教科書「命の詩」 光村図書 ・神奈川いのちの授業 ハンドブック「命」

216	湘南三浦	小４	道徳	命の不思議さ	１１月半ばに教科書を用いて「命の不思議さについて考えた。児童は、”命”について、初めに「一つしかない」「大切なもの」という共通認識を持っていた。機械との違いを中心に”命”とはどういうものかについて深めた。児童の振り返りの中には、「命には気持ちがあって、嬉しいも悲しいも大切にしたい」「機械はたくさん同じものが作れるけど私たちはお母さんから一人しか生まれない」など、授業初めよりも”命”について考えを深めていた。また、自分の命だけでなく祖父母や父母など今までの命のつながりについて考える児童もいた。	・教科書 「生き物と機械」 光村図書
217	湘南三浦	小５	道徳	命の大切さ	命は大切なものだと漠然と考えていた子どもたちが、病気によってこの世を去ったゆきなさんの詩や思いにふれることで、これまで考えなかった命の一面を知ることができた。この学習を通して、子どもたちはあたり前のように過ごしている１日がいかに大切であるかということに気づいた。「これからも精一杯生きていきたい」「自分もほかの人も大切にしていきたい」という振り返りからわかるように、改めて「命」について考え、より大事にしていきたいという思いをもつことができた。	道徳５きみがいちばんひかるとき(光村図書) 『電池が切れるまで』 宮本雅史（KADOKAWA）
218	湘南三浦	小２	道徳	生命の尊さ	病気のゾウのアヌーラが倒れないように、２頭のゾウが寄り添って支えたという実話を通して、命や助け合うことの大切さに触れた。また、「命を大切だと思ったこと」を考えさせた。	光村図書 「がんばれアヌーラ」
219	湘南三浦	小３	道徳	大切なものは何ですか	「大切なものは何ですか」とういう題材において、あなたは命を大切にするために何ができるでしょう？ということを、それぞれの体験談や本文に登場する蝉や虫たちに置き換えて考えたりすることでいのちの大切さを育んだ。	
220	湘南三浦	小１	道徳	親切、思いやり	登場人物の気持ちの変化を考えることを通して、相手に優しくすることのよさについて考え、相手のことを思いやり、優しく接しようとする実践意欲と態度を育てる。	教材名　はしの　うえの　おおかみ （出典：光村図書「きみがいちばん　ひかるとき」）
221	湘南三浦	小６	道徳	ふれあい体験授業	妊婦体験セット、妊婦さんの身体的な辛さ、不便さを感じ取った。 出産を控えた妊婦さんとのふれあい体験を通して、妊婦さんの思いや、町の保健師さんの話から赤ちゃんの成長の様子について聞き、自分が長い時間大切に守られてきたことや家族、友だちのいのちの大切さについて考えた。	町の子ども育成課職員 町保健師
222	湘南三浦	小６	道徳	限りある命を懸命に生きる	祖父の死をきっかけに、命の意味を深く考えるようになった信二の姿を通して、命の重みについて考えさせ、人間の死の重さや命のかけがえのなさを理解したうえで、限りある命を懸命に生きようとする考えを深めた。	道徳　光村図書 「おじいちゃんとの約束」
223	湘南三浦	小３	道徳	かけがえのない命 「大切なものは何ですか」	虫たちがそれぞれのいちばん大切なものについて話し合う姿を通して、命を大切にするとは、どういうことかについて考えた。自分たちの生活、身のまわりに目を向けたときに、自分自身、家族、友だちの存在に気づかせるような話につなげるようにした。振り返りには、「家族や友だちを大切にしたい」「自分の命も大切にする」などといった考えが見られた。	

224	湘南三浦	小３	道徳	大切なものはなんですか	セミは、虫たちに一番大切なものを尋ねた。コガネムシはお金、アリは食べ物など、大切なものを挙げていく中、アゲハチョウは、池に落ちて動かなくなったモンシロチョウの話をする。セミは、みんなの話を思い出しながら、一番大切なものについて考えこむ。生き物たちがそれぞれの一番大切なものについて話し合う姿を通して命を大切にするとは、どういうことかについて考える。「友だちや家族に優しくして、生きているものを大切にしながら行動したい」という意見を述べている児童もいた。	どうとく３ きみがいちばんひかるとき（光村図書「大切なものは何ですか」）
225	湘南三浦	小５	道徳	一人ひとりの命のすばらしさ	人や生き物が「同じでちがう」ことはなぜ素晴らしいのかを考えさせ、一人ひとりの命がかけがえのないものであることを理解したうえで、それぞれの命を尊重し、大切にしていこうとする心情を育てる。「一人ひとり違うからこそ個性が生まれるし、違う意見が出ておもしろい」という意見を述べる児童もいた。	道徳５ きみがいちばんひかるとき（光村図書　「同じでちがう」）
226	湘南三浦	小３	道徳	「大切なものは何ですか」 内容項目D 生命の尊さ 主題：かけがえのない命	夏、土の中から出てきたセミが「いちばん大切なものは何ですか。」と虫たちにきくと、虫たちは、「お金」「食べ物」「体が丈夫なこと」「自分の家」「勉強」と答えていく。その話を聞いていたアゲハ蝶が母の見つめる中、池に落ち、命を落としたモンシロチョウの話をする。みんなの話を思い出しながらセミは考える。読者である児童もセミと一緒に命について考えを深めた。他の虫たちが大切だと言ったものは、命あってこそのものだということ。自分たちが命を大切にするために何ができるか考えた際には「食べ物を残さない」という考えから、自分たちは他の動物や植物の命を頂いていること、他の国には食べるものが無く死んでしまう人たちもいること、など考えを広げることができた。また、親は「自分の命が無くなっても子どもの命守りたいと言っている」との発言から自分の命よりも大切にしたい命があるという親の思いにも触れることができた。	
227	県央	小１	道徳	ひととのかかわり	それぞれのクラスで担任が選んだ絵本の読み聞かせをし、担任の思いを聞いたり、感想を伝え合ったりするなどして人権について考える活動をした。いじめについての動画を見ることで、いじめに関して自覚させ、いじめは許さない気持ちを育もうとした。	動画　家庭人権学習動画「いじめについて」 動画　「にこるんといっしょにまちたんけん」
228	県央	小５	道徳	生命の尊さ	「命の種を植えたい」を読み、様々な苦難を乗り越えて、一人でも多くの命を救おうとした緒方洪庵の姿から、生命の大切さについて考えた。また、今の自分が置かれている現状を踏まえて、世界の子供たちの中に貧困や飢餓で苦しんでいる人がたくさんいる問題に対してどのように向き合うか話し合った。世界の子供たちの状況を見ると、自分たちが恵まれている環境にいると感じ、安全に命が守られている状況に感謝している児童がいた。	道徳「生きる力」日本文教出版
229	県央	小複合	道徳	親の愛情を知るいのちの尊さ	特別支援学級の担任が妊娠していることをきっかけにして、どのように児童自身が周りに祝福されて生まれてきたのかを知る。お腹の中の赤ちゃんの最初の大きさや生まれてくるときの体重を、図やペットボトルに水を入れて重さを感じさせた。また、母親は食べ物の制限など細心の注意を払っていることを伝えた。この学習を通して、愛情をもって大切に育ててくれていたことを感じるとともに、自分の命も友だちの命も傷つくと悲しむ人がいることを理解したり、実感したりしている児童がいた。	特別支援学級

230	県央	小３	道徳	命が生まれ育つこと	生命が周りの多くの人々の支えによって守られ、育まれている尊いものであることを理解し、自他の生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとして学習を展開した。登場人物の「健一」が生まれてきた時の周りの人々の思いを考えていく中で、自分の生命は周りの人にとっても大切なものであると気付き、まとめでは、周りの人たちに支えられたことに感謝したい、自分や友達の生命を大切にしたいという思いが高まった児童が見られた。	教材名 「お父さんからの手紙」
231	県央	小複合	道徳	思いやり	人権週間の中で、「ねずみくんのきもち」を教材にし、全校道徳を行った。縦割り班に分かれ、各班の担当教員が発問をし、班の中で意見交流をした。友達を大切にしなければならない理由を考えたり、友達にされてうれしかったことを振り返ったりする中で、相手を思いやる心について理解を深められた様子が見られた。	教材名 「ねずみくんのきもち」 複合学年 小学校１年生から６年生
232	県央	小５	道徳	限りある命 「命」	教材を読み、生命の大切さについて考えた。11歳で病気のため亡くなった少女の生き様や詩から特に限りある命に注目した。少女の生き様や詩からどのようなメッセージを受け取ったか、少女の生き方をどう思うかなど考えさせた。また、心情メーターを使い、自分自身は命を大切にできているか、少女が見て恥じない生き方ができているか示させた。 「病気だから」「余命があと少ししかないから」ではなく、自分事として命の大切さを身近に感じさせたいと思い授業を実施した。	「小学道徳生きる力」（日本文教出版） 教材：「命」 補助資料：子ども自殺件数、写真や映像
233	県央	小３	道徳	命が生まれ育つこと 「お父さんからの手紙」	教材を読み、命が生まれ育つことについて考えた。お父さんの手紙に書かれている出来事から、お父さんや家族の気持ちを考えることで、命は自然に生まれ育っているものではなく、親や家族の手によって守られ、育てられていることに目を向けさせた。自分の命も、友達の命も、多くの人々の支えによって守られ、育まれていることに気付き、自他の生命を大切にしてほしいと思い授業を実施した。	「小学どうとく生きる力」（日本文教出版） 教材：「お父さんからの手紙」
234	県央	小複合	道徳	いのちのはなし	人間の命の誕生を受精から生まれてくるまでを中心に話をされた。折り紙にあけた小さな穴を受精卵に見立て、目に見えないぐらいの小さな命が、子宮の中で少しずつ大きくなっていきながら、お母さんやお父さんに見守られ、話しかけられて育っていく様子を子どもたちは熱心に聞いていた。誕生日には両親に感謝の気持ちを伝えたいと感想を述べる児童もいた。	助産師会
235	県央	小１	道徳	かずやくんのなみだ	どんな理由があっても意地悪をしたり仲間外れにしたりすることをせず、思いやりをもって誰とでも分け隔てなく仲良くすることについて話し合ったり、自分の意見をノートに書いたりした。	しょうがく　どうとく いきるちから　１ 日本文教出版
236	県央	小４	道徳	いじりといじめ	いじりといじめについて考え、いじりはいじめにつながることに気づき、誰に対しても分け隔てなく接するためにはどんな考えが大切なのか話し合ったり、意見を書いたりした。	小学道徳 生きる力　４ 日本文教出版

237	県央	小２	道徳	生命の尊さ 「やくそく」	担任の車の運転の経験と交通事故にあったことを児童に話し、より身近に交通事故は起こること、ニュースなどで交通事故に関することが報道されない日はないなど、児童が想起しやすい状況を共有し導入として組み込んだ。そこから命はなぜ大切なのか？誰が悲しむかをグループで話し意見を出し合う。そのあと、本教材を範読し、主人公の行動から命を失うような事故につながる可能性があることを確認した。また、交通事故に遭いそうになったことや児童の体験や話しから主人公がなぜ自分との約束をしたのかを考え、児童一人ひとり命についてこれからどう大切にしていくかを学習した。	小学どうとく 生きる力２ 日本文教出版
238	県央	小４	道徳	相手を大切にする心情を育てる 「いじりといじめ」	導入で「いじりといじめはどう違うのか」を考え、本時へ入った。資料をもとに、登場人物それぞれの気持ちを想像し、考えたことを話し合った。いじられた側がどんな気持ちだったかについて着目し、いじったつもりでも、相手が嫌な思いをしているならいじめと同じということや、友達の失敗を笑ったりばかにしたりすることはせず、相手を大切にすることが大事ということに気づいた。普段の自分たちの行動を振り返らせたことで、これからの生活の仕方についても考えることができた。	小学どうとく 生きる力４ 日本文教出版
239	県央	小２	道徳	国際理解 「世界中のこどもたちが」	「世界中のこどもたちが」の歌を歌い、歌詞の意味を考え、自分たちの生活を振り返る実践を行った。当たり前のように、食べ物や水を飲んだり食べたりできる。学校へ通うことができる。感情も自由に表現することができる。そんな当たり前の生活ができることについて振り返った。当たり前の生活の中から、自分たちは、平和であること・幸せであること・学校で勉強ができること・苦労がないことなどに気付くことができた。最後にどんな世界中になると良いのか、替え歌を作り、歌うことでさらに、考えを深めることができた。	「世界中のこどもたちが」の歌
240	県央	小１	道徳	いのちってなあに 「わたしがおねえさんよ」	赤ちゃんの誕生を心待ちにする「わたし」の気持ちを通して、命の大切さ・尊さについて考える授業実践を行った。自分たちが生まれたときの、家族の気持ちを考えさせたり、実際に小さい弟や妹がいる友達の話を聞いたりしながら、自分は家族に期待されて生まれてきたこと、誕生を誰よりも喜んでくれたこと、一人一人の命はかけがえのないものであることなどを学習した。また、この学習を通して、小さな生き物や植物の命も、これまで以上に大切にしていきたいと考える児童もいた。	しょうがく　どうとく いきるちから　１ 日本文教出版
241	県央	小４	道徳	生命の尊重	「ヒキガエルとロバ」について、ヒキガエルをいじめた登場人物の気持ちの変化について考えた。話し合いを通して、どんな生き物にも、自分と同様に一つだけの命があることに気付き、命の大切さについて考えを深めた。命は自分や他の人の命でも動物の命でも、生き物なら区別をつけずに暮らしたいという意見が多数出た。授業終末には、身の周りの命を大切にするために、自分たちにできることはどのようなことかを考えた。	日本文教出版 生きる力４ 「ヒキガエルとロバ」

242	県央	小２	道徳	地域の行事に親しむ 「花火に　こめられた　ねがい」	新潟県長岡市の長岡大花火大会では、戦争で亡くなった方々への慰霊の思いが込められた白い花火が上がる。他にも新潟中越地震の復興の思いが込められた花火「フェニックス」などの話を、主人公のゆうとは、おばあちゃんから教えてもらうといった内容だ。児童たちは、亡くなってしまった人々の命や、戦争や地震で悲しい思いをした人々の思いを想像しながら、実際の長岡大花火大会の映像を視聴した。「込められた思いを考えながら見る花火は、いつもの花火より心に残った。」「感動した。」「亡くなった人々を忘れないでいたい。」と言った感想をもっていた。	日本文教出版 小学道徳　生きる力
243	県央	小６	道徳	安全な暮らし	「学校を愛する心」を主題とする『ぼくたちの学校』から関連して、災害時に命を守るためにできることを考えた。災害発生時の学校での対応や、家にいたときの対応、自分にできることやしなければならないことをクラス全体で考えた。併せて「つらいことがあったときは我慢しなくてよい」という気づきや、「自分だけは大丈夫という油断が命取りになる」ということを改めて確認できた。	日本文教出版 小学道徳　生きる力
244	県央	小２	道徳	いのちの授業 「まりちゃんとあさがお」	昨年度朝顔を育てたことを思い出させてから、本文を範読した。範読後、朝顔が咲いたとき嬉しかったこと、種を今年も家で蒔いて育てたことなど子どもたちから声が上がった。ただ、昨年の朝顔と今年咲いた朝顔のつながりを意識している様子はなかった。その、「昨年度集めた種を、今年も蒔いて育てた。」という経験を取り上げ、朝顔だけでなく、自分たちを含めた生き物全体の命のつながりについて全員で考えた。授業後、子どもたちに書かせた感想には、「命はつなぐものだとわかった。」「お父さんのお父さんのお父さんのお父さんの、ずっと前からぼくはつながってる。」「命がつながることはとても大切なことだと思いました。命はずっとつながり続けることができるからです。命をつなげることができなければ、世界はすぐにさびしくなってしまいます。だから命は大切です。」と、命の大切さ、つながりについて考え、自分たちも大切につないでいこうという気持ちをもつことができていた。	かながわ「いのちの授業」ハンドブックの低学年対象題材から。
245	県央	小３	道徳	いのちの授業 「かわいそう」 「しかたがない」「あたりまえ」	自分たちが日常口にする機会の多い食肉について、ワーク形式で問いに自分の考えを答えながら進んでいく内容だった。「食べるのはかわいそう。」という意識が強くなってしまわないかという懸念があったが、設定がはじめから「肉料理」と食材になっているところからだったので、子どもたちは抵抗なく考えを深めることができたように思う。生きている豚を食肉にするところからだと、小学生の心にはその重さがおさめきれないのではないかと感じる。授業後の子どもたちの感想には、「食べ物を食べるときは、生き物の命をとっているのだから、大切に、残さず感謝して食べる。」「ぼくの命をつなぐために、食べ物になってくれている。」「私たちも、生き物の命をつなぐ手伝いができるかもしれないと思った。」と、自分たちと他の生き物との関りについて考えることができていた。	かながわ「いのちの授業」ハンドブックの中学年対象題材から。
246	県央	小５	道徳	生命の重み	題材名「命の種を植えたい～緒方洪庵～」 様々な苦難を乗り越えて、一人でも多くの命を救おうとした緒方洪庵の姿から、生命がかけがえのないものであることを感じることができた。 また、「子どもの権利条約」についても考え、世界の子どもたちの現状やユニセフの活動を知ることができた。 自分の命と他者の命どちらも守っていこうとする気持ちをもつことができた。	小学道徳　生きる力５ 日本文教出版

247	県央	小複合	道徳	盲導犬 キャラバン	児童が盲導犬や視覚障がいについて正しい知識を身に付け、目が見えない人や見えにくい人の手伝いが当たり前にできるようになることを目的として実施した。まず、日本盲導犬協会の方から、視覚障がいについて映像を交えての説明を聞き、いろいろな見え方や困り感があることを知った。そして、盲導犬ユーザーの方から、盲導犬との生活や上手な手伝いの仕方について話を聞き、代表児童が手伝いの体験をした。授業後に各学級で振り返りの時間をもち、一人一人が学んだことや考えたことを絵と文章でカードにまとめた。	〈講師〉 日本盲導犬協会 〈対象〉 全学年 〈教材等〉 講師と盲導犬ユーザーの方、盲導犬が来校し、講話・体験を行った。
248	県央	小６	道徳	「命のアサガオ」 内容項目： Ｄ生命の尊さ	限られた生命を力の限り生き抜こうとした少年や、その思いを受け継ぎたいとアサガオを育てたお母さんの思いから、かけがいのない生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとした。 「命のアサガオ」を読み、登場人物の思いについて考え、話し合った。その後、児童は、「せいいっぱい生きる」とは、自分にとってどう生きることかを考え、ノートにまとめた。	日本文教出版 小学道徳　生きる力
249	県央	小４	道徳	生命の尊さ「ヒキガエルとロバ」	本題材は、ヒキガエルに小石をぶつけている子どもたちの様子から話が始まる。その後、自分も辛い状況にあるロバが、ヒキガエルの命を守る行動をし、それを見ていた子どもたちがその様子を眺めていた場面で終わる。どんな思いで眺めていたと思うか児童に聞くと、生き物に対してひどい行動をした後悔の気持ちで眺めていたといった意見が多く出た。そこから自分達の日頃の行動を思い返し、「虫にひどいことをしてしまったから、虫の命も大切にしたい」「自分の飼っている動物の世話をこれからもしっかりしたい」など、身の回りの小さな命も大切にしていこうという考えをもつことができた。	日本文教出版 小学道徳　生きる力
250	県央	小４	道徳	道徳教育 「とってもいいね、わたしらしさ　あなたらしさ」	11月末の人権週間では、神奈川県の人権教育学習教材「人権学習ワークシート集」の教材を使用し、児童の実態に応じて各学年が資料を選択して授業を行った。 ４年生は、「とってもいいね、わたしらしさ　あなたらしさ」の資料を使い、自分がどのようなことが好きかを考えることから、自分らしさに気付かせた。また、友達の好きなことについて知ることで、他の人のよさや、違いを認められるような授業を行い、自分自身について考えることができた。	神奈川県人権教育学習教材　ホームページ参照 「人権学習ワークシート集　小中学校編　第15集」
251	県央	小複合	道徳	命と成長に関する教育 「わたしたちの心」	児童一人ひとりが「かけがえのない大切な存在」として、自他のいのちを大切にし、相手を思いやり、互いに尊重しながら豊かな人生を送ることができるよう、学習室では「わたしたちの心　～いいとこ見つけよう～」を主題に授業を行った。心の成長や発達、異性への関心、友達のいいところ見つけを通して、友達を肯定的にとらえることで思いやりの心を育むとともに、認められることで自己肯定感を高めることもできた。	幼児教育資料参照 保健指導おたすけパワーポイントブック ≪小学校編≫ 妊婦体験人形 （アーニ出版）
252	県央	小４	道徳	生命の誕生	生命の誕生について学習しました。赤ちゃんになる前の大きさが米粒ほどであることを知りました。また、出産の様子をＤＶＤで見て、お母さんは大変な思いをして子どもを産んでいることに気づきました。そして、実際の赤ちゃんの重さの人形を一人ひとり抱き、ずっしりした重さに「意外に重い！」「こうやって抱っこしたんだ！」と感想を言っていました。一生懸命育ててくれた家族に感謝の気持ちをもち、これからも家族を大切にしていきたいと決意を胸にしていました。	やまと♡いのちの教室

253	県央	小４	道徳	人の誕生	胎児が母親のおなかの中でどのように成長して、どのように生まれていくのかをスライドやビデオなどを基に学習した。授業の中では胎児の大きさを表した資料や赤ちゃんの人形を用いることで、児童は人の誕生する尊さを感じていた。また、自分自身を大切にしていこうとする前向きな姿勢が見られた。	市役所職員
254	県央	小３	道徳	小さないのち	国際教室の子どもたちに、動物愛護センターの様子を描いた写真と物語入りの絵本を読み聞かせることを通して、いのちの大切さを知り、自分たちにできることや、自分たちのいのちの大切さを考えさせた。	絵本「小さないのち まほうをかけられた犬たち
255	県央	小４	道徳	生命の誕生	生命の誕生について学習した。赤ちゃんになる前の大きさが米粒ほどであることや成長過程の早さについて学んだ。また、出産の様子をＤＶＤで見たことで、生まれてくるまでに大変な思いをしていることに気づくことができた。実際の赤ちゃんの重さと同じくらいの人形を抱き、いのちの重さを実感していた。	やまと♡いのちの教室
256	県央	小２	道徳	がんばれアヌーラ	多摩動物公園での実話をもとに授業をおこなった。この時期の児童は、命が大切なものであることは理解している。しかし、命があることがあたりまえのこととして捉えている児童も多い。また、ほかの生き物の命が、自分の命と同じように大切であることに思いが至らないところも見られた。そこで、病気になってしまったゾウのアヌーラを助ける２頭のゾウをはじめ、多くの助けによって支えられるアヌーラの姿をとおして、命が他者によって支えられることについて考えさせることができた。	光村図書 道徳２年 きみがいちばんひかるとき
257	県央	小１	道徳	生命の尊さ 「いきているって」	息をしたり、食べたり、遊んだりするなどの当たり前のことは生きているからこそできるというのを詩を通して、自分が生きているということについて考えさせ、生きているからこそできる当たり前のことを喜び、命の尊さを大切にしようとする感情を持たせた。児童たちは最初内容について戸惑っていたが、今当たり前のようにしていることは大切なことで宝物と発言する児童もみられた。	光村図書 道徳　１
258	県央	小４	道徳	「いのちの誕生」	いのちの始まりからいのちの誕生までのお話だった。いちの始まりが約0.1㎜（校庭の砂の一粒くらい）だということに子どもたちはとても驚いていた。いのちの始まりからいのちの誕生まで長い月日をお母さんのお腹の中で大切に育てられたことが実感できた。出産の様子を動画でみて、お家の人が子どもたちの誕生をどれだけ喜んでいたのかが伝わった。また、お家で自分が生まれたときの様子を聞くきっかけにもなった。いのちの重さがわかる内容だった。	講師は医師。 ４年生３クラス、同日に各クラス別時間で行った。
259	県央	小４	道徳	生命の尊さ	本授業では、生き物と機械の違いを通し、生命の尊さについて考え命を大切にする心情を育てることをねらいとした。導入では、自分自身の生きていることはすごいと思った経験を振り返った。その後、教科書の題材を通し、機械の犬と生きている本物の犬の違いや、ロボットと人間の違いを比較しながら生きていることについて考えた。終末では、自分の命の大切さについて、「命は一人にひとつしかない。」「お金で買うことができない大切なものである。」という思いをもたせることができた。	４年　きみがいちばんひかるとき（光村図書）

260	県央	小２	道徳	生命の尊さ	「ぞうさん」の歌のかあさんの鼻が長いから子供も鼻が長いという歌詞から、いのちはつながっていることを考えた。	道徳２　きみがいちばんひかるとき
261	県央	小４	道徳	やまといのちの教室	始めは点のような大きさだっだった命が、おなかの中で大きく育って誕生するまでの過程や、人形を使って赤ちゃんが自分の力で外の世界に出てくる過程などを見せてもらった。また、授業の最後には実際の赤ちゃんの重さの人形を一人ひとり抱っこをした。自分や友だちが歓迎されて生まれてきたことや大切にされて育てられたことを感じられたようだった。	講師は、大和市すくすく子育て課・助産師、大和市立病院小児科医。赤ちゃんが生まれる瞬間のＤＶＤや赤ちゃん人形など
262	県央	小１	道徳	いきているって	いきていることの素晴らしさを知り、生命を大切にすることについて考える。自分がふだんどんな感覚や感情をもって生活しているかについて改めて自分を見つめた。当たり前に感じられる感覚や感情を大切にし生きているすばらしさを共有しあい、命の大切さを学んだ。	道徳　光村図書
263	県央	小４	道徳	生きているしるし	いきていることの素晴らしさを知り、生命を大切にすることについて考える。私たちの命がなぜ大切なのか考え、見つめなおす。私たちの命は親から子、孫へと大切に紡がれている命のバトンである。君たちの命が守られているように、君たちが守っていきたい次の命をみつけ、つなげていく。先祖代々から、繋がれてきたいのちのバトンを絶やさずつなげていくこと、命の大切さを学んだ。	道徳　光村図書
264	県央	小４	道徳	いのちの授業	・胎児のときや出産の様子。 ・生まれてきた後の話。 ・赤ちゃん人形を抱っこする体験 ・生命の尊さについて	助産師
265	県央	小３	道徳	生命の尊さ 「ヤゴ　きゅうしゅつ大作戦」	学校のプールにいるヤゴの救出をする取り組みの実例を通して、身近な自然に目を向けることについて考えさせた。児童は「トンボがいるということはトンボを生かしている生物もいるということ。命はつながっている。」「引地台公園のきれいな風景を守りたい。」という感想を持つことができた。	１時間
266	県央	小２	道徳	いのちを大切に 「がんばれアヌーラ」	病気になってしまった象のアヌーラを助けるチャコとタカコ、飼育員や獣医たち、声援を送る全国の子どもたちの願いが叶い、アヌーラが回復していく姿を通して、命の尊さや命は他者によって支えられていることについて考えた。授業後、「身近な人が病気になった時に自分がどんなことができるか」という活動につなげることで他者の命を助けるために何ができるかも考えさせた。	どうとく２「きみがいちばんひかるとき」（光村図書）

267	県央	小１	道徳	やさしい気持ちで	登場人物の行動を通して困っている人を助ける大切さについて考えた。うさぎの行動を通して人にやさしくする大切さや心情について話し合い、考えを深めていった。 児童は学校生活の中で自分ができた優しい行動を思い起こし発表し合った。そして優しい行動には声をかける、手伝う、誘う、ゆずる等たくさんのものがあり、優しくし合うことで「よい気持ち」で過ごすことができることを実感した。	どうとく１「きみがいちばんひかるとき」(光村図書) 「くりのみ」
268	県央	小１	道徳	内容項目 「自然愛護」 主題 「しぜんとなかよく」	導入では、動植物の世話をした経験を振り返りながら、動植物との関わり方に意識を向けられるようにした。生活科であさがおを栽培した経験や家で生き物を飼っている経験をもとに発表する児童や、動植物に対して優しく接したいと語る児童が多く見られた。振り返りの場面では、実際に自分が植物を育てているときの気持ちとも重ね合わせながら、植物に対してだけでなく、自然界の動物に対しても優しい気持ちをもちたいという意欲をもつことができていた。その気持ちを大切に、生活科では、虫や生き物に触れ合う時間をつくっていった。	どうとく１「きみがいちばんひかるとき」(光村図書) 「あさがお」
269	県央	小１	道徳	D（17）生命の尊さ 生きているっていいな	「いきているって」自分が生きているということについて考えさせ、生きているからこそできるあたりまえのことを喜び、命を大切にしようとする心情を育てた。	どうとく１「きみがいちばんひかるとき」(光村図書)
270	県央	小複合	道徳	セラピー犬と触れ合おう	セラピー犬が特別支援学級にきて、児童と触れ合う体験活動を行った。実施前の保護者アンケートでは、犬と触れ合ったことがあまりない、苦手と感じる児童が多くいたが、セラピー犬の協会の方の犬の紹介や仲良くなれる触れ合い方を聞き、実際に触れ合うことで児童の接し方が親しみのある接し方へ変わっていった。毛並みを触ることで感じる犬の体の温かさや、犬の歩幅に合わせた散歩など触れ合うことで自然と動物愛護の心情を育てることができた。	アニマルセラピーこころサポート協会とペット関連の企業の共同サポートにより実現した取り組み
271	県央	小５	道徳	一人一人の命のすばらしさ	生き物は全て「同じでちがう」存在であるという文章を通して、人間で命があるという点では同じだけれど、人によって顔や性格、考え方がちがうということを確認した。そして、違うからこそ生まれる大切なものがあること、自分と違うことは当たり前で、全ての人が大切にされるべき命の持ち主であることを話し合いを通して考えさせた。	「同じでちがう」
272	県央	小５	道徳	同じでちがう	・「一人ひとりが、生きている同じ人間だけど、違うところはありますか」という発問から、同じでちがうところをたくさん考えた。また、みんな違うからこそ、すばらしいことはどんなことか考えることができた。 ・「権利」とは、物事を自由に行うことのできる資格であり、幸せに生きる権利があること、また、この大切な権利をもっていることについて教材を通して考えた。	「道徳」５年 きみが いちばん ひかるとき 光村図書出版（株）

273	県央	小３	道徳	生命の尊さ	虫たちがそれぞれの一番大切なものについて話し合う姿を通して、命を大切にするとは、どういうことかについて考えさえ、唯一無二の生命を大切にし、与えられた生命を一生懸命に生きようとする心情を育てることをねらいとした。「お金」「食べ物」「家族」など様々なものが出たが、まずは「命」がないとその大切だと思うものが得られないと考える児童も見られた。	光村図書３年「道徳」「大切なものは何ですか」
274	県央	小６	道徳	生命の尊さ	全ての命は38億年も前からつながっているという文章を通して「命」は誰のものかを考えさせ、つながりの中にあるかけがえのない命を慎み深く受け止めようとする心情を育てることをねらいとした。38億年というスケールの大きさに想像がつきにくいけれど、38億年前に生まれてきた一匹でも一人でも欠けたら今の人間や自分がいないと考えると奇跡だと考えた意見がでた。その命を大切にしようとしていた。祖先が命がけで繋いできた命を大切にしようとしていた。	光村図書６年「道徳」「三十八億年の命」
275	県央	小３	道徳	「大切なものは何ですか」	虫たちがそれぞれの一番大切なものについて話し合う姿を通して、命を大切にするとはどういうことか学んだ。命はかけがえのないものであるということや、自分以外のさまざまな人が、自分の命を大切に思っていくれていることに気づいた。	３年道徳教科書（光村図書）
276	県央	小２	道徳	「おとうとのたんじょう」	「いのちのたいせつさ」というテーマで学習を行った。授業の初めに、「命は」の後に続く言葉を考えさせると「大切」「一つだけ」という考えを持つ児童が多かった。そして、授業の最後にまた同じ質問をした。授業を通し、両親が弟の誕生と成長を喜んでいる姿に気付くことで「命は親に大切に育ててもらったもの」「命は、大切にしてもらったものだから大切にしなきゃいけない」などの意見が多く出た。命の大切さについて、より自分ごととして考えが深まった児童の姿を見ることができた。	関連資料 図書室の本
277	県央	小１	道徳	「わきだしたみず」	「たすけずにはいられないこころ」というテーマで学習を行った。発問を工夫して考える内容を焦点化することで「かに」が相手のことを自分のことのように考え、命を助けようとする姿に気付くことができた。また、「かに」のお陰で助かった側の気持ちにも気付くことができた。自分の命を大切にしていこうというところまでは考えられなった児童もいたが、授業を通し、命を助けようとする人の生き方に良さを感じさせることはできた。	関連教科 図書室の本
278	県央	小２	道徳	生きてるサイン ～自分の名前～	弟の誕生を通して、自分の命は家族の願いを受けて生まれたことや、自分には生きる力があることが分っていくという内容である。児童の年齢的に弟や妹がいる子が多く、自分事としてとらえる姿が見られた。また、主人公のように、自分の思うとおり行動ができる、食事ができる、歌が歌えるなど、何気ない一つ一つの行動が生きているサインなんだと実感していた。	道徳ゆたかなこころ 光文書院 「おとうとのたんじょう」

279	県央	小１	道徳	おたんじょうびれっしゃ	道徳ゆたかなこころから、主題名「おたんじょうびれっしゃ」について授業を行った。なぜお誕生日はお祝いするのかを考えることで、自分が今日まで元気に成長してきたのは、様々な人に支えられてきただけではなく、自分のもっている生きる力にもよるのだということ学習した。児童は、漠然と「プレゼントをもらってお祝いしてもらえる日」という認識から、「生んでくれてありがとう」と両親に感謝の気持ちをもったり、どんなことがあっても元気に頑張りたいという意見が見られたりするようになった。	道徳ゆたかなこころ 光文書院 「おたんじょうびれっしゃ」
280	県央	小３	道徳	「いただきます」	「いただきます」の意味を深く考えて給食を食べたことがないと答えた児童が多かったが、この教材を通して食材の命や、さまざまな人が携わっていることに気づくことができた。社会科の「農家の仕事」では、給食で使われている野菜について栄養士の先生から話を聞いた。また、農家の方の畑を見学し、農家の仕事の工夫や思いを調べることができた。自分の生命と他の生命とのつながりが分かり、より理解を深めることができた。学習後は、身近な調理員、農家の方々に感謝をし、残さず食べようと努力する姿が見られた。	栄養教諭の話 座間市の生産野菜地図 生産者の写真
281	県央	小４	道徳	生命の尊さ	「命は大切だ」と分かっていても、そのことについてじっくり考えることが少ない児童が多かった。重い病気で亡くなった少女が書いた「命」という詩やエピソードを通して、命の大切さやかけがえのなさについて考えた。命を大切にするとは、教材のタイトルにもある「せいいっぱい」今できることを行うことであり、代わりはないものだと考えることができた。「自分のできることは何だろう？」「自分だけでなく周りの人たちも大切にしたい」と学んだことを深め、思いを持つことができた。	光文書院 「小学どうとく」
282	県央	小１	道徳	生命の尊さ	苦しんでいる友だちの命を救うために、自分ができることを考え、必死になって頑張り続ける登場人物の生き方のよさをみんなで考えた。人の苦しさが分かれば分かるほど、ほおっておけない、何とかしてあげたいという気持ちが高まり命を守ることにつながっていくのだと考えることができた。授業の最後に、自分の命がここまで成長するにあたって、どんな人に守られてきたのかを考えさせたことで、自分の命も大切にしていきたいという気持ちが高まった授業となった。	
283	県央	小２	道徳	生命の尊さ	道徳教材「おとうとのたんじょう」をもとにして、命の誕生と、その大切さについて考えた。導入として、「いのちは」の後に続く言葉について考えさせ、児童の、命に対する意識を確認するとともに、命というものへの認識を高めた。続いて教材文を読み、主人公の家に生まれた赤ちゃんの何気ないしぐさが生きているサインであることや、名前をつけることや父母の様子から、親の子どもに対する思いについて考えた。さらに、自身が生まれた時のことに思いを向け、自分もまた命の一つであることや、自分自身への周囲の思いを考え、命が大切である理由について考えをまとめ、児童同士の考えを交流した。	道徳の教科書 （光文書院） 教材文「おとうとのたんじょう」

284	県央	小４	道徳	生命の尊さ	道徳教材「せいいっぱい生きる」を通して、生命の尊さについて考えた。授業の始めに「せいいっぱい生きる」とはどういうことなのか考えさせ、意識をもってこの授業に臨めるようにした。教材内に出てくる詩を読んでどんなことを感じたか意見交流しながら、命の尊さと「せいいっぱい生きる」ことの意味について考えさせた。さらに、続いて登場人物の生き方についても意見を交流し合った。最後にもう一度「せいいっぱい生きる」とはどういうことなのか自分の考えをまとめ、考えの変容や友達の意見について感じた事などを振り返った。	道徳の教科書 （光文書院） 教材文「せいいっぱい生きる」
285	県央	小４	道徳	「命の大切さ 生きる道を考えよう」	十歳のとき、脳腫瘍の病気にかかった少女の話を読み、自分たちと同じ年の子が懸命に生きる様子を感じながら、命の大切さや、どう生きていきたいのかについて話し合った。病気の不安と闘いながらも、利き手である右手が使えなくなり左手で書き続けた詩には、どのような思いが込められているのか、少女の生きた道はどうだったのかを考えた。児童は病気と闘う少女の生き方を知り、大変なことに立ち向かっていく勇気と、相手を思いやる気持ちが大切だということを感じることができた。さらに、「少女は短い人生だったけど幸せだったと思う」という意見が多く、一生懸命生きていくことが幸せにつながっていることを感じていた。ふり返りでは、「今の時間を大切にしたい」「やりたいことをやって後悔しない人生を送りたい」と与えられた命を一生懸命生きていこうとする心情が芽生えた。	「いのちのいろえんぴつ」 詩/絵　豊島加純 絵　マイケル・グレイニエツ 文　こやま峰子
286	県央	小１	道徳	いのちのはじまり	・助産師の仕事について ・いのちのはじまり ・たねとたまご（男女のちがい） ・命の始まりの大きさ（カラーカード） ・胎児の成長と生まれるための工夫 ・誕生に寄せられる思い ・帝王切開 ・みんな生きる力をもって生まれてきている ・プライベートゾーンと約束事	講師は助産師の仕事に就かれている保護者にお願いした。 教材は、保護者自身が絵などを入れた１年生でも分かりやすい内容のパワーポイントを作ってくださった。
287	県央	小６	道徳	命と向き合う人生	獣医師の動物や人の命を守るための活動から、生きているものすべての生命がかけがえのない尊いものであることを知った。命を救い、守り抜こうとする人の生き方から、生命を大切にしようという意欲を持つことができた。	小学校　どうとく ゆたかな心　６年
288	県央	小２	道徳	生きる力「一まいのしゃしん」 Ｄ生命の尊さ	人間は元気に生きようとする力をもっていることや、多くの人たちに支えられながら生きていることが分かり、生命を大切にしようとすることをねらいとした。初めに「命」について考えを出させた後、「一まいのしゃしん」を読み、考えを広めたり深めたり、自己を振り返る活動を行った。児童の多くは、「生きる力」について「成長すること」や「頑張ること」等と考えていたが、授業が進むにつれて、「みんな生きる力をもっていて、だから大きくなっている。」や「家族も守ってくれている。」等多面的・多角的に考えたり、「自分にも生きる力があるから、元気に成長していきたい。」等と自分自身のかかわりの中で考えを深めたりする児童の姿が見られた。	小学校　どうとく ゆたかな心　２年

289	県央	小複合	道徳	人権教育 「いのちの授業」	自校の児童の実態を踏まえて、かながわ「いのちの授業」ハンドブックを参考に、いじめの四層構造について（傍観者の視点に立って考える）の資料を作成し、全学年で授業を実践した。上履きが下駄箱からなくなるという事例から命の大切さについて考えさせた。加害者だけでなく、観衆・傍観者に焦点を当て、指導を行った。昨年度の振り返りから継続的に行っていきたいという職員の意見もあり、今年度も同じ内容で行った。今年度は「いのちの授業」に加えて「いじめ０宣言」とも関連付けて行った。	（参考資料） かながわ「いのちの授業」ハンドブック
290	県央	小複合	道徳	いじめ０宣言	いのちの授業に関連付けて「いじめ０宣言」を行った。いじめを根絶するため、そして一人ひとりが安心して過ごせる学校を目指すために自分たちにできることは何かを「～しない」という否定型ではなく、「～する」や「～ができる」といった肯定型で考えさせた。自分事として関わることができるよう、一人ひとりが考えたものを紙に書いて一年を通して掲示を行った。	
291	県央	小２	道徳	生命の尊さ 資料名「おとうとのたんじょう」	資料「おとうとのたんじょう」を読み、新しい家族の誕生を通して、「生きる力」と命の大切さについて考えた。資料の中で、新しい命に対する両親の思いを想像させることで、自分たちも同じように祝福されて誕生し、家族から大切に育てられていることに気付かせた。なぜ命が大切なのかという問いに対しては、「命はたった一つだから」「たくさんの人たちに大切にされていて自分だけの命ではないから」「命がなくなったら何もできなくなってしまうから」という考えが発表され、児童は、命について多面的、多角的に捉えるとともに、自分自身の命を大切に生きようと改めて感じることができた。	光文書院 「小学　どうとく　ゆたかなこころ　２年」
292	県央	小４	道徳	生命の尊さ	本時では、児童に「生きるということの意味」について考えさせることで、自分たちが何事もなく生活できる幸せを実感してほしいと考えた。本教材は、実例であっても自分事としてとらえることは難しいと思い、病気の当事者よりも、影響を受けて人生が変わった医師に焦点を当てて、希望や未来に向けて考えさせることで生命の尊さについて意識できる授業展開をした。児童からは、振り返り文で「自分にできることを精一杯やって生きたい」という言葉が多く出ていた。	ゆたかな心：あたらしいどうとく光文書院より資料名「せいいっぱい生きる」
293	県央	小３	道徳	生命の尊さ	本時では、児童に「いのちのつながりとは、どういうことか」を問い、命の連続性について考えさせた。自分の命は過去から受け継がれたものであること、未来に受け渡していくことなどが理解できるように、教材文のコウちゃんの先祖の家系図をつなげて考えさせた。児童たちは、先祖の一人でも欠ければ、今の自分がいないと知ることで、自分も命をつなぐ一人だということを理解したようだった。また「自分の命も他者の命も大切にしたい」という発言が聞かれた。	ゆたかな心：あたらしいどうとく光文書院より資料名「いのちのまつり」
294	県央	小５	道徳	いのちをいただく	生命を尊重することは、言わずもがな大切なことであり、自らも他の生命とつながり、支えられて生かされていることもまた重要なことである。人は誰もが、自分以外の生物の命の上に成り立って生きていて、命をいただくことで、生きているともいえる。しかしながら、児童たちの日常の中で、そのことを意識する機会は多くはない。食品として店頭に並んでいる肉や魚からは、命を感じることは極めて難しいように思う。パッキングされた精肉などがそこに至るまでにどのような命の過程があったかを知ることで、自分が他の生命の支えによって成立していることを再確認させ、児童たちにとっての「生きる」ことについて考える機会とした。	「いのちをいただく」 内田美智子　作 諸江和美　絵 西日本新聞社

295	県央	小６	道徳	生命のメッセージ	12月にある全校音楽集会で、「いのちのうた」という合唱曲を披露した。その際に、歌詞の意味をより深く理解するためにも道徳科と関連させた授業を行った。道徳科の教科書「ゆたかなこころ」に掲載されている、交通事故で最愛の息子を失った女性の話を読み、いのちのミュージアム展の存在やその女性の思いを知り、限りある命を輝かせるために命を大切にしようという気持ちを高めた。	ゆたかなこころ６年『生命のメッセージ』
296	県央	小２	道徳	命の誕生	道徳科の教科書「ゆたかなこころ」に掲載されている『おとうとのたんじょう』を読み、命の大切さについて話し合った。教材の中の主人公と自分を重ね、自分が生まれた時にも家族が喜んでくれていたのではないかと考え、自分が他者から大切にされていることに気づく発言が聞けた。また、自分自身も命を大切にしていこうという前向きな気持ちを高めることができた。	ゆたかなこころ２年『おとうとのたんじょう』
297	県央	小５	道徳	生命の尊さ	「命をかけて命を守る-山岳警備隊-」の教材を通して、かけがえのない命を守るために働く人たちの思いや、命の大切さについて考え、自他の命を大事にしていくためにできることを考えて、友達と伝え合った。	ゆたかなこころ５年光文書院
298	県央	小４	道徳	生命の尊さ	「せいいっぱい生きる」の教材を通して、尊い生命をもって、今生きていることのありがたさを感じ、自他の幸せに向かってせいいっぱい生きようとすることについての自分の考えをまとめ、伝え合った。	ゆたかなこころ４年光文書院
299	県央	小６	道徳	いじめの恐ろしさ	いじめが原因で不登校になってしまったり、自殺をしてしまったりした例を挙げ、自分が被害者の立場だったらどんな気持ちになるのかを考えた。また、実際にいじめのＳＯＳを手紙として出している例を挙げ、手紙の返事を書く活動をした。	ＮＨＫ ｆｏｒ Ｓｃｈｏｏｌ「いじめをノックアウト」
300	県央	小１	道徳	うちのねこ	動物と触れ合った経験やその時の気持ちを伝え合った後、主人公はどうして飼っている猫の気持ちが分かるのか考えた。児童からは「ずっと一緒にいるから」「大切だから」「家族だから」という意見が出された。次に人間と動物の同じところはどこかという問いを出すと、「生きていること」「心臓が動いていること」「温かい」との声があがった。人間も動物も同じように生きていて、命があることを確認した。最後に生きているとはどういうことか考えると「体が温かい」「ごはんが食べられる」「歩ける」「楽しい」「悲しい」と自分が考えた「生きる」がたくさん出された。生きることについて考える時間となった。	道徳教材「うちのねこ」
301	県央	小２	道徳	おとうとのたんじょう	自分の命は家族の願いを受けて生まれてきたことや、自分には生きる力があることを理解し、自分の命を大切にしようという気持ちをもたせた。	光文書院　「小学どうとく　ゆたかなこころ２年」
302	県央	小１	道徳	いのちのすばらしさ	『手のひらを太陽に』の歌を聴き、「いのちの輝き」について考えた。また、日常生活の中で、嬉しかったり悲しかったりしたことについて振り返ることで、心が動くような様々なことができるいのちの素晴らしさについて考えた。さらに、いのちが輝けるように応援してくれている人たちの存在に気づくことができた。	手のひらを太陽にみんなみんないきている（道徳・光文書院）

303	県央	小６	道徳	命と向き合う人生	動物管理センターで働く職員の、殺処分されてしまう動物たちを助けるための活動について考えた。また、命を守ろうとする職員の気持ちについて考えた。 児童からは、「生き物を飼うということは、命を預かることだと思った」や、「動物だけでなく自分たちの命も大切にしなければならない」などの意見が出た。	命と向き合う人生 （道徳・光文書院）
304	県央	小５	道徳	大切な命を守る	山岳警備隊の仕事から、私たちの命の支え合いについて考えさせた。具体的には、命を守る仕事にはどんなものがあるかを、能登半島の地震から想起させた。そういう仕事をしている人々は、どんな思いで仕事をしているのかを考え想像し、助けられた人は、どんな思いで生きていくと思うのか考えさせた。さらに、自分自身の命について、「支えられている」と感じた時はどんな時かを考えさせた。これらを通して児童は命の大切さを考え、活発な意見交換ができていた。	光文書院　「小学道徳　ゆたかな心　５年」
305	県央	小４	道徳	五百人からもらった命	一人の命を救うために、見ず知らずのたくさんの人たちが行動できたのはなぜか、自分がこれから命を大切にするためにできることを考えた。また、自分だったら、見ず知らずの人に献血をできるかを考え、話し合いをさせた。	五百人からもらった命 （道徳・光文書院）
306	中	小２	道徳	教材名「生まれるということ・いのちのつながり」	まどみちおさんの「ぞうさん」を題材にして、自分が家族に似ていることからいのちのつながりを感じる場面を考えた。「いのちのまつり」という絵本の読み聞かせをすることで自分の命が生まれるのはたくさんの先祖の命がつながっていることなどを考えさせた。 児童はいのちのつながりから心情的なつながりまで考えを広げていた。	
307	中	小４	道徳	人権教育 「ひとつのことば」	言葉一つで傷ついたり、嬉しかったりすることについて、子どもが体験を振り返りながら言葉の大切さについて学んだ。 自分の言葉で相手が傷ついたり、喜んだりするということに気付き、生活に生かすことができるようにこれからの生活について考えた。	講師：平塚市人権擁護委員協会
308	中	小１	道徳	生命の尊さ	日々の生活で感じること、楽しさや、痛さ、美味しさなど振り返ることで、生きているから感じられることだと自分の生活を見つめなおした。また、これからも当たり前のことを感じられることは尊いことであり、大切にすべきことだと考えを深めた。	みんな　いきてる
309	中	小５	道徳	生命の尊さ 『命の詩―電池が切れるまで』	『命の詩―電池が切れるまで』という教材から、自分に与えられた命について考えた。 『命』という詩で、作者が伝えたかったこと、「精一杯生きる」とはどういう生き方をすることか考えることで、児童からは「人の命は電池と違い交換できない。与えられた命を一生懸命生きていきたいと思った。」という振り返りが見られた。	教材：道徳『命の詩―電池が切れるまで』
310	中	小５	道徳	生きる喜び	東日本大震災で被災した人々を励ました「アンパンマンのマーチ」の歌詞の意味を考えた。自分にとっての「生きるよろこび」とは何かを考え、生きている喜びや将来への希望をもてるようにした。	アンパンマンがくれたもの

311	中	小５	道徳	一人一人の命のすばらしさ	自分と友達の「同じでちがう」ところを見付け、「ちがうからこそすばらしい世界ができる」のはなぜか考えた。 生きていることの不思議さやすばらしさを感じる心情を育てようとした。	同じでちがう
312	中	小３	道徳	生命の尊さ	「大切なものは何か」について考えさせたとき、「家族」「命」「お金」など様々な意見が出てきた。大切なものは何かについて考えるために、教科書の教材を活用した。登場する昆虫たちが大切にしているものについてそれぞれ語っている中、池に落ちて動けなくなったモンシロチョウの話を聞き、それぞれの昆虫が本当に大切なものは何かについて考えはじめた。そこで、子どもたちにも再度大切なものを考えさせることで、自分の命の大切さだけでなく、他者の命の大切さにも気付くことができた。	どうとく３ 光村図書
313	中	小１	道徳	主題：生きているって 内容項目：生命の尊さ	教科書教材を基に「生きている」ということについて考えた。「自分が生きている上で当たり前にしていることは、自分が生きているからこそできる」ということについて考えることができた。さらに、自分一人ではなく、友達や家族、先生などの助けを得て、それらのことができるということも考えた。このことを日常生活につなげ、一人ひとりの「生きている」を大切にしよう、と授業を終えた。	教材「いきて　いるって」 出典：どうとく１　きみがいちばんひかるとき　　光村図書
314	中	小５	道徳	生命の尊さ	みやこしゆきなさんが書いた「命」という詩を通して、生命の尊さを学習した。「命をむだにする」＝自殺をしたり、人を殺したりいじめたりする人がいるのはどうしてだろう。それを救うにはどうしたらよいのだろう。命はかけがえのないものであり、それは自分にとってだけではなく、関わっているすべての人々にとってである。 最後に、みやこしさんが残した「せいいっぱい生きよう」に込められた願いを共有した。「堂々と悔いのないように生きる。」「周りの人を大切に生きる。」「生きててよかったと思えるように。」（児童の振り返りより一部抜粋）	「命の詩―電池が切れるまで」道徳５　きみがいちばんひかるとき（光村図書）
315	中	小３	道徳	D　生命の尊さ 主題 「命を使うとは」	「命を大切にするとは、どういうことか」という発問に対して、児童は「人を傷つけない」、「危険なことをしない」など、してはいけないことを考えた。学習の中で日野原重明さんの詩を読み、児童は「命を大切にするとは、誰かのために自分の時間を使うこと」という新しい考え方を知った。詩の全文を連ごとに掲示し、一つ一つの言葉の意味について丁寧に考えた。また、「誰かのために自分の時間を使うこと」の意味について小グループで考える時間を長めにとり、児童の疑問を全体で共有し、考えをまとめていった。授業の最後には、これから自分のもつ時間をどのように使っていきたいかを考え、命の在り方について真剣に考える姿が見られた。	教材図書 「しかえししないよ」 日野原 重明：詩 いわさき ちひろ：絵
316	中	小１	道徳	生命の尊さ	自分が生まれた時のことで家の人に聞いた話を、発表したり聞いたりして、「誕生すること」の大変さや不思議さを実感していた。また、たくさんの人達に見守られ愛情を注がれて成長したことに改めて気付き、「自分らしさ」や「かけがえのなさ」を大切にこれからも成長を続けていけるとよいと感じ取れるようにした。さらに、どの人にもかけがえのないたった一つの命があることを知り、「自分も友達も大事にしないといけない。」という考えをもつことができた。	道徳教科書 「ちいさなふとん」 （光村図書）

317	中	小１	道徳	生命の尊さ	息をしたり、食べたり、遊んだりすることは生きているからこそできるという内容の詩を通して、自分が生きているということについて考えさせ、当たり前にできていることを喜び命を大切にしようとする。	いきているって 光村図書　道徳１年
318	中	小６	道徳	いのちの授業 「いじめについて」	実際にあった最終的に自死を選んでしまった中学生の事例をもとに、いじめについての講演をしていただいた。嫌がらせの様々な事例を、児童一人一人が「強いいじめ」なのか「弱いいじめ」なのか「いじめではないのか」について考えた。同じことをされてもそれぞれの感じ方にばらつきがあり、児童も他者とのとらえ方の違いを感じることができたようだった。村松弁護士は話の中で、いじめをしていけないのはもちろんだが、周りにいる人がどうするかで、いじめがしやすくなるかどうかは変わってくると言われていた。また、いじめられている子に、寄り添ってあげてほしい。もっとできるなら、いじめている子にやめなよと言うだけでいじめや暴力はなくなっていくと話されていた。	スクールロイヤー
319	中	小複合	道徳	人権週間 「ちょっとだけ」	世界人権週間に合わせて、人権週間を全校対象に行った。学年に合わせた人権やいのちに関する書籍を読んだり、全校放送の中で、一人一人を大切にすることについて講話を行ったりした。低学年では、「ちょっとだけ」という絵本の読み聞かせを行った。「自分の弟・妹が生まれたときのことを思い出した。」「自分もママに甘えたい時がある。」などの感想が生まれ、弟が２人いる児童が、目をうるませながら絵本の読み聞かせを聞いている姿もあった。自分自身や他者を大切にすることや、生まれてきた命を大切にすることなどを考えることができた。	「ちょっとだけ」 瀧村有子作 福音館書店
320	中	小４	道徳	自然愛護	「静岡県の御前崎海岸でウミガメの保護活動が行われている。ウミガメの産卵時期に合わせ保護監視員は、無事にふ化して海に帰っていけるように見守っていく。御前崎の小学生も保護活動に参加し、地域全体でウミガメを見守っている。」といった内容の教材を読み、自然を守ることや小さい命の大切さを考えた。たくさん卵があっても生きることのできない命も数多くあることや、多くの敵がいることに直面しながらもたくさんの温かい心で守られていることを知り、自分達もまた守っていきたいものはあるか考えた。	道徳教科書『きみがいちばんひかるとき』光村図書 P.54-60「いのちをつなぐ岬」
321	中	小４	道徳	あらゆる暴力から自分自身を守るために	CAP(子どもへの暴力防止)プログラム　　Child Assault prevention 子どもがあらゆる暴力(いじめ・誘拐・性暴力など)から自分自身を守る力を持っていることに気づき、その力を発揮できるようにするためのサポートプログラムを実施した。 児童が大人に相談するロールプレイを行い、教員も児童から相談を受けた時の対応の仕方をロールプレイで体験した。講義が終わったあとには、別室でCAPスタッフが待機し、相談したいことがある児童は話を聞いてもらった。	講師：認定NPO法人エンパワメントかながわ

322	中	小５	道徳	一人一人の命のすばらしさ	「同じでちがう」をテーマに自分自身について向き合い、友達と同じところ、違うところについて考えた。違うところでは、見た目の違いから、好きな事、趣味などの違いに気付き、考え方が人それぞれ違うことまで考えられた。同じところでは、人間、命があることを考え、命の尊さに気付くことができた。改めて考えることで、命の大切さを学ぶとともに、一人一人の違いに気付き、自分自身と相手を思いやる心について話し合った。同じでないから言い合いやケンカが生まれる、違うからこそ話し合う必要があると理解することができた。	教科書「きみがいちばんひかるとき」光村図書
323	中	小５	道徳	「命の大切さ」	神経芽細胞腫という病気を患っていた11歳の少女が書いた『命の詩―電池が切れるまで』という詩やエピソードを教材として扱った。電池と命を関連付けている詩を用いて、電池と命の似ているところ、違うところを確認しながら、「命は電池とは違い、とりかえることができないこと」を考えた。終末では、児童一人一人が「せいいっぱい生きるとは」という形で、文章にまとめた。学習を進めていく中で、日々の生活があたりまえではなく、自分の命や周りの人の命を大切にしていく重要さに気付く児童が多くみられた。	光村図書　道徳 『命の詩―電池が切れるまで』
324	中	小１	道徳	「いきているって」	教科書の挿絵を５つ示し（ご飯を食べる、友達と一緒に本を読む、怪我をする、眠くなっておんぶをしてもらう、顔を洗う）を見て、自分が生きているなと感じる場面を共有した。児童からは、「野球をしているとき」「体が大きくなったとき」「笑っているとき」などが挙がり、自分の日常に目を向け、普段感じている当たり前の日常を大切にしていくことを考えた。	
325	中	小４	道徳	いのちの不思議さ「生き物と機械」	愛玩用のロボット犬と実際に生きている犬について書かれた教材を読んだ後、双方の違いについて話し合った。生き物にはロボットにはもつことのできない「自然治癒力」「想像力」や「子孫を残す力」、工業製品にはない「個性」があることに気付いた。自分たちがそのような特別な力をもっているのは、両親や何世代も前からのいのちのつながりの賜物であることに気付くことができた。両親から引き継いだいのちを次の世代に引き継ぐ大切さに気付いた児童もいた。	道徳４ 「きみがいちばんひかるとき」光村図書 ロボット犬の動画
326	中	小４	道徳	生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする	自分の生まれたときのことを父親から聞いたちえ子が考えを巡らせる姿を通して、一人ひとりの命の大切さについて考えさせ、多くの人々に支えられている尊い命を大切にしていこうとする心情を育てた。子どもの感想として、「1/1400兆の中の唯一の1人なので、とても運が良かったので命を大切にしよう」などがあった。	授業者　学級担任 教材　　光村図書 「生きているしるし」
327	中	小２	道徳	支え合う命	病気のゾウのアヌーラが倒れないように、２頭のゾウが寄り添って支えたという実話を通して、「命は多くの人に支えられている」という心情を育むことをねらった。「命は大切」そんな当たり前だけれど、ぼんやりとしか理解していない年齢と内容だからこそ「だから、命は大切なのか。」と思えるように学習を進めた。授業後の１週間は「やさしさ発見大作戦」と題し、人からの優しさやぬくもりを感じられたことを記入できるワークシートを配布した。継続的に取り組んだことで、自分たちの身の回りには多くの人が関わり、支えていることを再認識することができた。	きみが いちばんひかるとき２ 「がんばれアヌーラ」

328	中	小１	道徳	なかよくするにはどっちがよい？	テレビ視聴後、よい謝り方とよくない謝り方を実演、謝る役と謝られる役をどちらも経験させた。ふりかえりを行った後、衝突が起こりやすい活動として風船バレーを行った。 ロールプレイは効果的であった。実演することで違いを比較しやすくなったり、体験することで理解しやすくなったりした。衝突が起こりやすい活動をあえて設定することで、直前に学んだことを実際の場で活かすことにつながり普段よりも良い言動が多く見られた。また、衝突が起きても、ふりかえりや行動の修正がしやすくなっていた。	「ごめんなさい」 出典「で～きた」NHK for　school
329	中	小４	道徳	生命の尊さ	いのちについてイメージマップを描き、なぜいのちは大事なのか考える。いのちを輝かせて「せいいっぱいいきる」ために、自分でできることを考えていく。	道徳の教科書（学研）わたしのいのち
330	中	小４	道徳	生命の尊さ	４年生として、一年間命を大切にできたか振り返るとともに、家族の誕生や愛情を語り合う。 担任の出産、流産の経験をもとに、いのちの尊さ、生まれてくることの素晴らしさを考える。	道徳の教科書（学研）おばちゃん、がんばれ
331	中	小４	道徳	自然や動植物を大切に	日本で生まれたアカウミガメは、メキシコ沖まで流れつき二十年以上かけて大人になる。その間に、食料不足や寒さ、他の動物に食べられて命を落とすものがいる。という話をすると、児童からは「かわいそうだ。」という意見が出た。しかし、死んでいったウミガメも色々な動物のえさになり、またそれを食べた動物もまた、誰かに食べられて、どこかでウミガメのエサを育てるのに役立っていることを学び、生き物は支え合ってい生きていること、自然の素晴らしさや不思議さについて考えを深めた。	「新・みんなの道徳④」より「ウミガメの命」 NHK for schoolより「アカウミガメの産卵」
332	中	小１	道徳	生命の尊さ	いつも元気なうさぎの女の子が、ひどい風邪を引いて寝込んでしまい、翌朝、元気になると日常のいろいろなことがとても素敵に思えるという話。子どもたちは、自分自身が熱を出したときのことを思い出すことを通して、毎日元気に遊んだり学校に行けたりする嬉しさや、家族に優しくしてもらったことに対して感謝の気持ちを持つことができた。振り返りでは、当たり前の生活を大切にする気持ちや健康に生活していこうとする気持ちが高まっている様子が見られた。	新・みんなのどうとく①
333	中	小３	道徳	生命の尊さ	小児がんの女の子が若くしてこの世を去る話。女の子の両親の思いが３年生に伝わりやすい言葉でしっかりと綴られている。子どもたちは、生命は有限であり、限られた生命を精一杯生きることが大切であることや、両親をはじめとした多くの人に守り育まれていることを実感できた。「どうして命は大切にしなければいけないのか」という話し合いでは、命の大切さや周りの人の思いについて発表することができた。	新・みんなのどうとく③
334	中	小５	道徳	わたしは広がる	小さな頃は「わたし」が世界の全てだったが、そこに弟や友だちが入り、世界が広がることを通して、よりよく生きようとする人間のよさに気づき、人間として生きる喜びを感じることのできる生き方を考えた。自分を中心に広がる世界を書き出し、自分の経験を振り返った。意見交換を進めていく中で、友だちの広がる世界を聞くことは「ひろがる」自分をどんな時に感じたか自己を見つめるよいきっかけとなった。	

335	中	小５	道徳	心の中のりゅう	心の豊かさを追求しているブータン国を例にあげて、弱さを乗り越えようとする心の存在に気づき、人間としての誇りをもって、よりよく生きようとする態度を養う授業を行った。人間の心に内在する「澄んだ心」と「くもった心」の二つの気持ちに着目し、自分の経験を振り返りながらクラスみんなで話し合った。話し合いが進むと「くもった心がないと成長しない。」とどんな心も肯定しようと考えを深めている様子が見られた。	ブータンの映像を動画サイトで見せたことで具体的なイメージができた。
336	中	小５	道徳	道徳教材「電池がきれるまで」	病気の主人公の前向きな言葉に、子供たちは様々なことを感じ、気づくことができた。授業後の感想では「いつ病気で死んでしまうかわからないのに『命が疲れたというまで精一杯生きよう』というのはとても勇気がいることだ」「僕は嫌なことがたくさんあったとしても命を大切にしたい」「この世の中から命を無駄にする人がいなくなってほしい」など、命の尊さを切実に思う声が多く聞かれた。	5年生道徳教材より
337	中	小複合	道徳	生命の誕生	産休に入った職員に向けて手紙を書いたり、無事生まれた職員からの赤ちゃんの写真付きの手紙を読み合ったりしたことは、児童にとって、学びや成長の機会となりました。児童は、手紙を通して、感謝の気持ちを表現し、他者の喜びや悲しみに共感する力を育みました。また、職員に対する思いやりや配慮を深め、自己表現力やコミュニケーション能力を向上させることができました。産休に入った職員への手紙では、これまでの授業や活動で受けた指導や支援への感謝の気持ち、産休に入ることに伴う不安や心配、無事に出産できることを願う気持ちなどを表現しました。無事生まれた職員からの手紙では、赤ちゃんの名前や誕生日、赤ちゃんの様子や、家族の喜び、職員への感謝の気持ちなどが届き、新たな生命の誕生への喜ぶことができました。。	講師は、職員 教材は、便箋
338	中	小１	道徳	げんきでね、あげはくん	身近な自然に親しみ、そのふれあいを通じて豊かな心を形成し、動植物を愛する素晴らしさに気付き、優しい心で大切に接しようとする心情を育てることをねらいとした。生活科で生きものを育てていることと関連付けて学習をしたことで、最後まで責任をもって育てるという児童と、自然にかえしてあげるという児童がいて、教材を自分ごととして捉えることができた。	新・みんなのどうとく①
339	中	小５	道徳	母とながめた一番星	主人公が誕生した時の話を母から聞き、生きていることの幸せ、生命があることのありがたさを感得した話から、みんなの希望を背負って誕生したかけがえのない生命を大切にし、強い意志で生き抜くことを考えさせる内容である。家で自分や兄弟の出生の時の話を聞き、みんなに大切に思われ、支えられてきたことを感じていた。また、ポジティブに生きていきたい、自分も人も大切にしたいと考えることができた。	新・みんなの道徳５

340	中	小２	道徳	かがやくいのち	教材名：「ぴよちゃんとひまわり」 　ひよこのぴよちゃんとひまわりが出会い、仲良くなるが、季節の移り変わりとともに、ひまわりが枯れてしまう。そんな様子を見たぴよちゃんが悲しむ姿から命の大切さを考える教材である。 　ひまわりに元気がなくなる様子からぴよちゃんはどのようなことを思ったのか考えた。教材から命はいつか亡くなり、二度と会えなくなることを知り、どのように大切にしていきたいかを話し合った。児童は１学期の頃にお世話しきれなかった虫のことを思い出し、もっときちんと面倒見てあげたらよかったと振り返ったり、家で飼っているペットの餌やりをきちんとするようにしたいと今後の取り組みについて考えたりしていた。	学研　道徳「新・みんなのどうとく②」
341	中	小１	道徳	あたりまえが すてき	教材名「ノンノン　だいじょうぶ」 　いつも元気なノンノンが、ひどい風邪で寝込んでしまう。翌朝風邪が治ると、今まで当たり前だと思っていた日常がすてきに思えたことで、元気であることの良さに気がつくことができる教材である。 　今まで、病気になった経験や、けがをした経験を思い起こす中で、友達に会えなかった寂しさや、骨折して腕が思うように動かせなかった不自由さに気がついていた。 　食欲がわく、よく眠れる、友達と遊べることの素晴らしさに気がついた等の感想をもつことができていた。	学研　道徳「新・みんなのどうとく①」
342	中	小２	道徳	生命の尊さ 「ぴよちゃんと ひまわり」	一粒の種が大きくなるのを楽しみに、食べないで大切に育てたぴよちゃん。その世話を続ける中での気持ちの変化を話し合った。児童は、枯れたひまわりからたくさんの種が弾けたときには、ぴよちゃんの気持ちに共感して「ひまわりが死んじゃう。」と悲しい気持ちを感じていたが、約束の夏にたくさんのひまわりが咲いたことに感動し、一生懸命世話をすることの尊さや、相手のことを思い信じることの大切さ、そしてなにより生命のつながりに気づくことができた。	資料名 「ぴよちゃんとひまわり」 学研みんなのどうとく
343	中	小複合	道徳	「限られた命」	長野県立こども病院を実際に訪れ、撮影した映像や写真を提示して、何のための建物か考えた。赤い屋根の可愛らしい建物の外観からは、病院は想像し難く、学校という答えが大半だった。そこで、こども病院の紹介と院内学級について説明し、病気と闘いながら頑張って勉強している子供たちを知ると児童は驚いた。そして「電池が切れるまで」から宮越由貴奈さんの詩を紹介し、電池と命の相違点を考えた。「命は限りあるもの」という発言がでて、電池との違いに気付くことができ、「毎日を精一杯頑張って生きたい」という結論に至った。	資料名 「電池が切れるまで」 学年４～６年生 （知的３名情緒７名）
344	中	小４	道徳	わたしのいのち	おじいちゃんの話から、私にはまだ時間がたくさんあるけど、おじいちゃんに残された時間は短いんだということに気付き、一生懸命に生きることの大切さに気付くことができた。また、いろいろな人に支えられて生きていて、周りの人に「期待されている」ということに気付く児童もいた。授業の最後には、相田みつをの『自分の番　いのちのバトン』を読んでこれからどうしていくかについて話し合った。話し合いが進むと、「未来にもバトンを受け継ぎたい」や「生まれてきてよかった」など、生命の尊さに気付くことができた児童もいた。	【参考資料】 『自分の番　いのちのバトン』（相田みつを『にんげんだもの』より）

345	中	小１	道徳	自然愛護	青虫からさなぎ、アゲハ蝶に成長し、飛び立つまでを見守る主人公の気持ちを考える活動を行った。グループで、飛び立つアゲハ蝶にかけてあげたい言葉を話し合い、発表した。「今までいっしょにいてくれてありがとう。」「元気に過ごすんだよ。」など、生き物を慈しむ気持ちを感じることができた。生活科で虫を育てている時期にこの教材を取り上げたので、自分が世話をしている虫と重ね合わせて考える児童もいた。	「げんきでね、あげはくん」 ※学研「新みんなのどうとく」より
346	中	小５	道徳	「電池が切れるまで」	道徳の学習で、11才で亡くなった少女の命の詩やエピソードを学習した。その中で、自分たちと同じ年齢でなくなったことを知り、生命の尊さを自分事として捉える児童がいた。また、日頃の生活をふり返り、これから友達に優しく接したいという思いをもつ児童もいた。	新・みんなの道徳
347	中	小１	道徳	道徳「わきだした水」	池の水が干上がって、魚たちが苦しんでいるのをみた「かに」が、隣の村の泉まで穴を掘り進めるという話である。穴を掘り進める途中、大きな石にぶつかる。その時に、魚たちが苦しんでいる様子を思い出すと、一層力を入れて、昼夜を問わず掘り続け、泉まで掘り通すのである。この姿から、何としても魚たちの命を救いたいとする「かに」の心に着目させ、失っては取り返しのつかない命を助けるために、「かに」は必死に掘り進んだと子どもたちは気づいていった。	自校教諭による授業 どうとく「ゆたかなこころ」光文書院
348	中	小４	道徳	道徳「ブラジルからの転校生」	「ブラジル」というとサッカーが生活の中に根ざしていて、強い国であるという資料を提示し、「ブラジルから転校生が来たらどうする」と投げかけた。「サッカーをやって一緒に遊びたい」という子どもたちの反応から、題材を読み進めた。サッカーが苦手なセルシオ君の様子を捉えることで、「ブラジル人＝サッカーが強いと決めつけてはいけないんだなということが分かった」と初めて気づいた子もいたようだった。「セルシオ君のいいところを見つけて仲良くなっているよ」ということで、「ひろし君と同じように、お隣の人、いつも話す人、一緒に帰る人のいいところを見つけてみよう」と投げかけると、児童はうれしそうに相手の良さを見つけていた。	自校教諭による授業 どうとく「ゆたかなこころ」光文書院
349	中	小６	道徳	生命の尊さ 「いのちの授業」	神奈川県動物愛護センターの役割や活動を知る。犬は平成２５年から、猫は平成２６年から殺処分ゼロであること。犬猫の殺処分をゼロにするためにどうしらた良いかをグループで話し合う。話し合った後は実際に愛護センターが行っている取り組みについて聞く。ペットを飼っている児童、飼っていない児童、飼ってみたいと思っている児童、とそれぞれの立場で、今自分ができることを考え、命について考えるきっかけとなる内容であった。	県立動物愛護センター 愛護・指導課　企画班

350	中	小６	道徳	いのちの大切さ	「生命が人とのつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、限りある生命を懸命に生きようとする」ことをねらいとして、道徳の教科書にある『生命のメッセージ』を題材に学習を行った。『生命のメッセージ展』の様子を動画で視聴し、その後に教材文を読み、なぜ、鈴木さんが生命のメッセージ展を始めたのかについて意見交流した。また、鈴木さんから「あなたの命を輝かせてほしい」というメッセージがあり、命を輝かせるとはどういうことかを一人ひとり考えた。子どもたちは「今を精一杯生きたい。」「毎日を大切にしたい。」「命の大切さを知って、もっと大切にしていきたいと思った。」等、自分を見つめ、考えを深めていた。	自校教諭による授業 道徳「ゆたかな心」 光文書院
351	中	小１	道徳	「みんなみんないきている」	「手のひらを太陽に」の歌を聞き、いのちの輝きについて考える題材をもとに、授業実践を行った。生きていて嬉しいことや、悲しい気持ちになることについて考え、いのちがあるからいろいろなことが経験できることに気付いた。また、授業を通して、入学してから今までの間にできるようになった事、いのちがきらきらした事についても考え、もっとできることを増やしたり、応援してくれる家族や周りの人たちを大切にしたいと考えていた。	自校教諭による授業 どうとく「ゆたかなこころ」光文書院
352	中	小４	道徳	五百人からもらった命	自他の生命を大切に生きていこうとする気持ちを育む題材である。献血をすることで助けられる命があることを知り、自分たちができることは何かについて考えさせた。「献血は怖いから無理。」「大人になったら考えてやるかも知れない。」等、献血で命を助けることに繋げられない児童が多かった。また、自死についての話をし、できることはないかと問いかけたところ「友だちの話を聞いてあげる。」「相談にのってあげる。」等の答えがあり、寄り添う気持ちを持つことの大切さを共有することができた。	自校教諭による道徳 どうとく「ゆたかな心」（光文書院）
353	中	小４	道徳	生命の尊さ	道徳の授業で「せいいっぱいいきる」という単元で命について考えた。難病を患いながらもみんなを気遣い一生懸命に生きる宮越由貴奈さんが書いた「いのち」という詩から生きることは、自分のためだけではないことに気づくことができた。児童一人一人に家族からの手紙を渡すと真剣に読みこれまでにたくさんの出来事をみんなで支えてもらい、大きくなれたことが嬉しいと感動して泣き出す姿も見られた。	担任が指導 どうとく「ゆたかな心」光文書院 「電池が切れるまで」 宮本雅史　角川つばさ文庫
354	中	小２	道徳	「いのちのたんじょう」	教材を通して，名前には由来があることを知ったり，赤ちゃんの一つひとつの動きが生きているサインであることを気づかせたりした。また，弟を見つめる両親の様子から，自分も教材に出てきたちえさんたちのように，生まれたときから今まで両親たちから大切に育てられたということを知ってもらった。	光文書院しょうがくどうとく　ゆたかなこころ　２年 「おとうとのたんじょう」
355	中	小４	道徳	「できないことに価値がある」	道徳で「オリヒメ」というロボットの話を題材に「できないこと」を大切にする授業を行った。オリヒメは孤独を救う目的で作られたロボットで、会話や簡単な仕事ができる。身体を動かせない人が遠隔操作をし、お店に来たお客さんとコミュニケーションをとる。発明者のオリィさんは「できないことに価値がある。」と考え、人の命の可能性を広げている。命とは身体だけではなく、あくまでも心が主体であり、身体の状態にとらわれず、命は輝いていける。それぞれの命には無限に広がっていく可能性がある。そういった考えを学ぶ時間になった。子どもたちは身体を動かせない障がいの方に触れるのが初めてのようで、驚きながらも、多様性に触れ、命への考え方を広げていくことができた。	分身ロボット https://www.pref.kanagawa.jp/docs/m8u/tomoikitech5_orihime.html

356	中	小６	道徳	「命の授業」	助産師さんをお招きし、命の誕生についてお話を聞いた。子どもたちは生まれる前の鼓動の音を聞かせてもらったり、産声は風船を一気に１０個膨らませるほど苦しいことであることを教えてもらったりして、自分たちが一生懸命に生まれてきたことを知る。「みんなは生きているだけで１００点満点なんだよ」という言葉を何度も言って頂いた。振り返りでは、命の誕生がどれだけ奇跡的なことで、どれだけ頑張ったのかを知り、自分の命の大切さに気付いていた。保護者の方にも来校していただき、子ども達と一緒に参加していだたいた。宿題として今日聞いたことと、思ったことをおうちで伝える取り組みを行い、家族で命について考える機会にもなった。	助産師さんをお招きして、６学年全体で話を聞いた。
357	中	小６	道徳	いのちの授業	自分自身のいのちのはじまりから誕生までを知ることで、「自分のいのち」＝「自分の体、心を含む自分のすべて」がかけがえのない大切なものであることを実感できるようにした。 ・いのちのルーツ ・子宮の中での成長の様子 ・新乳児人形抱っこ体験 ・胎児心音など胎内の様子	助産師 保健センター保健師
358	中	小３	道徳	「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね」	身近な人や生き物の死の経験について、一緒に過ごした様々な思い出などとも併せて考えさせ、意見を共有した。命は何にも代えられない、かけがえのないものだということを考えさせ、「命を大切にするということがどういうことか」を考えさせた。みんなを大切に思っている、家族や友達の存在にも目を向けられるようにし、「交通ルールを守って登下校する。」や「ルールを守って友達と遊ぶ。」などの感想が出た。	東京書籍「新しいどうとく」
359	中	小６	道徳	生命の尊さ	生命のかけがえのなさを自覚し、自他の生命を大切にしようとする心情を育てた。	新しい道徳「東京大空襲の中で」（東京書籍）
360	中	小６	道徳	生命の尊さ	人間や動物の生きることの尊さを知ることから、自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする態度を育てた。	新しい道徳「命の重さはみな同じ」（東京書籍）
361	中	小５	道徳	命のつながり 支え合い	大やけどを負い、命の危機にあったコースチャぼうやを、国や法律の壁を越えて多くの人々の協力で助けたことから、命のつながりや支え合いについて考えた。命は、本当に多くの人々の思いや努力、協力によって成り立っていることが分かり、そのつながりの重さを実感していた。この道徳授業の後に書いたいのちの作文では、自らの命に関わる体験から命についてじっくり考え記述する姿が多く見られ、道徳授業を通して動いた心を発揮して、真剣に命について学ぶことができた。	「新しい道徳５」（東京書籍）『コースチャぼうやを救え』
362	中	小６	道徳	生命尊重	町の助産師さんによる講話。いのちのルーツ（子宮の中での成長の様子、体内の様子）について、パワーポイントや実寸大の人形を用いて説明があった。また、誕生日は「いのちの記念日」という話や、「生きているだけで100点満点」などのお話もあった。講話後、一人ひとり感じたことをふり返った。	講師は町の助産師さん。

363	県西	小６	道徳	「命を見つめて」	「命を見つめて」は実話であり、主人公は児童と同年代である。癌と闘い、必死に生き続けようとする姿、そして弁論大会の作文に込められた思いは、児童の心をゆさぶり、命の大切さや生きるとは何かについて様々な視点から話し合い、考えることができた。話し合いの後、主人公の弁論大会の動画を流すと、どの児童も真剣に主人公のスピーチに聞き入っていた。振り返りの時間では、「生きる」とはどのようなことかについて、児童が改めて自分と照らし合わせて実感を持って考えを深めていく姿があった。	YouTube 「命を見つめて」弁論大会を視聴することで実感をともなった学習となった。
364	県西	小２	道徳	「きつねとぶどう」	「きつねとぶどう」は感謝をねらいとしている教材である。命をかけて自分を守ってくれた母きつねとその思いに気づいた子ぎつねの気持ちを考えることを通して、日頃お世話になっている人たちに気づき、自分の生活がたくさんの人たちに支えられていることを考えることができた。話し合う中で、支えてくれる人たちの気持ちも母きつねと同じように、自分たちのことを思ってくれているのではないかと考え、感謝をすることや大切にされている自分たちの命も大切にしていこうと考えを深めることができた。	
365	県西	小４	道徳	学研　新みんなの道徳 「わたしのいのち」 Ｄ生命の尊さ	教材では、おじいさんの話から、自分は多くの人の支えによって生かされていること、命にはおわりがあること、一日一日を精いっぱい生きることに気づく。抽象的な命の概念を図示することで視覚的にとらえ感覚的にはとらえることができた。その結果多くの気付きを得ることができていた。特に『限りある命』へのとらえを強くしていた。終末では「あなたはどんなときに、精いっぱい生きていると感じるか」という問いについて考え、生命の尊さを理解し、精いっぱい生きていくことについて理解を深めた。	
366	県西	小３	道徳	学研　新みんなの道徳 「いろいろな命」 Ｄ生命の尊さ	命あるもの全ての大切さに気付き、様々な生命を大切にしようとする態度を養うことをねらいとして、教材を読み取った。登場人物の行動と自分の体験を比較しながら、命あるものへの接し方について考えを深める時間となった。	
367	県西	小３	道徳	「生命の尊さ」	導入では、自分たちが今まで飼ったことのある生き物を伝え合いながらどんな生き物の命も同じであることを確かめ、「いろいろな命を大切にするとは、どういうことか。」というねらいを設定した。教材「ひきがえるとろば」を読み、ひきがえるに小石を投げつけて遊んでいる少年たちと、傷ついたひきがえるを荷車でひかないように命を守ったろばの行為を比較した。少年たちが命を軽く扱っていること、ろばが命を守ろうと必死になっていることなどの発言があった。そして、少年たちの行為について考えた。「こんなことはよくない。」「どんな命でも大切にしないといけない。」という発表が聞かれ、生命の尊さについて考えることができたように思われた。	「ひきがえるとろば」 （学研　新・みんなのどうとく３）
368	県西	小１	道徳	いのちやしぜんとわたし	道徳の教科書である「みんなあかちゃんだったよ」を実施した。本教材の内容は、自分の成長に喜びを感じ、大切にしていこうとする心情を育てることがねらいである。本教材を通して、「自分でご飯が食べられるようになった」「ひらがなやカタカナ、漢字が書けるようになった」「一人で学校の支度ができるようになった」などの意見が出た。自分ができるようになったことがたくさんあること、見守ってくれている人がいることに気づく姿が見られた。	小学校道徳 「新・みんなのどうとく1年」

369	県西	小５	道徳	限られた命	道徳の教科書である「電池が切れるまで」を実施した。本教材の内容は、「死は悲しみだけを残すものなのか」という問いについて考えることを通して、自分に与えられた命を精一杯生きていこうとする心情を育てることがねらいである。「生きたくても生きられない人がいる」という事実から、自分自身の命の大切さにあらためて気づき、精一杯生きることの大切さを見つめ直そうと考えを深める様子が見られた。	小学校道徳 「新・みんなのどうとく５年」
370	県西	小６	道徳	生命尊重	道徳『命を見つめて』より教材を読んで懸命に生きた登場人物の心情を考え、限りある命について考えるとともに、自分だけではなく友だちや家族、周りにいる人の命も大切にできるようにという内容の話を行い、『自分を大切にする』とは『周りを大切にする』とはを考えた。	『命を見つめて』
371	県西	小５	道徳	生命の尊さ	「死は悲しみだけを残すものでなく、より強く生きていく力を与えてくれるもの」という考え方に理解を深め、自分に与えられた命を精いっぱい生きていこうとする心情を育てる。	『電池が切れるまで』
372	県西	小３	道徳	生命の尊さ	小児がんを患った六歳のケイコちゃんの「およめさん」という夢を、両親が最期に叶えるという内容である。本学級では教材文の読み聞かせ後、ケイコちゃんの父親が後に行った講演会の動画を一部視聴した。命の尊さや儚さだけでなく、家族愛にも触れた。わずか六歳で亡くなったケイコちゃんや大切に育ててきた娘を亡くした両親の気持ちに着目し、自分の命を大切にすることが周りの人を大切にすることにもつながると考えることができた。	「六さいのおよめさん」
373	県西	小５	道徳	NHK番組「クジラ対シャチ」	道徳の「生命の尊さ」として、「クジラ対シャチ」を扱った。アリューシャン列島に南の海からやってくる親子のクジラとそれを待ち受けるシャチとの命を懸けた戦いの映像を見た。窒息させようと子クジラを沈めようとするシャチと子の下に入って支えようとする母クジラや別の種類のクジラが別種類の子クジラを助けたりする映像を見た。そして、シャチも家族を守り命を繋ごうとしていることがわかり、児童たちは、命について考え、それぞれの思いを発表しあった。	NHKスペシャル「クジラ対シャチ」
374	県西	全学年	道徳	道徳的価値 「生命の尊重」	「電池が切れるまで」道徳主任教師が、宮越由貴奈さんの生涯と詩「命」を題材に学習教材を作成し、全学年で、命を大切さについて学ぶ道徳科の授業を実施した。	電池が切れるまで 「角川つばさ文庫」
375	県西	小２	道徳	個性の伸長 「きらきらみずき」	自分のよいところについて考える授業を行った。自分のよいところがわからなかった主人公が、先生や友達、お母さんに自分のよいところを教えてもらって自分の大切さに気付くという話を読み、友達や先生に自分のよいところをたくさん教えてもらった。 授業後の感想には、「みんなにほめられてうれしかった。」「自分にもとりえがいっぱいあるんだとわかった。」「自分でも自分のとりえを見つけたい。」「これからももっととりえをふやしたい。」などと、書かれていた。	

376	県西	小３	道徳	生命の尊さ	目の見えない捨て犬を見つけた「わたし」は、飼い主を探すが見つからない。団地では犬を飼えない決まりで、周りの大人が反対する中、「わたし」は友達と一緒に団地の責任者に相談に行ったり、子どもたちで世話をし続けたりして周りの大人たちの理解を得て、結局飼えることになったという実話に基づく教材である。 これまで、学級では係活動としてカナヘビや沢蟹などの生き物を飼ってきた。はじめはかわいがるが、時間がたち興味がなくなると、死んでもそのまま放置してしまうことがあった。今回の学習を通して、生き物を飼うには責任が伴うこと、人間だけでなく他のいろいろな命も同じように大切であることなどを改めて意識することにつながった。	新・みんなの道徳３ （学研教育みらい） 「目の見えない犬」
377	県西	小６	道徳	生命の尊さ	骨のガンに侵された少女が、足を切断して延命するより、歌手になりたいという自分の夢の実現を優先させ、病気と闘う話である。 児童が自分事として考えやすくするため、弁論大会の動画を視聴した後に教材文を読み、考えたことを話し合った。「もし自分だったら、死ぬのが怖いから足を失ってでも治療すると思う」「もう助からないなら…やりたいことをできるだけやりたい」などの意見が出た。振り返りでは、「今までは、生きていることが当たり前だと思っていたけど、それって幸せなんだなと分かった」「命があるってことは、感謝しなければいけないことなんだと感じた」など、命の大切さについて考えを深める姿が見られた。	新・みんなの道徳６ （学研教育みらい） 「命を見つめて」
378	県西	小１	道徳	「小さいけれどたいせつないのち」	ハムスターの写真を掲示し学習への関心を高め、生まれたばかりの赤ちゃんの様子や、お母さんの世話の仕方などを話し合った。また、赤ちゃん役とお母さん役に分かれて役割演技を行い、思っていることやハムスターの赤ちゃんに言ってあげたいことなどを考えた。活動の最後に「生きるって、すごいなぁ。」など思ったことを伝え合った。	
379	県西	小４	道徳	生命の尊さ	「いのち」について考え、‘いのちのバトンを誰からもらったのか’を考えた。人生の中で今自分がどこにいるのか、家族はどの辺りにいるのかを想像し、精一杯生きるとは、どう生きることなのかを考えた。	
380	県西	小１	道徳	生命の尊さ	身近な生き物の誕生や成長の様子を見つめ、生命あるものを大切にしようとする態度を育てることをねらいとして授業を行った。赤ちゃんを新しい巣に運ぶときのお母さんの姿からその思いを想像させ、生命を守る親ハムスターの存在があること、生まれたばかりの頃に比べて大きさや毛の有無に違いがあり赤ちゃんによって模様が違っている話を通して、命の大切さや尊さについて考えた。 学校で捕まえた虫の世話や植物の扱いなどを例に挙げて、命について自分の行動や考えを見つめ直す時間となった。	支援級にて １年生実践
381	県西	小６	道徳	人権教育	国連NGO横浜国際人権センターの方の講話を聞いた。人権や命の大切さについて考え、DVD「国境なき医師団の愛と正義に生きる」を見て、国際理解について学んだ。児童のふり返りでは、「今ある幸せはあたりまえではない。」「様々な人に自分の今の生活は支えられている」「世界中のみんなが笑顔で暮らせるようになってほしい」など自己を見つめ直し、これからの生き方を考える有意義な時間となった。	講師：国連NGO横浜国際人権センター

382	県西	小５	道徳	母とながめた一番星 【内容項目】 生命の尊さ	初めに、「命」についての既習内容を確認した。「命は自分だけのものではない」という「社会性」について挙がった。そこで社会性以外の考え方を、教科書の資料「母とながめた一番星」を読んで考えることにした。 「母親は主人公の命をどう考えているか？」という学習課題を設定し、話し合った。「母親が亡くなったら、恵子の命は無かった。」という発言が聞かれ、「家族愛」に関する視点も見られた。話し合いを進める中で「命を次の世代へつなぐ、バトン。」という発言が聞かれ、命の連続性・神秘性にも目を向ける姿が見られた。 最後に書いた子供たちのふり返りからは、「命」に対する見方・考え方が大きく広がっている様子が感じられた。	
383	県西	小１	道徳	みんなあかちゃんだったよ	自分の成長に喜びを感じ、成長していくことを大切にしようという題材である。今までにできるようになったことを思い出しながら、これからもいろいろなことに挑戦して、できることを増やしていこうという意識をもつことができた。	新みんなのどうとく１（学研）
384	県西	小２	道徳	たからものなあに	生命の誕生には、様々な人々の温かくて懸命なかかわりがある。そして、その命が家族にとってかけがえのない宝物であるということが分かることで、自分の命の大切さを自覚し、自分を大切に生きていこうとする心情を育てるための実践をした。教材を通して、生命の誕生には母をはじめ、お医者さん、周りの人たち等々様々なかかわりがあり、そのため命を大切にしなければならないということに子供たちは気づくことができた。	新・みんなのどうとく２（学研）「たからものなあに」
385	県西	小３	道徳	生命の尊さ	ひきがえるに対する人間たちとろばの行動や「命」に対する思いを比較して考えたことで、ひきがえるを助けたろばの優しさや気高さに気づくとともに、一つしかない命を大切にしていこうとする思いを高めた。さらに、「命を大切にする」具体的な行動を問うたことで、一人一人が自分にとって命を大切にするとはどのようなことなのか向き合い、考えを深めた。	・学研「新・みんなのどうとく３」より「ひきがえるとろば」
386	県西	小４	道徳	生命の尊さ	自分の胸に手を当てて心音を感じ、今生きていることを確かめるとともに、教科書の挿絵「人生の道」に自分や家族の年齢を書き込み、命には限りがあることや、残された時間の違いを捉えた。教材文のおじいちゃんに孫のゆうちゃんが「おじいちゃん、死ぬのってこわい？」って聞いたら、どう答えるかな？と問うことで、生き方や命について多様な考えが出された。また、命はだれのものかについて考えた。命がつながってきたことや多くの人に支えられて生きていることに気づくとともに、これからの自分の生き方を考える姿が見られた。	・学研「新・みんなのどうとく４」より「わたしのいのち」
387	県西	小３	道徳	いろいろな命「ひきがえるとろば」	子どもたちがひきがえるに小石を投げつけていたところ、つらい仕事でへとへとに疲れていたろばが、むちで打たれつつも、ひきがえるを避けて通り過ぎていった。この話から、命あるもの全ての大切さに気付き、様々な生命を大切にしようと話し合った。小さな命を大切にするろばの行動に感銘を受ける児童が多かった。また、石を投げた子どもたちが行動を改めてくれるとよいという意見も出ていた。	

388	県西	小３	道徳	せいいっぱい生きる 「六さいのおよめさん」	主人公は病気と闘い、お嫁さんに憧れながら天国へ旅立つ。両親は深い悲しみと無力さを感じるが、主人公は死後も両親の心の中で永遠に生き続けた。この話から、限りある命を精一杯生きていこうとする心情について話し合った。両親の深い悲しみについて、言葉にできない感情を考えていた。その悲しみを自分たちの両親には味わって欲しくないという気持ちから「自分は絶対に死なないで生きていく」という意見も出ていた。	
389	県西	小２	道徳	かけがえのない命 「たからものなあに」	日常生活の中で、周りの人や自然の生き物への命を粗末にする発言が見られる。改めて自分の命や他の命がかけがえのない大切なものと捉えさせることを目標に授業を行った。教材文の中でお母さんから自分たちが「たからもの」と聞いたわたしの気持ちや、お母さんの気持ちを考えた。お母さんの気持ちを考える中で、「子供が無事に産まれることって大変なんだな。初めて知った。」「命はたった一つしかないから大切にしないといけない」という考えが挙がった。お話についてみんなで話し合いを進めていく中で、「命」の重さをだんだんと実感しているように感じた。児童の中には、自分が飼っているハムスターが亡くなってしまった時のことを話してくれた子もいた。その児童の話を聞く他の児童は、自分事として捉え、話してくれた児童の気持ちに寄り添っていた。最後の感想では、「たった一つの自分の命を大切にする」「どんな生き物にも命があって、みんなで守っていくいきたい」などが見られた。	学研　新・みんなのどうとく２ 「たからものなあに」
390	県西	小２	道徳	生きていること 「生命の尊さ」	本教材は、いとこの赤ちゃんを初めて抱いたぼくが、お母さんから自分が赤ちゃんの頃の話を聞き大切にされていることを感じ、「命」を大切にできているか自問する。児童は、「生まれた時の様子を知った主人公の気持ちを考えよう」という発問から、お話について話し合っていく中で「自分も多くの人たちに大切にされているな」「自分一人だけの命じゃないのか」など「命」について改めて考える姿が見られた。また、学習の終盤には教師から実際に娘が生まれた時の様子や思いを児童に話した際には、真剣なまなざしで話を聞いていた。 感想には、「自分の命を大切にしたいと思った。」「たくさんの人への感謝の気持ちをわすれないで生きていこうと思った。」「これからも、友達や家族を大切にしていきたい。」など、「生きていること」について考えを深めた１時間になった。その後の生活でも「命」を大切にする言葉が生活の中でも見られる。	学研　新・みんなのどうとく２ 「だっこしながら」
391	県西	小３	道徳	命の尊さ 「目の見えない犬」	目の見えない捨て犬を見つけた主人公が、母親や団地の住人の反対にもめげず、何とかその犬を飼おうと努力するという資料を読み、命の大切さについて考えることができた。また、誰かが世話をしないと子犬が生きていけないように、自分たちの命もたくさんの人たちに支えられているということにも気付いたり、自分の命も大切にしようという思いをもったりする児童もいた。	新・みんなのどうとく
392	県西	小１	道徳	たからものなあに	主人公である女の子が母から、弟を出産したときの話や「二人はお母さんのたからものよ」という言葉を聞いて、自分の命について考える物語である。無事に出産を終えられた母親や、たからものと言われた主人公の気持ちを考えることを通して、命の大切さを学んだ。児童から「命は一つしかないから、この命がなくなったら、じぶんはいなくなってしまう。」「命を大切にしていきたい。」という感想があった。	学研 新・みんなの道徳２ 「たからものなあに」

393	県西	小４	道徳	大切な命「わたしの見つけた小さな幸せ」	余命１年と宣告された主人公が、闘病生活を乗り越え、今は徐々に普段の生活ができている姿から、主人公にとっての「小さな幸せ」とは何かを考えた。生きていることや、歩けるようになったこと、みんなと同じような生活ができていることなど、今、自分たちが当たり前に生活していることが幸せだということに気付き、１日１日を大切に生きていこうと考えた児童が多くいた。	東京書籍 新しいどうとく４ 動画「余命１年…病と闘う少年と涙の約束」
394	県西	小３	道徳	大切ないのち「いただいたいのち」	血液の病気になってしまい、治療によって元気に回復した主人公と、主人公のお母さんの思いが表れている資料を読みながら、一つしかない生命の尊さや、自分の生命が多くの人々の支えによって守り、育まれていることについて考えた。生命の大切さだけでなく、支えてもらっている周りの人への感謝を深めることができた。元気でいることのありがたさに気付き、自らの生命を大事にしたいという考えをもった児童が多くいた。	東京書籍 新しいどうとく３
395	県西	小５	道徳	「ノンステップバスでのできごと」（内容項目：親切・思いやり）	「親切にすること」について、児童は当然、よいことだと答えることができる。ただ、自ら親切な行為ができた経験を聞くと、身近な人など、関係の深い人についてのものが多かった。資料を読んで見ず知らずの人に思いやりを抱くことのできなかった登場人物の様子を考えた。その過程で、人間関係の深さの違いや、意見の相違を乗り越え、「どんな人にも同じように接する」ことの大切さを感じたり、「助けを必要とする人に親切にできるようにしたい」と発言したりするなど、人権的な視点で考えを深められる様子が見られた。また、「思いやり」「心づかい」の意味を伝える詩を紹介し、今後、自分はそれをどんな時に行為として発露できるか考えた。	教材 ・新しい道徳５（東京書籍） ・「行為の意味」宮沢章二
396	県西	小３	道徳	「ヌチヌグスージ（いのちのまつり）」（内容項目：生命の尊さ）	授業の導入で、「あなたの家族には、どんな人がいますか。」と児童に問うと、様々な答えが返ってきた。しかし、児童が考えているのは、児童自身が会ったことのある範囲での親戚・家族だった。その後教材を読むと、作中に出てきた「ご先祖様」という言葉に児童が興味をもった。そこで担任が持ってきた家系図を実際に見せ、「先生には、これだけのご先祖様がいるよ。」と具体例を示した。このことにより、「すごいたくさんの人がいるね」や「この人はどれくらい昔の人だろう」といった発言が出てきた。授業の最後には、「いのちのつながりを感じるとき」について問い、お墓参り、赤ちゃんをみたときなどの答えがあった。	教材 ・新しい道徳３（東京書籍）
397	県西	小６	道徳	かけがえのない生命	本教材の資料には、動物保護施設の玄関わきにネコが捨てられ、弱っているネコを安楽死させるか、片足を切断してでも命をつなぎとめるかの葛藤が描かれている。命を助けたいと思う登場人物の想いを想像したり、命の重さについて自分なりの意見をもったり、話し合ったりして深めていくことをねらいとしている。実践では、「動物も人間も命は同様に重い」「どんな命も助けるべき」といった命を尊重する意見が出された。	あたらしい道徳 （東京書籍）
398	県西	小５	道徳	命	※特別支援学級 教材文を読み、絵からわかることを話し合うとともに、心臓の音を聞いて感じたことをノートに書いた。 学校向け動画配信コンテンツのプログラムを視聴し、生きているからこそ出ている音のおもしろさや素晴らしさについて考えた。	あたらしいどうとく① どきどきどっきんぐ NHK for school 「ざわざわ森のがんこちゃん」

399	県西	小６	道徳	かけがえのない命	資料名の「命の重さはみな同じ」とはどういうことなのかについて、登場人物の心情などを基に考えさせた。人も動物も同じ生き物なのだから、どんな命も大切にしなければならないということや、生きていればいいことがきっとあるのでどんな命も諦めたくないということなどの意見があり、多くの児童が生きることの尊さを改めて感じていた。また、資料を読んで、命を大切にするために、自分は何ができるかを考え、グループごとに議論をさせた。戦争や災害のこと、自分の生まれたときのことなどから、命について考え直し、これからは人間だけでなく、すべての生き物の命を大切にしたいと振り返っている児童もいた。	「新しい道徳」東京書籍
400	県西	小１	道徳	主題名 たった一つの命 「いのちがあってよかった」	主人公が交通事故を起こしたことをきっかけに、自分の命の大切さに気付く題材である。児童は、主人公の家族をはじめとした多くの人たちが心配する言動から、自分の命は自分だけでなく、家族や友達にとっても大切なものだということに気付いた。教師の説話では、赤ちゃんを出産するために母親が病気になっても薬を服用せず、我が子の命を守るために過ごしていたことを話した。児童は、自分たちも家族に大切にされて生まれてきたと感じていた。振り返りでは、「自分の命だけでなく、他の人の命を大切にしたい。命はみんなで守るものだけど、自分が一番大切にしなければいけない。」と、命を大切にしていきたいという思いをもつことができた。	東京書籍 「あたらしい道徳」
401	県西	小４	道徳	主題名 何より尊いもの 「走れ江ノ電光の中へ」	本題材は、残り少ない期間しか生きられない子の父親が息子の最後の願いをかなえる実話である。本文を読み終えると「絶対にお父さんは悲しい。」という児童の発言から、「父親にとって息子はたった一人の家族であり、息子が生きているだけで嬉しいはずだ。」という意見が多数挙がった。また、息子に「生きていてよかった。」と思ってほしいから、父親やその周りの人たちが息子の夢や願いをかなえようと努力し、大切にしていると気付いていた。終末では、「人を大切にすることは、生命を大切にすることと同じである。」と振り返り、健康で過ごせていることの大切さを感じながら、これからも生命を大切にしていきたいという思いをもつことができた。	東京書籍 「あたらしい道徳」
402	県西	小２	道徳	生命の尊さ 「生きる喜び」	本単元は、生きることを喜び、生命を大切にしようとする心情を育てることをねらいとしている。事前アンケートで「自分の大切なもの」を聞くと、家族、ぬいぐるみ、命など様々な回答があった。教材「ぼく」を読み、主人公の気持ちや楽しく生きることについて考えた。終末には、絵本「おかあさんはね」を読み、家族からの視点で、生命の大切さを考えた。児童は「家族が一番大切だと思っていたけど、自分の生命、一緒にいてくれる友達を大切にするともっと楽しく生きられる」などの思いをもっていた。	教材名「ぼく」
403	県西	小１	道徳	「ハムスターのあかちゃん」	生命を大切にする心を育むために、生まれたばかりのハムスターの赤ちゃんの大きさで作られた粘土の模型を用いて、道徳の授業を行った。模型に触れた子どもたちは、「かわいい、ハムスターの赤ちゃんってこんなに小さいんだね。」と友達と話をしながら優しく大切に扱う姿が見られた。その後、挿絵を活用しながら少しずつ大きくなっていくハムスターの赤ちゃんの様子を確認し、これから大きくなる赤ちゃんへ語りかける活動を行った。子どもたちからは、「生まれてきてくれてありがとう、いっぱい食べて大きくなってね。」等の発言があった。今回の学習を通して、ハムスターの赤ちゃんに愛着を感じつつ、命あるものを大切にしようとする子どもの姿が見られた。	あたらしいどうとく① 「ハムスターのあかちゃん」東京書籍

404	県西	小５	道徳	「なりたい自分に」	学年道徳として講師を招き、「なりたい自分に」をテーマに講話を実施した。子どもたちの中には、将来の夢を具体的に考えている児童もいれば、まだ漠然としていて決まっていなかったり、不安を抱いたりしている児童もいる。講師からは、自身のこれまでの経験を踏まえた上で、「なりたい自分にはなれなかった。しかし、こうありたい自分にはなれた。」という言葉があった。子どもたちにとって、「大事なのは、自分自身がどうありたいのか」という言葉が胸に響き、感銘を受ける姿が見られた。振り返りの内容では、今回の話を通して、「将来について以前よりも明るく、そして前向きに考えることができるようになった」とまとめる子が多かった。	講師には大井町笑顔特派員（大井町地域振興課所属）を依頼
405	県西	小６	道徳	「土石流の中で救われた命」	教材をとおして、自然災害の恐ろしさや災害にあった人を助けようとする警察官や人々の行動やその思いについて学び、話し合った。今ある日常に感謝する心や、何かあった時は相互に支え合う気持ちと行動を起こせるよう努めることの大切さを知った。	（参考資料） NHKプロジェクトX制作班編「絶体絶命650人決死の脱出劇」（『プロジェクトX　挑戦者たち11』・NHK出版・2002年）
406	県西	小３	道徳	いただいた命	この時間の内容項目は、「生命の尊さ」であった。医者に血液の癌と診断された主人公の母親の心の記録が、教材内容である。本学級の児童は、手術のために大量の血液が必要だと聞いた先生やクラスメイトがお願いの手紙を作ったという話から、「命は家族だけに守られているのではなく、友達や自分の周りの人たちによって支えられていることを知った。」「ぼくの家族みんなが願っている幸せを保ちたい。」など、自分事として振り返りをしていた。また、「ぼくを支えてくれている人にありがとうと言いたい。」と、感謝の思いを行動で表現しようとする児童もいた。	東京書籍 新しい道徳　３年
407	県西	小６	道徳	『命の重さはみな同じ』 かけがえのない生命	けがをした捨て犬を安楽死させるか、治療費を払う人がいないまま手術するかを迫られるという教材文を読んだ。児童は、命を助けたいが引取り手がいなかったり、治療費を払う人がいなかったりすることを考える中で、難しい問題だと悩んでいた。獣医の「生きていればいいことがある」という考え方に共感し、人はもちろん、動物にとっても命はかけがえのないものであり、大切にしなければならないことを学んだ。	『新しい道徳』 東京書籍
408	県西	小３	道徳	大切ないのち 「いただいたいのち」	道徳の内容項目３－（１）「命の尊さ」に関わる学習を行った。道徳の教材「いただいたいのち」で、主人公が病と戦う様子を読み取りながら、生命の尊さについて考えた。３年生という学年で、徐々に「命」や「死」について具体的な体験を通して理解できるようになっている様子も見られる。病気やけがなど、児童自身がこれまでに経験してきたことを想起させながら、たった一つしかない命を大切にしようとする心情を育むことができた。同時に、自分の命を支えてくれている家族や周囲の人々への感謝の気持ちを持つことができた。	『新しい道徳』 東京書籍

409	県西	小１	道徳	生きていることのすばらしさ「どきどきどっきんぐ」	「生きていることのすばらしさ」を主題とし、学習を行った。本文では、登場人物がウサギを抱いた時の心臓の鼓動や、ケガをして母親に抱きしめてもらった時の心臓の鼓動に気づき、命の不思議さを感じることで、自分のいのちについて考えを深めることができた。展開の中で、実際に自分自身の心臓の鼓動を感じる時間をつくったり、友だちの脈拍を感じる時間をつくったりすることで、いのちが身近に存在することを感じる様子が見られた。	東京書籍 あたらしいどうとく
410	県西	小２	道徳	生命のつながり「 ゆきひょうのライナ」	一番大切なものは何かという質問から授業を始めた。児童は命と言い、命が大切なものであるということは知っていた。物語の中で主人公のライナが、魚が鳥に食べられたり、ウサギが狐に食べられそうになったりすることに心を痛める。そんな時にミミズクのおじいさんから命のつながりについて話を聞き、命について深く考える話を通して、命はつながっているもの、これまでよりももっと、命を大切にしていきたいという考えを持つ児童が多くいた。	東京書籍 新訂　新しいどうとく2
411	県西	小４	道徳	自他の命の大切さ	学校生活を振り返り、自分や周りの人の命の大切さを考えた。健康、周りの人への関わり方、交通ルール、生き物を飼うこと、給食についてなどの面から考えを深めた。「好き嫌いをしないようにすること」や「交通ルールをこれからも守っていきたいということ」「命が大事であること」「命が１つしかないこと」「命が必要であること」を今後に生かそうとする振り返りをすることができていた。一人一人命の大切さを考えることができた。	自作：「命の重み」
412	県西	小複合	道徳	生命の尊さ	朝の時間に体育館に集まり、全校道徳を行った。校長が「素晴らしい地球」写真展の中から数枚の写真を児童に紹介した。数枚の写真から感じたことを児童は近くの友達と伝え合い、その後全体で共有をした。生き物たちの様々な写真から生命の尊さを感じられた。その後も、各学級の道徳の時間に生命の尊さについての考えを深めた。また、小学校の廊下に60枚近くの写真を掲示したり、全校児童の振り返りカードを掲示したりした。一人一人が生き物の命の尊さや、生命の力強さを考えることができた。	「素晴らしい地球」写真展
413	県西	小４	道徳	いのちのおはなし	命は大切ということは分かっているが、「なぜ？」と聞かれると「どうしてだろう」と悩む子供が多くいた。そこで、日野原重明先生（医者）の実体験（命の授業）をもとに書かれた絵本「いのちのおはなし」で、命の大切さについて、改めて考えることにした。絵本に登場する人物も、子供たちと同じ４年生だったので、イメージがしやすかったように感じる。日野原先生の「命とは何だと思いますか？」という問いから始まり、子供たちが命について考える内容だった。子供たちは、今まで、深く考えたことがなかった命が、一人一人がもっている時間だと知り、「これからその時間を大切に使うだけでなく、誰かのためにも使えるようになりたい」と意気込んでいた。また、「命を無駄にしないということは、時間を無駄にしないということでもあり、一生懸命生きることが大切だ」と振り返っていた。	『いのちのおはなし』講談社

414	県西	小３	道徳	六さいのおよめさん	「自分にとって大切なものって何だろう？」という問いから一人一人が意見を出し合った。話合いの中で、「命は大切だよね」という意見が出たため、「どうしてそう思うの？」と問い返すと、深く考える様子があった。そこで、「六さのおよめさん」という物語を読んで、命の大切さについて考えることにした。世の中には、明日を生きたくても生きられない人がたくさんいるんだということを知り、命をもっと大切にしようと意欲を高めていた。振り返りでは、「自分がいなくなるとお父さんやお母さんが悲しんでしまう。だからもっと命を大切にしたい」、「命は一つしかない。死んでしまうと何もできない。だから、一生懸命生きることは大切なんだ」、「いつも、どうして命を大切にしなくてはならないのか、分からなかったけど、今日の授業で自分がいなくなると、悲しむ人がいることに気付きました」と振り返っていた。	『六さいのおよめさん』 道徳 教科者
415	県西	小４	道徳	出産への理解を深めるとともに、自分の出産時の出来事を知り、命を大切にしようとする気持ちを育てる。	１　読み物資料「おばさん、がんばれ」を読んで、出産するおばさんを励まそうとする気持ちを育てるとともに、自分の出産時について興味を持たせた。 ２　児童の両親に自分の出産時のエピソードを聞き、両親の苦労や自分が大切な存在であることに気づき、これから自他の命を大切にしようとする気持ちを育てた。	読み物資料「新・みんなの道徳　４年」 株式会社　学研教育みらい
416	県西	小３	道徳	生命の尊さ 「六さいのおよめさん」	自分と同年代の子どもの死を通して、健康でいることの有難さと命の大切さについて学習した。養護教諭が授業に参加し、病気について話をした。そうすることで、子どもでも病気になり、命を失くすこともあることを知り、命を大切にしようという気持ちをもつきっかけとなった。また、主人公の父親が書いた絵本を読み聞かせたことで、自分の命は、みんなに支えられていることに気付いた。	新・みんなのどうとく３ 学研教育みらい
417	県西	小６	道徳	いのちを見つめて	授業の始めに、「生きる」「死ぬ」について意見交流をした。その時には「生きる」とは「したいことができる。」「食べたいものが食べられる。」などの自分の感情が満たされるという感想が多かった。その後小学校で骨肉腫になった方の弁論大会の動画を視聴した。子供たちは、「命の大切さ」「家族と過ごしたい」などと熱く語る姿を真剣に見ていた。その後、改めて「生きる」ということについて考えさせると、「自分の命を軽く考えていた。」「１日１日を大切にしたい。」などの声に変わっていた。	弁論大会の動画を見ることで、命についてより深く考えることができた。
418	県西	小３	道徳	生命の尊さ 「目の見えない犬」	導入部で捨て犬・猫の数字「６００００」を提示し、何を表す数字なのかを予想させる。子どもたちの想像より遥かに多い数字から、子どもたちが切実感をもって内容に対して関心をもつことができた。目の見えない捨て犬を「拾う」か、それとも「捨てられたままにする」かの二つの選択肢から自分の考えと、その根拠を明らかにし、議論をした。どちらの選択肢もその犬のことを一番に考え、根拠としている児童がほとんどで、【命を大切にする】ことについて多面的・多角的に考えを広げ、深めることができた。	学研　新・みんなの道徳③ 「目の見えない犬」